

令和元年度

事業報告書

公益財団法人 東京動物園協会

目 次

第1 運 営 の 概 要

I. 運 営 概 要	1
------------	---

第2 公 益 目 的 事 業

I. 事 業 総 括	3
〔1〕管 理 施 設	3
〔2〕主 な 実 施 事 項	4
II. 事 業 実 績	20
〔1〕飼 育 ・ 展 示 事 業	20
〔2〕野 生 生 物 保 全 事 業	33
〔3〕教 育 普 及 事 業	35
〔4〕市 民 ・ 団 体 と の 協 働 事 業	71
〔5〕レ ク リ エ ー シ ョ ン	81
〔6〕安 全 ・ 安 心 の 確 保	92
〔7〕受 託 業 務	95

第3 収 益 事 業

I. 事 業 総 括	97
II. 事 業 実 績	98
〔1〕便 益 施 設 の 経 営	98
〔2〕そ の 他 の 事 業	100

第4 決 算 概 要

第5 事 務 報 告

I. 役 員 会 議 の 開 催	102
II. 監 査	103
III. 人 事 関 係	104
IV. 組 織 概 要	108

第1 運営の概要

I. 運営概要

平成31年度は、5月、新元号「令和」に改元され、新たな時代がスタートした年であり、また、葛西臨海水族園が開園30周年を迎えた年でもあった。

こうした節目の年であったが、8月、都立動物園においては東京都が直営で管理運営を行っていた平成17年以来となる職員の死亡事故が多摩動物公園で発生した。現在、重大事故の再発を防止し職員が安全に安心して業務を遂行できる環境整備に取り組んでいる。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、上野動物園及び葛西臨海水族園は2月末から、多摩動物公園及び井の頭自然文化園は3月末から休園となり、「シャンシャン」ブームの沈静と相俟って、4園合計の入園者数は6年ぶりに700万人を下回り約640万人となった。

このように厳しい1年であったが、協会は、使命である「動物園及び水族園事業の発展振興」、「人と動物の共存への貢献」に向け、長年培ってきた技術・経験を土台とし、我が国の動物園・水族館の先導役としての役割を果たすべく、以下の5つの取組を積極的に展開した。

1 野生生物本来の生態や魅力を引き出す「動物の飼育・展示」

豊富な飼育繁殖技術を活用して展示の充実に努め、また、国内外の動物園・水族館とのネットワークを一層強化し、展示動物の交流や、技術交流などの共同事業を推進することで展示内容の充実及び魅力向上を図った。

【主な取組】

- 周南市徳山動物園からアムールトラを導入。イタチザメの搬入による展示充実。
- 国際会議への参加や学会・研究会への職員派遣により最新の知見や飼育技術の向上など

2 「第2次ズーストック計画」の対象種など希少種を中心とした「野生生物の保全」

「野生生物保全センター」を中心に4園が役割分担し、計画的な野生生物の保全活動を展開した。また、大学や研究機関等と連携した希少種の調査研究を行うとともに、「野生生物保全基金」にオンライン寄付の導入により資金獲得手法を拡大し、保全活動への支援の充実に図った。

【主な取組】

- クロキツネザル、コアラ、ゴールデンターキン、ウィーディシードラゴン、フェネックなど希少動物の繁殖。
- アカガシラカラスバト、ルリカケスなどの保全に関する普及啓発。
- アカハライモリ、ミナミメダカなどの保全に係る調査 など

3 多様なプログラムや情報発信による「教育普及」

新たに設置した教育普及センターのもと、4園がそれぞれの特色を活かしながら教育プログラムを精力的に展開し、社会教育施設としての活動を推進するとともに、多様な媒体を活用し魅力を広く発信した。また、友の会の運営や、ボランティア等との協働事業を通じ、動物園・水族園事業への参画意識を促進した。

【主な取組】

- 教員研修、学校教員セミナー、小中学校への講師派遣、移動水族館等の実施。教師を目指す学生向けの講座（東京都実施）への協力。
- ICOM（国際博物館会議）京都大会への出展、海洋プラスチック関連展示など環境教育の普及啓発 など

4 魅力的な商品やホスピタリティあふれるサービス提供

展示動物などと連動した多様なイベントを実施するとともに、来園者ニーズを捉えた商品開発や店舗装飾を展開した。また、増加する訪日外国人来園者を対象としたガイドツアーの実施、クレジットカードや電子マネー決済の導入などにより来園者サービスの向上を図った。

【主な取組】

- 障がいのある子どもたちとその家族への観覧機会の提供。夜間開園などによる利用促進。
- シャンシャンの2歳の誕生日を記念した商品やデザートメニューなど魅力的なサービスの提供、Tokyo Zoo Welcome Center の設置 など

5 万全な施設管理や危機管理体制の整備による「安全・安心の確保」

園内施設の適切な点検・補修などにより良好な園内環境を確保するとともに、大規模災害や人為災害等に備えた各種訓練を実施し、お客様の安全・安心の確保を図った。

【主な取組】

- 施設、設備や樹木等の日常点検、剪定及び不具合への迅速な対応。
- 警視庁等と連携した災害やテロ対策の訓練、地域連携災害対策訓練の実施による災害対応力の向上 など

第2 公益目的事業

都立動物園・水族園4園の指定管理者として管理運営を行うとともに、動物園事業の発展・振興を図り、動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献することを目的に、動物飼育及び展示業務、野生生物保全業務、教育普及業務、受託業務、市民・団体との協働業務、危機管理対策を実施した。

I. 事業総括

〔1〕管理施設

名 称	住 所	開園面積 (㎡)	摘 要
恩賜上野動物園	台東区上野公園、池之端三丁目	144,048.73	
多摩動物公園	日野市程久保六丁目、七丁目、 南平八丁目	601,372.54	うち無料開園区域 77,508.22㎡
葛西臨海水族園	江戸川区臨海町六丁目	85,958.90	
井の頭自然文化園	武蔵野市御殿山一丁目、 三鷹市井の頭四丁目	115,500.00	

〔2〕主な実施事項

1. 4園共通

【動物の飼育・展示】

適正な動物飼育と魅力的な展示の充実に向け、都立動物園・水族園4園間での調整を図りつつ飼育展示業務を着実に実施した。また、高度な飼育繁殖技術の継承・発展を目指して、各園で教育普及・飼育展示研究会を定期的に開催しているほか、国内外の会議・学会・研究会等へも職員を積極的に派遣しており、各方面の専門家との人的・技術交流により、最新の知識や技術の向上を図っている。

将来を見据えた対応として、中長期的な視点から人材育成を進めるため、「人材育成委員会」を新たに設置し、人材育成体系やそのための研修制度のあり方について検討を行っている。

8月に多摩動物公園インドサイ舎において、飼育職員が死亡するという痛ましい事故が発生した。外部有識者を含む事故調査委員会による再発防止への提言を受け、動物事故再発防止ワーキンググループを設置し、4園で飼育動物による重大事故を2度と発生させないための具体的な再発防止策を検討し、飼育動物種の危険度によるカテゴリー分けとルール作りなど、その一部を実施するとともに、引き続き検討を行っている。

【野生生物の保全】

野生生物保全センターを中心に、各園で希少種等の保全活動を推進しているが、令和元年度はコアアラ、ミナミコアリクイ、マレーバク、ゴールデンターキン、オウサマペンギン等の繁殖が相次ぎ、4園でズーストック種及び保全対象種のうち、46種もの繁殖に成功した。

平成30年度に策定された「第二次ズーストック計画」対象種124種について、飼育繁殖、保全、普及等の取り組みを進め、その進捗状況に関しての評価検証を行った。その結果、今年度は対象種のうち67%で飼育繁殖の計画に沿って取り組みを進めるなど、着実に計画を推進した。

平成30年度に制定された「認定希少種保全動物園等」について、都立動物園・水族園ではかねてから希少種の保護増殖についての取り組みを積極的に行っており、4園すべてが認定を受けるべく、環境省への事前調査等の調整を進め、葛西臨海水族園については申請書を提出した。

飼育・保全のための国内外ネットワークの拡充については、大学・研究機関や国内外の動物園・水族館等との連携に積極的に取り組み、インドネシアのタマンサファリ、アメリカのサンディエゴ動物園、スリランカ王立動物園、韓国教員大学と飼育動物の繁殖協力に関するMOU・同意書を取り交わした他、新潟市水族館との間で災害時における相互協力協定を締結した。

【教育普及】

4園の連携を一層強化し、動物園・水族園の役割のひとつである社会教育機能を充実させるために、新たに設置した教育普及センターを中心に、引き続き多様な媒体を活用し、様々なプログラムを実施し、野生生物や、野生生物が置かれた環境等についての普及啓発を行った。教育普及センターでは都立動物園・水族園の教育普及活動をさらに広く推し進めるため、協会全体の教育普及事業方針を策定し、1月に開催したシンポジウムにおいて発表した。

4園連携の企画としては、障がいのある子どもとその家族を閉園後や休園日に招待する「ドリームナイト（ドリームデイ）」を開催したほか、小学校教員を対象とした「授業に活かせる『動物園・水族園』講座」においては、パンフレットを各小学校の教員数分送付するなど、きめ細かい対応を

行い応募者数が増加した。また、冬季の動物園・水族園の魅力を伝えるキャンペーン「Visitほっと Zoo 2020」において、日本産動物の中でも東京にすむいきものにスポットをあて、パネルによる解説を掲示するとともに、キーワードを集め応募してもらう「みてみよう 東京のいきもの ここにいる」を開催した。

葛西臨海水族園の開園30周年記念において月ごとにテーマを定めて各種イベントやスペシャルガイドツアーを実施したほか、各園で飼育職員が動物の生理や生態を解説するキーバーストークを多数実施した。このほか、各園とも園内での多様な教育プログラムや工夫を凝らした特設展・企画展、自然を体験するフィールドプログラム、野生生物の知識を深める講演会やシンポジウム等、楽しみながら学べる動物園・水族園の実現に向けて、各種プログラムの充実に取り組んだ。

9月に開催されたICOM（国際博物館会議）京都大会において、動物園組織としては唯一ブース出展を行い、各園が取り組む希少野生動物の保全活動について英語のパネルを制作し、世界各国から訪れた多くの博物館関係者に対し、取り組みを紹介した。

【園内サービスの提供】

上野・多摩・葛西では恒例の夏季の夜間開園を行い、期間中に様々なイベントを実施し、多くのお客様で賑わった。井の頭では前年に引き続き10月に夜間開園を行い、園内の彫刻にスポットを当てた講演会や、様々なイベントを実施し好評を得た。

こうした夜間開園にあわせた広告宣伝を行うとともに、春の「飼育の日」や、秋に多摩で開催した「アフリカフェア」、恒例となった冬季の「VisitほっとZoo」などにおいて4園連携のイベントや広告を「Visit Zoo事業」として展開するなど、機会をとらえ4園でのキャンペーンを実施した。

多様な来園者のニーズにきめ細かく対応するために、4園の入場券手売窓口においてクレジットカード及び電子マネーによる決済を9月より新たに開始した。上野においては、QRコード決済の実証実験も11月より開始している。また、新たに「サービス向上委員会」を設置し、新たな利用者満足度調査のあり方を検討し、今年度は若年層カップルを対象としたインタビュー調査を実施し、得られた結果から、これまであまりターゲットとしてこなかった若年層向けのサービス施策を検討した。

東京2020大会を見据え、訪日外国人来園者の最も多い上野の園内に、英語及び中国語に対応した案内所「Tokyo Zoo Welcome Center」を設置し、園内及び周辺観光情報等を案内するとともに、英語と中国語によるガイドツアーなどのサービスを開始した。

新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大防止のため、上野と葛西は2月29日から、多摩と井の頭も3月28日から臨時休園となった。上野におけるジャイアントパンダ「シャンシャン」ブームの沈静と相まって、今年度の入園者数は4園合計で前年度を170万人以上下回る、約640万人にとどまった。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

施設管理については、日常の巡回点検や定期的な樹木点検等により、不具合を早期に発見し、迅速に対応することで園内の安全で快適な環境を確保した。台風、集中豪雨、大雪等の自然災害に対しては、気象災害対策計画や雪害対策計画に基づき、迅速に緊急点検を実施し、不具合箇所や落枝等の早期発見・対応により、来園者への影響を未然に防いだ。

省エネ対策として、照明施設のLED化を進めるとともに、設備機器類を高効率なものへ更新し、環境負荷が少ない施設づくりを推進した。また、東京2020大会を見据え、来園者の快適性向上のため

め、トイレの洋式化など、ユニバーサル仕様への改修等を行った。

協会職員が中心となり取りまとめた冊子『動物園の緑を活用する39のヒント』を協会内で共有化し各園の植栽活用を進めるとともに、全国の動物園水族園の魅力アップした事例を紹介し意見交換する場として、第1回動物園ランドスケープ会議を共催により開催した。

危機管理については、各園において、災害対策初動訓練、テロ対策訓練、事業継続訓練、参集訓練等の各種訓練や、救急救命講習を引き続き実施した。

世界規模での大流行となった新型コロナウイルス感染症対策については、対策本部を協会内に設置し、情報収集するとともに対応策を策定した。都の判断により2月29日より上野と葛西が、3月28日より多摩と井の頭が臨時休園となったが、各園においては出勤体制を縮小して飼育等の作業を行うとともに、職員への感染を想定し、濃厚接触を回避するための執務室の分離や、応援体制の構築など、動物飼育の事業継続のための対策を行った。

情報セキュリティ対策については、集合研修を実施し、巧妙化するサイバー攻撃への対応、個人情報を含む重要情報等の取り扱いについて周知徹底した。また、協会で管理するウェブサイト等にサイバー攻撃を受けた場合を想定してサイバーセキュリティ机上研修を実施したほか、パソコン端末上の個人情報等の点検・削除、eラーニング、標的型メール訓練を実施した。

2. 恩賜上野動物園

【動物の飼育・展示】

ジャイアントパンダ「シャンシャン」♀は順調に成長し、6月12日に2歳の誕生日を迎えた。平成31年2月から開始したハズバンドリートレーニング（動物の健康な飼育と人間の安全な作業を目的として動物に自発的な行動をとらせるための訓練）により、12月には無麻酔で腕から採血できるようになった。

キリンの「リンゴ」♀に、令和2年2月、園として37年ぶりにキリンの仔、「ヒカリ」♀が誕生した。アジアゾウ「ウタイ」♀は、超音波（エコー）検査により、9月に妊娠が確認された。出産予定は令和2年10～11月頃である。

インドライオンの「シャクティ」♀が10月26日に悪性リンパ腫による多臓器不全で、「モハン」♂が11月26日に急性心不全で、それぞれ17歳で死亡した。2頭の死亡に伴い、インドライオンの飼育個体がいなくなった。

アイアイの「ヒーラ」♀を台北市立動物園にブリーディングローンにより移動した。

【野生生物の保全】

ライチョウは、生息域外保全個体群の遺伝的多様性を維持する目的で平成31年3月に富山市ファミリーパークから受け入れたファウンダーのみを用いて繁殖に取り組むとともに、課題の過剰産卵対策の継続と新たに雛へのシンバイオティクスと柿の葉の実践的投与を行った。ペアリングの結果、計12卵が得られ、10卵が有精卵でその内3卵が孵化し♀1羽が成育した。ライチョウに関する共同研究は、日本獣医生命科学大学、中部大学、岐阜大学とそれぞれ継続して実施した。

ルリカケスは、平成31年3月に、奄美大島で保護された推定3～6日齢前後の雛を受け入れたが、無事に成育し、4月28日より日本の鳥Iで成鳥♂と同居飼育を開始した。保護個体の性別はPCR解析の結果、♀と判明した。

アカガシラカラスバトは、令和2年3月末日現在、26羽を飼育し、4ペアで繁殖に取り組んでいる。飼料に関する共同研究を日本獣医生命科学大学と継続して実施した。

イボイモリは、前年度3月末日現在、成体6頭、幼体20頭、幼生20頭であったが、その後の孵化もあり、令和2年3月末日現在、生体6頭、幼体49頭を飼育している。繁殖も順調で、令和2年3月より産卵を開始し、3月末現在、56卵を確認している。

小笠原産陸産貝類であるアナカタマイマイの生息域外保全の取り組みは順調で、6月に繁殖制限のため全個体を個別飼育に変更した。その後、11月、幼貝で搬入されていた未繁殖の創始個体でのペアリングを実施し、3月31日までに64卵の産卵があり、40卵が孵化した。総飼育数は年度当初の104個体から170個体に増加している。

【教育普及】

子ども動物園すてっぷの「しのばずラボ」では、学習院大学及び協定を締結している東京農工大学と協力して、不忍池の身近な自然をテーマとした来園者向けの環境教育プログラムの開発を行っている。今年度は卒論や教職課程のカリキュラムを受け入れ、研究や教育の実践の場としての役割も果たした。

両生爬虫類館の特設展示「ハラペコロジー—なにを食べる？ どう食べる？」では、両生類・爬虫類のえさの捕え方や食べ方などを生体や骨格標本、映像やパネルなどで紹介した。8月の開園時間延長期間は、特設展示と連動した「食べる」をテーマとした展示及びイベントを行い、好評につき

特設展示の会期を令和2年12月まで延長することとした。

6月にはジャイアントパンダ「シャンシャン」の2歳の誕生日イベントとして「シャンシャンのおとしもの一成長の記録」を開催した。シャンシャンの成長を、糞を用いて振り返る企画で、ポスター展示の他、実際に糞のにおいをかいだり、お祝いのメッセージカードを掲示できる体験型イベントを行い、1,000人以上が参加した。

10月のパンダの日記念講演会では、協定を結んでいるロシアのモスクワ動物園長を招聘し、「モスクワ動物園におけるジャイアントパンダ飼育の歴史」等の講演を行った。

アウトリーチ活動では、国立科学博物館のギャラリートークへの参加及び墨田区や文京区の小学校への職員派遣を実施したが、令和2年2月下旬以降は、新型コロナウイルス感染症対策による休校の影響で、すべての予約がキャンセルとなった。また、園内の各種イベント、ガイドツアーや子ども動物園すてっぷの体験プログラム、ボランティア活動も実施を見合わせた。3月以降、臨時休園中はツイッターによる情報発信に積極的に取り組み、公式ツイッターのフォロワー数は約2年ぶりに100万人を突破した。また、園として37年ぶりに生まれたキリンの仔の命名は、初の試みとなるインターネットによる投票で実施した。総投票数は9,471票、うち半数近い票を集めた「ヒカリ」に決定し、ズーネット及びツイッターで告知した。

【園内サービスの提供】

ジャイアントパンダの観覧方法については、引き続きできるだけ多くの方に観覧いただくこと、小学生以下のお子さんが観覧しやすい環境をつくることを目的とした、二列観覧による案内を継続し、繁忙期の待ち時間短縮にもつながった。

また、園内をよりわかりやすくご案内するために、平成31年4月16日より園内マップをリニューアルした。A4(210×297mm)サイズからA3サイズ(297×420mm)と大きく見やすいサイズに変更するとともに、動物や施設などをイラストで表現することにより、人気の動物など目的の場所を見つけやすくしただけでなく、上野動物園内の緑豊かな景観と調和する色彩を定め、歴史的建造物を含めた上野動物園の様々な魅力を発見していただくことに努めた。外国語マップについては、英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語をそれぞれ製作していたが、4言語を併記した1種類に変更することで、外国人来園者もマップの選択に迷うことがなくなり、在庫管理の負担も軽減された。

更に、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、増加が見込まれる海外からの来園者の方々に、より便利に園内をご利用いただくため、令和2年1月15日より期間限定で「Tokyo Zoo Welcome Center」を開設した。主に訪日来園者を対象に、英語・中国語対応が可能なスタッフが園内や周辺観光施設の情報を提供するとともに、1日2回、英語・中国語によるガイドツアーを実施した。券売・改札・総合案内所スタッフについては、より実践的な語学力を日常的に身につけるために、月1回実施していた外部講師による語学研修を見直し、毎日の朝礼時間を活用して必要なフレーズを反復練習する「朝活英会話」を導入した。

収益事業では、昨年度に引き続き、飲食販売店や売店におけるベジタリアン向けメニューの開発を行い、導入する店舗を増やした。その他の園内サービスとして、店舗のレジや一部の自動販売機における電子決済や園内配送サービス拠点の導入、通信販売の強化、プラスチック使用量削減キャンペーンを実施した。2月26日には、東園無料休憩所内に飲食店第1号(さるやまキッチン)が開店した。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

危機管理対策では、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」に向けて国内のテロ対策が強化される中、昨年度に引き続き警察と連携したテロ対策訓練を実施したほか、地元の町会、小学校、近隣の文化施設等の協力を得て、上野動物園としては初めてとなる「地域連携災害対策訓練」を実施した。また、事業継続計画の机上訓練を実施し、マニュアルを更新した。

園内維持管理では、省エネ対策として園内施設のLED化・空調設備及び給排水設備のインバーター化の更新を推進するとともに、台風15号、19号による倒木処理、園内樹木の枝処理や園路の不陸部分の舗装、ゴリラ舎・ゾウ舎の観覧通路に設置しているミストの整備など、利用者の快適性の向上と安全確保に努めた。

また、施設の維持管理一つの取り組みとして、サーラータイの補修整備を行った。

3. 多摩動物公園

【動物の飼育・展示】

令和元年度も希少野生動物の飼育展示・繁殖に努めた。32年連続でのニホンコウノトリの繁殖を始めとして、ゴールドエンターキン、レッサーパンダ、マレーバク、チンパンジー、キリン等、様々な種において繁殖に成功した。

中でも、飼育動物の血統更新や展示維持のために国内外の動物園と連携した結果として、前年度末に実現した8年ぶりのコアラの繁殖や5年ぶりのチンパンジーの繁殖、また、1年間に6頭が誕生したキリンの繁殖により園内展示の魅力向上が図られた。

飼育関連では、園内各所での工事が本格化する中、キリンやライオンにおいて、限られた放飼場での個体の維持管理や展示の工夫に取り組んでいる。また、昆虫園では将来の展示を見据え、ハキリアリの新たな群れを2群海外より導入した。

【野生生物の保全】

生息域内、域外の両面において保全活動の取り組みを実施している。トキについては繁殖した6羽を佐渡トキ保護センターへ搬出したほか、業務委託契約に基づく定期健康診断の実施等により佐渡での保護増殖事業に協力した。ニホンコウノトリでは、IPPM-OWS（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）の計画に従って放鳥個体の遺伝的多様性を維持するため、平成25年から、コウノトリの郷公園や野田市に多摩生まれの卵の輸送を実施している。オガサワラシジミでは、園内施設を用いての交配に成功し、累代繁殖を継続している。また、小笠原で生息状況が急激に悪化している小笠原産陸産貝類であるアナカタマイマイの生息域外保全の取り組みを始めた。

生物工学分野では、EIA法によるホルモン測定を実施し、ユキヒョウやツシマヤマネコ等の繁殖生理の解明に役立てている。また、PCR法を用いた鳥類・哺乳類の性判別を実施している。ミトコンドリアDNA解析では、新たな生息を確認した地点を含むメダカ地域個体群解析、小笠原で採取したアカガシラカラスバトのサンプルからハプロタイプ解析、動物園周辺に生息するアズマヒキガエルの交雑調査等を行った。これらは保全指針を決める一助となっている。

普及啓発分野では、東京動物園協会が取り組む保全活動を、来園者にも広く伝えるため、企画展「すすめ、地球生命隊 きみも隊員だ」をウォッチングセンター1階企画展スペースで開催した。その後、同様の内容を「すすめ！地球生命隊ーともに生きる未来へー」として常設展示として設置した。小笠原における野生生物保全について、島民および一般市民への普及啓発を目的に、地元組織等と連携し、島で講演会等を実施している。

【教育普及】

コアラ来園35周年を記念して、コアラをはじめとするオーストラリアの動物観察クイズ、親子向けワークショップ、コアラの赤ちゃんの成長記録展示など、関連した教育プログラムを実施した。また、株式会社ロッテや京王電鉄株式会社との共催でスタンプラリー等を行った。なお、オーストラリア森林火災で被害を受けた動物たちの救護のため、令和2年1月から募金を集め、オーストラリア動物園水族館協会（ZAA）へ送金している。

3連休ごとに実施した通し企画「園長からの挑戦状」は、動物について園長からのミッションをクリアしていく内容で、回を重ねるごとにリピート率が上がった。

昨年度、開園60周年記念のひとつであった月間動物企画を今年度はさらに深化させ、ボランティア（DG）と職員との協働により動物観察のプログラムを毎月行った。

そのほかの一般来園者向けの教育プログラムとしては、動物解説員によるガイドツアーや飼育担当者によるキーパーズトーク、クイズラリーやキーワードラリーなど、家族連れが気軽に参加し、楽しく学べる企画を中心に開催した。また、ボランティアの協力も得て各動物舎でのガイドも積極的に行った。園内の自然を活用するプログラムとして、NPO法人樹木環境ネットワーク協会との共催で、同協会が定期的に手入れをしている雑木林で生きもの観察企画を実施した。

これまで毎年小学校の夏季休暇時期に開催していたサマースクールは、近年の酷暑を考慮して秋にオータムスクールとして開催した。また、同じ理由により写生画コンクールの募集期間も学校の夏季休暇後半から秋口へと変更した。

学校との連携では、動物園での動物観察の支援や身近な昆虫への関心を引き出すプログラムを中心に、幼児から大学生まで幅広い年齢の団体を受け入れた。また、モルモットの飼い方教室を近隣の保育園・幼稚園・小学校の教員向けに行った。

特設展は、ウォッチングセンターにて、干支の動物ネズミをテーマに、パネルの他に生体展示、ハンズオンなどを交えて工夫をこらし、様々な角度からげっ歯目について学べる展示とし、来園者から好評を得た。

園内の種ラベルについては、デザインや内容を更新すべく3年前に着手し進めてきており、更新作業がおおむね完了した。

【園内サービスの提供】

案内接客スタッフの接客力向上を目的に、講師を招いて接客講習を実施するとともに聴覚障がい者対応として手話講習を継続実施した。また外国人来園者対応として英会話講習を継続実施するとともに映像通訳タブレット端末を引き続き活用した。園内案内サインについては多言語表記に努めた。

便益施設では、コレクションの内装を一新し、商品の見やすさや動線に配慮した利用しやすい店内に改装を行った。来年度のライオンバス運行再開を見据え、老朽化したアフリカ園売店を改修し、新たな軽食提供店舗となる「ライオンカフェ」の開店準備を行った。また、フード・ギフトショップでの使い捨てプラスチック製品の使用量削減を積極的に行った。

園内では施設工事が長期に渡っているが、ゴールデンウィーク、夏季休暇期間の開園時間延長日などの繁忙対策のため安全対策を講じたうえ工事エリアの一部を園路として開放し、園内混雑緩和、来園者の園内移動距離縮減を図った。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

安全に園内を利用できるよう、園路の不陸調整や排水側溝の補修のほか、階段に手すりの新設などを行った。また倒木や落枝対策として、日々の巡回点検や樹木診断に基づき、危険なものは伐採・剪定処理や枯れ枝除去を行い、安全を確保した。

快適性向上のため、トイレの便座を洋式・温水化することや、「誰でもトイレ」の自動ドア化にも引き続き取り組んだ。

園内環境や動物飼育環境を支える基盤となる設備については、不具合発生時には迅速に修理・復旧を行っているが、更に不具合を未然に防ぐ予防保全をおこない、設備故障の影響を最小限に留めた。

省エネルギー化の対策としては、昆虫園本館やウォッチングセンターなどの照明器具のLED化や、省エネルギー性能の高い設備器具に更新することで、環境負荷の削減につなげた。

園内の魅力向上策として、園内に自生するヤマユリやキンランの保護を行ったことや、動物の生

息地の植物を用いた植栽を適切に管理するなど、動物園らしい景観や自然豊かな園地を発信した。

危機管理対策としては、災害発生時の初動対応訓練やテロ対策訓練を実施したほか、初動対応計画をコンパクトにまとめた「災害時初動対応ハンドブック」の改定を行った。また、労働災害発生時の注意事項等をまとめた「労災ハンドブック」を作成し、全職員に周知した。

4. 葛西臨海水族園

【動物の飼育・展示】

令和元年度は、1月に産卵した南極海の魚類であるブルヘッドノトセンが5月にふ化した。

また、5月には国内2例目となるウィーディードラゴンの産卵が見られ、7月にふ化が確認され、国内では初めて稚魚の育成にも成功し、12月より約15cmに成長した個体を6尾展示した。

6月には、世界的な海洋プラスチック問題への関心の高まりに合わせ、運河水槽においてこれまで行ってきた海ゴミの展示を改善し、国内から海洋へ流出するプラスチックの量をより分かりやすく展示するとともに解説ラベルを設置した。

8月には、南極海のアンタークティックスパイニープランダーフィッシュが展示水槽で産卵し、岩に産み付けた卵を保護する様子を展示することができた。また、マグロ大水槽では、外洋性サメ類の展示にチャレンジし、11月にイタチザメを1尾、アオザメを2尾搬入した。なお、アオザメは、2日間という短期間の展示で終わったが、イタチザメは、飼育の継続中であり、過去の水族園の飼育記録を更新している。

メンダコについては、5月30日に死亡したメスのメンダコの体内から取り出した卵の1つが11月17日にふ化し、12月15日に死亡したが、これまでの最長飼育記録が大幅に更新され、27日間となった。

「東京湾 泥干潟Ⅰ」水槽で展示しているトビハゼは、11月に水槽内において5回にわたり稚魚を確認でき、一部を取り出して育成し、2月までに16尾を育成することができた。

【野生生物の保全】

保全活動として、井の頭自然文化園、多摩動物公園、上野動物園と共同でアカハライモリやミナミメダカの調査を継続的に行い、9月に開催された日本魚類学会のシンポジウム「野生メダカを守る」において、「東京のメダカは今 ー調べる・伝える・守るささやかな取り組みー」を発表した。また、多摩市立連光寺小学校への体験授業を通年で実施したほか、これまでの一般向け観察会に代えて、公募をせずに地元住民への普及啓発を踏まえて地元中学校の生物系クラブを対象に観察会を実施し、生息地での保全活動とともに普及活動に年間を通して取り組んだ。

トビハゼ調査では、東京湾内で調査研究を行っている8施設による「トビハゼ保全施設連絡会」を水族園が事務局となり引き続き実施し、また、6月と10月にフィールド調査を実施し、度重なる台風と豪雨による影響を調査した。

その他、都内産両生類の保全活動では、アズマヒキガエル、ニホンアカガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエル、アカハライモリの繁殖に成功している。

また、環境省がすすめるウミガラス保護増殖委員会に委員として参加して域内保全に協力し、小笠原諸島で行っているユウゼン調査では、これまでの成果をまとめて日本魚類学会年会でポスター発表を行ったほか、おがさわら丸船内での講演による普及活動も実施した。

【教育普及】

5年目となった移動水族館事業は、障がいや病気などのために来園することが難しい特別支援学校、病院、社会福祉施設の利用者や教育を目的としたイベントなどを対象に計58回を実施し、10月26日の活動で累計参加者10万人を達成した。また、5月と10月には東京都の依頼により、豊洲市場で開催されたイベントに出展し、サンゴ礁域と東京湾に生息する生き物の展示を行い、体の形や泳ぎ方、身を守るための工夫、食としての利用法などを解説した。

園内外の教育活動では、特設展示や講演会、教育プログラムの開発・実施、既存教育プログラムの見直し及び更なる充実に継続的に取り組んだ。

特設展示としては、前年度に引き続き、海の様々な生き物の保育場となる環境を取り上げた特設展「海のゆりかご」を2月28日まで開催し、6月には第2期展示として、新たにサンゴ礁を焦点にあてたハンズオン展示を追加した。また、8月10日から10月15日まで、誰もが知っているが謎の多い河童を取り上げた企画展「河童を飼ウの法」を開催した。

講演会としては、11月10日に海鳥についての講演会「つどえ、オロロ〜ン！」を、2月9日には、深海生物についての「深海トークショー」を実施した。なお、3月に開催を予定していた都立動物園共催による「江戸前のウナギとカニとトビハゼと…」および「スイート講演会」は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により中止とした。

教育プログラムとしては、学年別シリーズプログラムに、幼稚園年長〜大学生までのほぼ全ての年齢を対象とした学年別シリーズプログラムを揃えた。また、一部のプログラムについては、プログラムの改善につながる評価研究を行った。

その他、不特定多数の来園者を対象にしたイベントとしては、夏の開園延長時の「ナイト・オブ・ワンダー」や障がい者向けの「ドリームナイト」を実施し、開園記念イベント「All About MAGURO 30th Anniversary」では、台風の影響により期間を短縮しての実施となったが、4年目を迎えたハワイの海を舞台にしたミュージカル「ホヌ・バイ・ザ・シー」を開催し多くの参加者で賑わった。また、MSC東京事務局と共催で10月8日に「サステナブル・シーフードウィーク2019」のオープニングイベントを実施した。

更に、10月に葛西臨海水族園開園30周年を迎えることに伴い、「Feel Sea Life ありがとう 海のいのち まもり伝えて30年」をキャッチコピーに毎月のテーマと代表生物を定め、2月29日に臨時休園が開始されるまで、各月で記念事業を実施した。なお、記念イベントとして「水族園お仕事体験」や「スペシャルガイドツアー」を毎月実施し、記念グッズや記念メニューの販売なども行った。

【園内サービスの提供】

夏季における園内サービスとして、観覧通路・無料休憩所において、遮熱・遮光を目的としたつる性植物（フウセンカズラ）による緑陰の創出を継続したほか、観覧通路・無料休憩所における扇風機による送風（夏季空調温度抑制対策による冷房補助対策）、空の広場における間欠式散水による来園者への輻射熱対策、ミスト扇風機の導入（水の広場売店周辺、売札所）、氷柱や風鈴の設置（ゲート棟）など来園者への涼感の演出及びサービスも継続実施している。

外国人来園者への対応としては、接遇スタッフへの英会話研修、タブレット端末による映像通訳サービスの利用を継続実施した。また、専門講師によるボイストレーニング・アナウンスメント研修を継続実施し、園内放送における対応力の向上に努めた。

その他、収益部門における環境に配慮した取り組みとして、プラスチック製のショッピングバックやストロー等を紙製品に切り替え、また、同じくプラスチック製の傘袋を廃止している。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

経年劣化や故障による機器や配管類は適宜、補修を行っているが、予防保全の考え方を取り入れて不具合発生前に補修や改修を行い、施設停止の影響を最小限に留めた。

園内樹木は、植樹から30余年経過し育成から成熟の時期を迎え、樹形を考慮しながら剪定と世代交代を考慮した間伐を行い、健全な生育と自然環境の創出、保全を行った。

危機管理対策としては、災害初動対応訓練や消防訓練、及び事業継続計画の机上訓練を継続実施し、救命講習会についても、継続開催（年2回）している。また、新潟市水族館マリニピア日本海と大規模災害相互救援に関する広域連携基本協定書を締結した。

5. 井の頭自然文化園

【動物の飼育・展示】

令和元年度、動物園（本園）では、5月にフェネックのオス3頭が誕生した。当園では平成19年4月以来12年ぶりに親による養育で子が成育し、来園者の人気を集めた。一方、平成31年2月にツシマヤマネコのメス1頭が死亡したため、展示が一時途絶えたが、11月に名古屋市東山動植物園からメス1頭を搬入し、展示を再開した。

また、野鳥の森では、従来から展示していたツミ、オオコノハズクに加えて、9月からハヤブサを、令和2年1月からフクロウを公開し、猛禽類の比較展示が充実した。ニホンカモシカは、平成30年11月に盛岡市動物公園からメス1頭が来園し、繁殖を目指していたが、9月にそのメスが死亡したため、再びオス1頭のための単性飼育となった。

水生物園（分園）では、今年度も春から夏にかけて両生類や水生昆虫の繁殖に力を入れて取り組んだ。また、これらを展示する水生物館の常設展示の小水槽については、老朽化と作業効率の向上のため、年度後半の閑散期にひと月程度の閉鎖期間を設けて、来園者向けに解説パネルの充実を行えるような形にリニューアル工事を行った。

水鳥類については、ガンの仲間の2種、カリガネとシジュウカラガンで、それぞれ1羽のヒナがふ化したことから、隣接したケージで成長の様子を比較して見られる展示を行い、来園者にも好評であった。また、オシドリについては、これまで長年にわたり当園繁殖の個体を日本各地の動物園に譲渡・搬出してきていることから、それらとは別の、当園飼育個体と比較的血縁関係が薄いか、ほぼ無いと思われる個体を山口県宇部市のときわ動物園から5羽導入することができたため、今後これらの個体とのペアリングを試み、繁殖を目指していく。

【野生生物の保全】

当園は、環境省と（公社）日本動物園水族館協会が共同で進める「ツシマヤマネコの保護増殖事業」に参画し、アムールヤマネコでの人工授精の成功を受け、同事業において「人工繁殖推進施設」と位置付けられている。平成27年から毎年1月を中心に人工授精を実施しているが、未だ妊娠・出産に至っていない。今年度は自然発情期前の11月に人工授精を計画したが、前日のメスの膣スミアの観察により、卵胞の発育が不十分と判断し、中止した。その後もメスの自然発情時に膣スミア採取を継続し、①自然発情②膣スミア③行動を調査する試みを行った。

同事業において策定した「令和元年-2年ツシマヤマネコ繁殖（移動）計画」に基づき、11月にメス1頭を名古屋市東山動植物園から搬入し、ツシマヤマネコの生態展示を再開した。また、本個体の展示開始にあわせて、動物解説員による「ガイドツアー」や飼育担当者による「いきものガイド」、10月実施の「ヤマネコ祭り」など普及啓発を随時実施するとともに、常設の解説パネルの更新を行った。

アカガシラカラスバトの保護増殖事業では、上野動物園から導入したオス・メス各1羽の飼育展示を継続していたが、7月にオス1羽が死亡したため、メス1羽の単性飼育となった。東京文化財ウィーク（令和元年10月26日～11月4日）にちなみ、動物舎に「のぼり」などを設置するとともに「解説カード」を配布した。また、動物解説員による特別ガイドツアー「天然記念物の動物たち」を実施し、文化財としての重要性を認められたいきさつや、野生での現状について解説するなどの普及啓発活動を行った。

平成29年度から新たに小笠原諸島父島に生息する陸産貝類（いわゆるカタツムリ）の絶滅危惧種

であるカタマイマイの生息域外保全を開始し、平成30年6月に初めて産卵を確認した。今年度も、16卵が孵化し、うち15個体が生育している。また、8月に飼育室内部を公開して、世話をしている様子を見せるスポットガイドを試行し、以後も飼育係の生き物ガイド「カタツムリも危ない」として月に1回継続実施した。

東京産両生類は、引き続き4園が連携して飼育下繁殖の技術向上と野外採集にできるだけ依存しない展示の維持に努めている。今年度はトウキョウサンショウウオなどいくつかの種で繁殖に成功した。淡水魚類については、(公社)日本動物園水族館協会が策定した飼育下繁殖計画に基づき、当園では引き続きミヤコタナゴやムサシトミヨを重点に、国内の淡水魚を飼育する水族館らと連携し、保護増殖に取り組んでいる。

また、水生物園の水鳥類では国際的な希少種であるクロツラヘラサギについては、当園のペアでも繁殖営巣行動が見られることから、国内血統登録の担当園である多摩動物公園から血統に配慮した卵を当園に移動し、当園のペアに抱かせた。卵は無事にふ化し、当園のペアでも育雛を行うことが確認できた。残念ながら今年度のヒナは途中で食滞のため死亡してしまったが、今後もこのような保全の取り組みに協力していきたいと考えている。

【教育普及】

専属のデザイナーにより、統一感のあるデザインと分かりやすい情報ラベルなどの作成を継続し、さまざまな情報発信を行った。

飼育動物や園内の自然を活用した教育プログラムとしては、動物解説員のガイドツアーや教員向けセミナー、「大学生のためのズーカレッジ」などを内容の検討を加えながら継続してきた。小学生対象のサマースクールは、猛暑のため中止とし、その代替として早朝に園内の生物を観察する「身近ないきもの探検」を実施した。動物解説員とともに展示動物や園内の生物を観察する「文化園いきものクラブ」では、動物の食べ物や空を飛ぶ鳥の体の特徴などをテーマに実施した。また、身近な水辺の生物の観察をとおして都市の水辺環境の変化や外来種問題について考えてもらう「井の頭池でいきもの探検！」を実施した。その他、日本獣医生命科学大学や武蔵野美術大学をはじめとして、様々な学校・団体の実習、見学等の受け入れを積極的に行った。

野生生物の保全に関する普及啓発については、8月12日が「世界ゾウの日」であることにちなんでイベント「象のUNKOで紙を作っちゃおう!」、「象のUNKOアート展」を8月に開催し、ゾウの糞から作った紙漉きワークショップと絵や書を描いたアート作品展を通して、絶滅の危機にあるゾウの現状を紹介した。10月には「ヤマネコ祭2019」を2日間開催し、生息地の対馬市や保全に取り組む様々な団体とともに、ヤマネコに関する様々な普及啓発を行った。

子供たちに楽しみながら動物について知ってもらう工夫として、オリジナリティの高いスタンプラリーを毎年開催している。春は「リスの小径」オープン30周年、夏は「動物園怪談画劇～井の頭百物語・漆～」、年末年始は干支にちなんだ「ちゅうちゅうめぐり」を実施した。

資料館での企画展は、前年11月から開催した「園長室前いきもの広場」を11月まで開催した。また、2月から刺繍作家の川端遥香氏の作品展示「Art and the Zoo vol.6:いと、いと、いきもの—川端遥香刺繍作品展」を開催した。当園の飼育動物をモチーフとした作品を中心に、生態などの解説とともに展示した。

講演会は、北海道大学の岸田治氏を招いて、北海道に棲む両生類の生存戦略や外来種問題をテーマに、カエルやサンショウウオを観察しながらの親子向けワークショップとの連続開催で実施した。また、「リスの小径」オープン30周年を記念して、森林総合研究所の田村典子氏を招いて、ニホン

リスの行動や生態、人間の暮らしとリスの生息環境の関わりなどをテーマに実施した。ヤマネコ祭では、日本獣医生命科学大学の太田能之氏と岐阜大学の楠田哲士氏に、当園と共同で進めているツシマヤマネコの飼育繁殖技術の開発について紹介していただいた。

地域との連携では、武蔵野市や三鷹市主催のイベントにて、園内の「いきもの広場」や井の頭池で見られる生物を出張展示し、楽しみながら身近な環境への理解を深める取り組みをおこなった。また、地元吉祥寺のいくつかの商業施設との連携企画も実施し、動物園事業の普及啓発に努めた。例年実施している文化園コンサート「February Concert at the Zoo」は未就学の子どもでも家族といっしょに音楽を楽しむことをコンセプトとして、2月に3回実施した。8月には東京2020オリンピックパラリンピック競技大会の文化プログラムのイベントとして、東京都交響楽団による弦楽四重奏のコンサートを実施した。

今年度から学芸員が配属となったため、彫刻園に展示・保存されている北村西望の美術作品や資料の積極的な利活用が可能となった。長年収蔵庫に保管されていた作品を中心に構成した彫刻館特設展「ひととプロフィール―北村西望の肖像彫刻」を8月に、「塑造+仏像―北村西望とみほとけ」を2月に開催した。当園の大きな来園者層である子どもにも彫刻を身近に感じてもらうため、彫刻制作の工程である石膏型抜きを体験するなどのワークショップも開催した。また、定例の催しとして、作品の由来や設置の意図、保存の状態など、さまざまな角度から解説する「学芸員によるギャラリートーク」を10月から開始し、2月からは通常非公開のアトリエ館の北村西望住居部分を紹介するコースをレパトリーの1つに加え、彫刻園の魅力の発信に努めた。

【園内サービスの提供】

管理事務所自動ドア横にベビーカー置き場を設置するとともに、アプローチ上の縁石をインターロッキングに敷き替えることで段差解消を実施し、利便性の向上を図った。

和鳥舎、小獣舎周囲に生息域に関連のある樹木などを植栽し、景観の向上を図った。

園内の植物の見どころを紹介する「花ごよみ」は200回を超え、園内及びホームページに掲載したほか、野草園ボランティアと農園芸とが共同で植物のガイド、雪吊り・霜除けといった農園芸の技術のガイドも実施し、園の魅力向上に努めている。

秋の開園時間延長は2年目を迎え、令和元年度は10月12日と13日の2日間の実施を予定していたが、12日は台風19号の影響により終日臨時閉園となり、13日は交通機関の乱れ等により13時から開園となった。

これにより、1日のみの実施となってしまったが、16時以降に入園した来園者数が昨年度の2日間の合計と並ぶ2,000名を超えるなど、大いに賑わった。

当日は、野外彫刻のライトアップや彫刻園ミニコンサートに加え、新たにケータリングカーを彫刻園広場に出店し、「芸術」と「食」の両面で楽しめる空間を演出することで、彫刻園のさらなるPRと来園者満足度向上に努めた。

また、夏季における園内の暑熱対策の一環として、噴霧器を背負った職員が園内を練り歩き、熱中症への注意を呼びかける熱中症予防隊の活動を継続して行った。さらに、アーチ型のトンネルに夏野菜やアサガオなどの弦を巻き付け、トンネル内に冷たいミストを噴霧する植物のトンネル（通称：ミストの小径）を新たに正門前に設置し、来園者への涼感の提供及びサービスを行った。

案内接客スタッフの接客力向上のため、外国人来園者対応を念頭においた英会話講習を継続実施したほか、映像通訳タブレットを新たに分園（水生物園）の売改札門に設置した。

園内の売店では、季節ごとにシーズン商品の導入や園のイベントに連動した商品開発を行うなど、

利用者ニーズに応えられるように努めた。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

施設管理では、樹林地管理計画に基づき、水生物園の樹木診断を実施し、過去の診断結果に基づく伐採、外周部樹木の冬期剪定を行った。

また、高木の樹木については年間3回の総点検を実施し、支障枝・腐朽等を早期に発見し処理を行うことで、お客様の安全確保を行っている。

施設補修については、ヤマネコ舎の金網張り替え、フェネック舎ほかの塗装、水生物館の屋根防水を2年かけて補修、加えて水生物館の水槽照明のLED化を実施した

平成30年度に引き続き、アトリエ館周辺から資料館までに園路灯を設置し、冬期暗くなる園路の安全を確保した。

危機管理対策としては、災害初動対応訓練及び事業継続計画の机上訓練を継続して実施するとともに、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」に向けて国内のテロ対策が強化される中、当園では初となる地元警察署と連携したテロ対策訓練を12月に実施した。

Ⅱ. 事業実績

〔1〕 飼育・展示事業

1. 展示動物の収集・管理

(1) 動物収集業務

国内外の飼育動物の情報収集に努め、動物交換、贈与、共同繁殖のための動物貸借（BL：ブリーディングローン）等により動物の導入を積極的に行った。

【主な収集動物】

園名	種名	数量	区分	摘要
上野	マヌルネコ	1	贈与	埼玉県こども動物自然公園
	アフリカタテガミヤマアラシ	1	贈与	長野市茶臼山動物園
	ヒメネズミ	1	贈与	埼玉県こども動物自然公園
	オグロヅル	1	交換	埼玉県こども動物自然公園
	ギンケイ	2	贈与	横浜市立よこはま動物園
多摩	アムールトラ	1	借受	周南市徳山動物園
	チーター	1	交換	姫路セントラルパーク
	チーター	1	BL成果	伊豆アニマルキングダム
	レッサーパンダ	1	借受	京都市動物園
	トキ	2	預かり	佐渡トキ保護センター
葛西	ミナミイワトビペンギン	2	交換	海遊館
	モロトゲアカエビ	5	交換	のとじま水族館
	サケビクニン	6	交換	登別マリンパークニクス
	オワンクラゲ	10	贈与	金沢大学
	イトマキヒトデ	31	交換	下田海中水族館
井の頭	ツシマヤマネコ	2	預かり	環境環（名古屋市東山動植物園より来園）
	ツシマヤマネコ	2	預かり	環境省（九十九島動植物園より来園）
	ニホンアナグマ	2	贈与	東武動物公園
	ツシマアカネズミ	10	贈与	神戸どうぶつ王国

(2) 動物管理業務

動物台帳の管理を適正に行ったほか、国内外における稀少種血統登録への参画や、約100カ国で1,200以上の動物園水族館等が加盟するSpecies360（旧称:国際種情報システム機構）の会員として、動物情報管理システム（ZIMS）を用いて世界中の園館と動物情報を共有する等、適切な個体群管理に取り組んでいる。

【展示動物飼育数】（令和2年3月31日現在）

園名	類	目	科	種	点	備考
上野	哺乳類	20	61	112	1,247	
	鳥類	20	52	118	542	
	は虫類	5	30	71	304	
	両生類	2	18	41	578	
	魚類	7	7	10	187	
	無脊椎動物	3	4	5	156	
	計	57	172	357	3,014	
多摩	哺乳類	10	29	61	625	
	鳥類	17	27	94	1,034	
	は虫類	1	4	5	28	
	両生類	2	5	8	118	
	魚類	1	1	5	14	
	無脊椎動物	27	64	129	21,533	昆虫綱ハチ目の社会性昆虫1科 2種8群含む
	計	58	130	302	23,352	
葛西	哺乳類	0	0	0	0	
	鳥類	5	5	9	278	
	は虫類	1	1	3	14	
	両生類	2	6	10	340	
	魚類	25	129	492	9,682	
	無脊椎動物	69	183	468	34,176	
	計	102	324	982	44,490	
井の頭	哺乳類	7	17	33	433	
	鳥類	15	24	66	283	
	は虫類	2	6	9	40	
	両生類	2	8	10	354	
	魚類	8	12	42	2,175	
	無脊椎動物	7	14	17	488	
	計	41	81	177	3,773	
合計					74,629	

2. 飼育展示・調査研究

(1) 日常飼育業務

動物の健康と飼育環境管理を適正に行い繁殖に努めるとともに、創意工夫により、動物の特性を引き出すための展示改善を積極的に行った。

① 主な繁殖動物

園名	動物名	出産・孵化数				備考
		オス	メス	不明	計	
上野	ミナミコアリクイ	1			1	
	クロキツネザル	1			1	
	アビシニアコロブス			1	1	
	キリン		1		1	
	イボイモリ			30	30	生存数30
多摩	コアラ	1			1	
	レッサーパンダ		2		2	
	チンパンジー	1	1		2	
	マレーバク		1		1	
	ゴールデンターキン	1			1	
葛西	フェアリーペンギン			5	5	生存数4
	オウサマペンギン			1	1	
	フンボルトペンギン			2	2	生存数1
	ウミガラス			1	1	
	ウィーディシードラゴン			225	225	生育数6
井の頭	フェネック	3		3	6	生存数3
	ミーアキャット	3	2		5	育成数3
	ヤクシカ	1	3		4	生育数2
	カリガネ			2	2	生育数1
	ホオジロ			7	7	生育数1

② 主な展示改善

園 名	主な展示改善の件名	内 容
恩賜上野動物園 合計37件	シュモクドリの巣の解説	シュモクドリの展示場の前に、実際に巣作りに使われた枝の数と同じ1,478本の枝を展示し、巨大な巣を作る習性を効果的に紹介。
	サル山擬木型フィーダー設置	ニホンザルのサル山に枝葉を挿せる擬木型のフィーダーを設置。毎日給餌する枝をフィーダーに挿し込むことで、自然の樹木が生えているような景観を再現。
	マレーグマ蟻塚	マレーグマ放飼場に設置された蟻塚型給餌器の老朽化した筒などを更新。マレーグマが舌を器用に用いて給餌器から餌を食べる様子が観察できるよう改善。
多摩動物公園 合計13件	猛禽フライングケージの擬木設置	枯れた大型樹木の代わりに、とまり木となるFRP製の大型擬木を設置した。既存の景観と調和するように、機能だけでなく、展示景観を重視した。大型樹木のFRP造形例はほとんどなく、今回のように搬入や植樹が困難な場合の展示維持、また更新、発展のための新たな手法の導入例となった。
	昆虫飼育施設環境改善	温暖化傾向により連続する猛暑で室温上昇が避けられず、飼育生物の健康維持に支障をきたしていた一般昆虫飼育室において、生物の夏期飼育環境を改善するため、冷房機能を備えた空調機器を設置した。
	両生類展示場の新水槽設置と展示パネル更新	新たな大型ガラス水槽を3基設置し、樹上性のカエル類と地上性両生類の同居展示を開始。また、ヤマアカガエルのみの内容だった解説パネルを里山のカエルたちのものに更新した。
葛西臨海水族園 合計20件	フェアリーペンギン放飼場拡張	「ペンギンの生態」において、プールを仕切っているフェンスを移動させ、フェアリーペンギン放飼場のプールの面積を広げ、遊泳しやすくするとともに、フェンスを更新した。
	ウィーディシードラゴンの繁殖と仔魚の展示	ウィーディシードラゴンの繁殖に国内で初めて成功し、繁殖した個体を展示した。
	イタチザメ	「大洋の航海者マグロ」水槽において、外洋性サメの1種であるイタチザメの展示を行い、水族園のこれまでの長期飼育記録を更新した。
井の頭自然文化園	カタマイマイのスポットガ	8月にカタマイマイの飼育室内部を公開して、世

園 名	主な展示改善の件名	内 容
合計12件	イド	話をしている様子を見せるスポットガイドを試行し、以後も飼育係の生き物ガイド「カタツムリも危ない」として月に1回継続実施した。
	オハヤブサ、フクロウ追加による猛禽類の比較展示	野鳥の森では、従来から展示していたツミ、オオコノハズクに加えて、9月からハヤブサを、令和2年1月からフクロウを公開し、猛禽類の比較展示が充実した。
	資料館げっ歯類展示解説板の設置	子年の新年を迎えるにあたり、12月に資料館のげっ歯類展示に解説板を設置した。げっ歯類共通の基本情報から各展示種の特徴まで、イラストや写真などを用いてわかりやすくデザインした。

(2) 研究成果の発表

動物園で得られた野生動物や教育普及活動に関する情報や研究成果等について、研究会等で積極的に発信した。

① 恩賜上野動物園（合計23件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
Effect of paternal age on the birth sex ratio in captive populations of aye - aye (Daubentonia madagascariensis (Gmelin))	Yosuke Tanaka Yuya Fukano Masato Nakamura	Zoo Biology. 2019;1-4. https://doi.org/10.1002/zoo.21487
翅が一部乳白色のアブラゼミ	田中 陽介、池田 正人	Cicada Vol.25 No.2
New children's zoo programs at Ueno Zoological Gardens	高松 美香子	第27回SEAZA会議（ベトナム）
昆虫調査で採集された東京都の希少種2種について	村野 基樹	月刊むし No586 短報特集号・38
恩賜上野動物園におけるモルモットのオス個体群京成の新たな試み	島村 裕斗	第16回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会（秋田市大森山動物園）
「アイアイのすむ、上野の森」の10年	中村 壮登	どうぶつと動物園 2019年春号（2019.4）
アカガシラカラスバトの生息域外保全	坂下 涼子	日本野鳥の会「野鳥」8月号

ミヤコドリ的人工繁殖と自然繁殖	大久保 梨奈 小川 美紀	どうぶつと動物園 2019年夏号 (2019.7)
ヒガシクロサイの採血における強化子に触刺激を用いたハズバンダリートレーニング	藤岡 紘、平野 雄三	日本動物園水族館雑誌第61巻第3号 (2019.12)
カジカガエルの脱出防止対策	森泉 さやか、内山 幸、 齋藤 祐輔、田辺 信吾 坂田 修一	第15回関東東北・北海道ブロック 動物園技術者研究会 (日立市かみ ね動物園)
腸閉塞に対して開腹手術及び術後管理を行ったオオカンガルーの一例	林 笑、平野 雄三 杉森 理、小池 奈央子 山田 有里恵、山口 歩	第15回関東東北・北海道ブロック 動物園技術者研究会 (日立市かみ ね動物園)
シュレーゲルアオガエルの飼育下繁殖 ～越冬から産卵・孵化まで～	田辺 信吾、齋藤 祐輔、 内山幸、森泉さやか 中 澤 昭人、坂田 修一	第31回日本動物園水族館両生類 爬虫類会議 (京都市国際交流会 館)
カジカガエルの飼育下繁殖 ～幼生・幼体の育成について～	森泉さやか、田辺信吾齋 藤 祐輔、内山 幸 中澤 昭人、坂田 修一	第31回日本動物園水族館両生類 爬虫類会議 (京都市国際交流会 館)
オカピの“バカーリ”を迎えにアメリカへ	平野 雄三	どうぶつと動物園 2019年夏号 (2019.7)
上野動物園におけるCTスキャンを活用した動物診療について	杉森 理	第31回建設局技術業務体験発表 会 (都民ホール)
ここ最近における塩酸エトルフィン の使用例	林 笑	第31回大型動物麻酔研究会 (よこ はま動物園)
スマトラトラの繁殖への取り組みに ついて	高岡 英正	第16回関東東北・北海道ブロック 動物園技術者研究会 (秋田市大森 山動物園)
上野動物園におけるジャイアントパンダの飼育と繁殖～シャンシャンの成長とトレーニング～	中島 麻衣	パンダの日記念講演会(東京都美 術館講堂)
Nine years of Giant Panda Managemet at Ueno Zoo	齋藤 圭史	2019年国際大熊猫繁育技術委員 会年次総会 (中国 成都市)
サル山でのインタープリテーション をより効果的にするために	青木 孝平	どうぶつと動物園 (2020冬号)
シュモクドリの営巣行動展示	青木 孝平	第17回関東東北・北海道ブロック 動物園技術者研究会(千葉市動物 公園)
モズの飼育下初繁殖について	吉村 映里、鈴木 仁	第67回動物園技術者研究会 (天王 寺動物園)
世界カワウソの日における他業種と	鈴木 佐知子、伊藤 皓一	第60回動物園水族館教育研究会

の連携による教育効果	郎、井内 岳志、小泉 祐里、鳥飼 香子	(東京大学大気海洋研究所)
------------	---------------------	---------------

② 多摩動物公園 (合計10件)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
昆虫館が取り組む絶滅危惧昆虫の保全—絶滅危惧の蝶オガサワラシジミ保全の現在	石島 明美	博物館研究 Vol.54 No.11 (2019年11月号))
Zoos and animated animals increase public interest in and support for threatened animals	Yuya Fukano Yosuke Tanaka Masashi Soga	Science of The Total Environment, Volume 704, 20 February 2020, 135352
オガサワラシジミを未来につなぐ— 動物園ができること—	古川 紗織	あかぼっぼの日の集い—小笠原の絶滅危惧動物たちはカタストロフィを生き残れるのか?— (小笠原 父島地域福祉センターホールほか)
Effect of paternal age on the birth sex ratio in captive populations of aye - aye (Daubentonia madagascariensis (Gmelin))	Yosuke Tanaka Yuya Fukano Masato Nakamura	Zoo Biology. 2019;1–4. https://doi.org/10.1002/zoo.21487
翅が一部乳白色のアブラゼミ	田中 陽介、 池田 正人	Cicada Vol.25 No.2
アフリカゾウ (雄) の牙破折の治療例	原 樹子	第29回ゾウ会議 (多摩動物公園)
ライオン園工事期間中の動物の飼育管理について	泉 こはる、大賀 幹夫、 高橋 孝太郎、佐々木 悠太、 山川宏治	第15回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会 (日立市かみね動物園)
モモイロペリカンの繁殖	齊藤 美和	第16回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会 (秋田市大森山動物園)
チンパンジー舎における防鼠対策について	平川 達也、佐藤 澄音 伊藤 香緒里、野田 瑞穂	第17回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会 (千葉市動物公園)
重度の搔痒感を示す ツキノワグマに オクラシチニブマレイン酸 (アポキル®) が奏功した1例	吉本 悠人	第67回動物園技術者研究会 (天王寺動物園)

③ 葛西臨海水族園（合計19件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
東京のメダカは今－調べる・伝える・守る ささやかな取組み－	多田 諭	日本魚類学会年会(高知大学)
ユウゼンの繁殖生態(産卵移動と繁殖行動の観察)	松村 哲、児玉 雅章、遠藤 周太、幅 祥太、河原 直明、荒井 寛	日本魚類学会年会(高知大学)
Overview of polar exhibit tanks and List of the creatures in house	市川 啓介、木船 崇、小味 亮介、村松 茉由子、幅 祥太、石神 まゆか、佐藤 真心、関 啓汰	第10回極域科学シンポジウム(国立極地研究所)
ランプサッカーで発生した アメーバ性鯰病疑い例とその対応	市川 啓介、吉澤 円、柳下 悠、高濱 由美子	第64回水族館技術者研究会(西鉄グラウンドホテル)
マトウダイとカガミダイの周年展示について	佐藤 真心、小味 亮介、幅 祥太、松村 哲、吉澤 円、木船 崇司、中村 浩司	関東東北ブロック水族館飼育技術者研究会(かんぼの宿 鴨川)
海鳥の遊泳を促す採食エンリッチメント	野島 大貴、 佐藤 信彦	エンリッチメント大賞受賞講演(東京大学 弥生講堂 一条ホール)
ケイマフリの生息域外保全を見据えた繁殖生態調査	野島 大貴	はぼろサイエンスカフェ(北海道海鳥センター)
ケイマフリの生息域外保全を見据えた繁殖生態調査	野島 大貴	ウミガラス保護増殖事業検討会(札幌市環境プラザ)
The Captive Population Recovery Efforts and Current Issues by Using Artificial Incubation and Hand Rearing of Little Penguin in Japan	野島 大貴他	10th International Penguin Conference(オタゴ大学)
PMxを活用したフンボルトペンギンの繁殖・移動計画の考え方	野島 大貴	第19回ペンギン飼育技術研究会(メルカつきまちホール)
生息域内外で連携して取組むウミガラスの保全活動	野島 大貴他	第21回 種保存会議(札幌パークホテル)
PMxを活用したフンボルトペンギンの個体群管理計画の策定に向けた取組 (ポスター)	野島 大貴	第21回 種保存会議(札幌パークホテル)
PMxを活用したフンボルトペンギンの個体群管理計画の策定に向けた取組	野島 大貴	第21回 種保存会議(札幌パークホテル)
生息域内と生息域外が連携して	野島 大貴他	第67回動物園技術者研究会(ヴィアー)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
取組むウミガラスの保全活動		レ大阪)
【深海の生物 トピック水槽】 の新設とその運用について	小味 亮介、村松 茉由子	"
幼児向け教育プログラムの開発 と評価	野島 麻美、田中 隼人、西 村 大樹、宮崎 寧子、天野 未知、鈴木 悠太	第29回日本動物園水族館設備会議(三 国観光ホテル)
葛西臨海水族園に来園困難な利 用者を対象とした移動水族館事 業の展開	雨宮 健太郎、 浅野 晃良、増渕 和彦、 服部 詠一	日本動物園水族館教育研究会(東京大 学海洋研究所)
来園困難な利用者を対象とした 葛西臨海水族園移動水族館事業 について	雨宮 健太郎	水族館シンポジウム(東京大学海洋研 究所)
"幼児向け教育プログラムの開発 と評価	野島 麻美、宮崎 寧子、西 村 大樹、田中 隼人、天野 未知、鈴木 悠太	千葉県博物館協会研究報告会(千葉県 立現代産業科学館)

④ 井の頭自然文化園 (合計3件)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
動物園らしい博物館実習プログラ ムの実施	武笠 友美、山崎 彩 夏、馬島 洋	東京大学海洋研究所(第60回日本動 物園水族館研究会柏大会)
Conservation and Husbandry Efforts in the Tsushima Leopard Cat at Inokashira Park Zoo	唐沢 瑞樹	The Third Asian Wild Cat Conservation Workshop 2019 (Taiwan)
動物園来園者の観覧体験とその影 響	石田弥生、馬島 洋	東京農工大(動物観研究会 公開ゼ ミナール2019)

⑤ 総務部 (合計1件)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所または掲載雑誌等
都立4動物園・水族園を学習利用 する小学校の特性	馬島 洋、瀬川夏代 日橋一昭	第60回日本動物園水族館研究会柏 大会(東京大学海洋研究所)

※下線は外部研究者

(3) 共同研究

大学や研究機関と協力し、動物学、獣医学等の学術的な見地から共同研究を進めた。

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
東京大学博物館	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京大学大学院農学生命科学研究科	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
首都大学東京	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
日本獣医生命科学大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京農工大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
森林研究・整備機構 森林総合研究所	東京動物園協会	イモリの保全及びその生態学的研究
国立科学博物館	東京動物園協会	動物等の研究
情報・システム研究機構 国立極地研究所	東京動物園協会	連携・協力に関する協定
東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター	東京動物園協会	海洋教育促進
岐阜大学応用生物科学部	東京動物園協会	動物園水族館動物に係る研究及び教育
水産研究・教育機構	東京動物園協会	包括連携協定
ウナギ種苗研究グループ	東京動物園協会	ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システム実証事業研究
日本獣医生命科学大学 動物生産化学教室	恩賜上野動物園	ライチョウの域外飼養技術の開発に関する研究－飼育飼料の検討－
日本獣医生命科学大学 動物生産化学教室	恩賜上野動物園	アカガシラカラスバトの域外飼養技術に関する研究－飼育飼料の検討－
日本獣医生命科学大学 動物生産化学教室	恩賜上野動物園	飼育飼料成分のデータベース化による動物園動物栄養管理システムの構築に関する共同研究
岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室	恩賜上野動物園	希少動物の保全繁殖

提携先	提携園	研究テーマ
東京大学 大学院農学生命科学研究科	恩賜上野動物園	動物園動物の性比に影響する要因の解明
小笠原自然文化研究所	恩賜上野動物園	オオカワラヒワに対するプラセボの喫食性に関する研究
岐阜大学応用生物科学部	多摩動物公園	希少動物の繁殖生理の内分泌モニタリング/多摩動物公園における希少動物の性ホルモン分析技術の推進
東京都健康安全研究センター	多摩動物公園	サル類の腸管寄生原虫に関する研究（検査・駆除対策）
日本工業大学	多摩動物公園	モグラの地中掘削行動の機構学的解析
横浜市環境創造局繁殖センター	多摩動物公園	希少動物の保全に関わる試験研究
京都大学野生動物研究センター	多摩動物公園	オランウータンの子の離乳過程と母親のホルモン動態の関係
カマキリ研究グループ	多摩動物公園	外来種「ムネアカハラビロカマキリ」に関する研究
京都大学野生生物研究センター	多摩動物公園	飼育下ユキヒヨウの仔および成獣の繁殖生理に関する研究
河原 淳	多摩動物公園	トウキョウトガリネズミ繁殖生態研究
日本獣医生命科学大学 動物生産化学教室	多摩動物公園	飼育下チンパンジーの栄養管理に関する研究
国際農林水産業研究センター	多摩動物公園	バッタの遺伝子情報基盤の整備
東京農工大学農学府	多摩動物公園	カンガルーの口腔内及び腸内細菌叢と疾病の関連性に関する共同研究
東京農工大学農学部	多摩動物公園	昆虫等の調査・診断に関わる共同研究（オガサワラシジミ）
帯広畜産大学畜産学部	多摩動物公園	バクの乳汁成分についての研究
日本大学 生物資源科学部	葛西臨海水族園	水生生物における包括的魚病診断調査及び防疫法の確立
情報・システム研究機構 国立極地研究所	葛西臨海水族園	南極海に生息する魚類の繁殖および摂餌生態に関する共同研究
東北大学大学院生命科学研究所	葛西臨海水族園	フンボルトペンギン胚における特徴的四肢形態の発生操作

提携先	提携園	研究テーマ
東邦大学	葛西臨海水族園	ペンギン類における海生適応形質形成機構の解明
電力中央研究所 株式会社イワキ	葛西臨海水族園	大規模水槽向け脱窒装置及び小型水槽用脱窒モジュールに関する共同研究
東京大学 大気海洋研究所	葛西臨海水族園	ウミスズメ科の水中採食生態の解明に関する共同研究
東京大学	葛西臨海水族園	飼育動物の QOL 評価を目的とした包括的研究
海遊館	葛西臨海水族園	ペンギン類人工繁殖に関する共同研究
東京大学	葛西臨海水族園	映像によるクロマグロの行動解析技術の研究開発に関する共同研究
日本大学生物資源科学部 海洋生物資源科学科水圏 生物病理学研究室	葛西臨海水族園	葛西臨海水族園の飼育する水生生物疾病研究に関する協定
国立極地研究所 生物圏 研究グループ	葛西臨海水族園	ペンギン科およびウミスズメ科の視覚に関する研究
茨城大学 アクアワールド茨城県水 族館	葛西臨海水族園	飼育下エトピリカの遺伝子解析
共立電照およびアブ式会 社共ショウ	葛西臨海水族園	大型水槽用 LED 照明の開発
東京工業大学 情報・システム研究機構 国立極地研究所	葛西臨海水族園	ペンギン科およびウミスズメ科の流体力学に関する研究
東京農業大学	葛西臨海水族園	DNA 解析によるフンボルトペンギンの多様性に関する研究
自然科学研究機構基礎生 物学研究所	葛西臨海水族園	動物行動学（マトウダイ）に関する研究
岐阜大学	井の頭自然文化園	アムールヤマネコの繁殖生理に関する共同研究
日本獣医生命科学大学 獣医臨床繁殖学教室	井の頭自然文化園	希少野生ネコ科動物における人工繁殖技術の研究

(4) 飼育展示・教育普及研究会の開催

園内及び4園相互での情報交換と共有化を積極的に進めるとともに、研究発表等に積極的に参加することによる職員の能力向上を図るため、各園で飼育展示・教育普及担当者による研究会を定期的に開催した。

3. 動物病院業務

飼育職員と連携して病気等の予防策を講じるとともに、異常の早期発見に努め、適切な治療を行った。また、検疫業務、病理解剖、検体の保存等を行った。

(診療件数及び検疫件数)

園 別	年間診療件数		年間検疫件数	
	治療	死亡	種数	頭数
恩賜上野動物園	7,247	80	43	205
多摩動物公園	6,708	62	16	37
葛西臨海水族園	570	38	2	5
井の頭自然文化園	3,907	85	15	46

※葛西については、上野の動物病院においても実施。

〔2〕野生生物保全事業

「野生生物保全センター」を都立動物園・水族園の野生生物保全活動の中心に位置付け、保全活動、情報収集、調査研究及び普及啓発活動を実施した。

項 目	内 容
動物園内における保全活動 (域外保全)	<ul style="list-style-type: none"> ① ニホンコウノトリ、トキは、多摩動物公園を中心に高度な飼育繁殖技術を活かした継続的な繁殖と個体や卵の移動などにより、野生復帰事業に貢献している。 ② アカガシラカラスバトは、毎年順調に繁殖しており、緊急保護個体を繁殖個体群に取り込むとともに、飼育繁殖技術の向上により自然繁殖もすすみ、飼育下個体群形成が順調に進んでいる。 ③ オガサワラシジミは、多摩動物公園で累代繁殖および周年飼育に成功し、持続的な繁殖が期待できる状況になってきた。 ④ ライチョウは、上野動物園や富山市ファミリーパークなどで2015～2016年に野生卵を入手し、それらを育て繁殖に取り組んでいる。山岳地帯への適応に伴う特殊な生理生態について、連携する関係者とともに解明に取り組んでいる。 ⑤ 東京産両生類等、希少種の繁殖に継続して成功している。一方ではまだ繁殖できない種もあり、4園で分担・連携して取り組んでいる。 ⑥ 環境省からの分散飼育の協力要請を受け、小笠原諸島の陸産貝類(カタマイマイ、アナカタマイマイ)の飼育を4園で開始した。関係機関との情報共有を図るとともに、両種の飼育繁殖に取り組んでいる。
フィールドにおける保全活動 (域内保全)	<ul style="list-style-type: none"> ① 多摩市のアカハライモリ生息地において、生息状況調査や生態調査を継続して実施し、生息個体数を増加させることに成功するとともに、地域との連携・環境教育活動を推進している。 ② アカガシラカラスバト野生個体群の遺伝的多様性を解明するため、小笠原自然文化研究所と連携し、ミトコンドリアDNAの解析を実施している。 ③ 多摩動物公園内に生息するアズマヒキガエルの繁殖状況を調査しており、原因は不明であるが、ほぼ絶滅に近い状態であることがわかってきた。事前に4園の飼育下に確保していた個体群で繁殖を開始している。
生物学技術を応用した保全活動	<ul style="list-style-type: none"> ① DNA解析により、性判別(鳥類・哺乳類)を日常的に行い、繁殖計画の推進に寄与した。また、飼育希少鳥類の遺伝的多様性の解析、メダカの地域個体群解析、アズマヒキガエルの野外での亜種間交雑状況の調査を継続して行っている。 ② 人工授精技術を用いて、自然交配が期待できないソデグロヅルのペアから有精卵を得る取り組みを継続している。今年度は2羽育成した。 ③ 性ホルモンを測定し、ツシマヤマネコやチーター、サーバル、アフリカゾウ、ミナミコアリクイ等の繁殖生理解明に役立てている。
調査研究・情報収集	<p>ベトナムで行われたSEAZA総会に職員を派遣し、上野の新規子ども動物園の取り組み紹介を行うとともに、情報収集を図った。</p>

普及啓発活動	<p>① イモリの保全活動を進めている多摩市の小学校と連携し校外学習の一環として、保全活動について普及啓発を行っている。今年度は新たに地元中学校の生物クラブを対象に観察会を実施した。</p> <p>② 東京動物園協会が取り組む保全活動を、来園者にも広く伝えるため、企画展「すすめ、地球生命隊 きみも隊員だ」を多摩動物公園で開催した。その後、同様の内容を、「すすめ！地球生命隊-ともに生きる未来へ-」として常設展示として設置した。</p> <p>③ 父島に職員を派遣して「あかぼっぼの日の集い」において、オガサワラシジミやアカガシラカラスバトの保全活動について報告するとともに、4園の保全活動をポスターで掲示した。</p> <p>④ ツシマヤマネコの保全に関する普及啓発として井の頭自然文化園で「ヤマネコまつり」を継続して実施している。</p> <p>⑤ 野生生物保全センター講演会や上野動物園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園で準備していた講演会は、感染症拡大防止のため中止した。</p>
保全への協力	<p>コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（IPPM-OWS；任意団体）の構成員として、また事務局の一員として他の加盟機関と連携し、保全活動を推進した。兵庫県立コウノトリの郷公園と千葉県野田市でのコウノトリの放鳥事業に協力し、有精卵の提供や移送支援を実施している。今後5年間の保全活動計画を策定した。</p>

〔3〕教育普及事業

新たに総務部に「教育普及センター」を設置し、都立動物園・水族園全体の教育普及事業方針を策定するとともに、現在各園で実施している教育普及事業の評価検証及び改善のプロセス策定の取り組みを開始した。また、教育普及センターを中心に、4園の連携を一層強化し、動物園・水族園の役割の一つである社会教育機能を充実させ、大人から子どもまで幅広い来園者を対象に、様々な観点から学べる多彩なプログラムを開発・実施した。

【教育普及事業方針の策定】

3名の外部アドバイザー（飯沼慶一氏：学習院大学文学部教授、遠藤秀紀氏：東京大学総合研究博物館教授、江戸家小猫氏：動物ものまね）からの助言を参考に、教育普及センターと各園教育普及係を中心に策定した教育普及事業方針を令和2年1月26日（日）に開催した「教育普及シンポジウム『気づき・学び・楽しみ』」にて発表した。

公益財団法人東京動物園協会 教育普及事業方針

公益財団法人東京動物園協会では、人々と野生動物との架け橋となる動物園・水族園の実現を目指しています。このため、都立動物園・水族園4園の連携を一層強化し、動物園・水族園の役割である社会教育機能の充実を目的に、新たに「教育普及センター」を設置しました。今後は、この教育普及事業方針のもと、各園が特色を活かし、より進化した教育普及プログラムを展開していきます。

1. 学ぶ楽しさや知る楽しさに出会う場所をつくります。

生き物や自然の魅力に気づき、さらに発展して学びを体験する身近な教育施設となるよう努めます。

2. 生き物を取り巻く状況や科学に関する知識を正しく伝えます。

日々新しくなる情報を正しい理解のもと発信し、知的好奇心を刺激しつづけます。

3. 多くの方に、さまざまな方法で学びを届けます。

園内での教育プログラムやSNS等、さまざまな方法で情報を発信します。来園が難しい方にも、遠隔授業や移動水族館などの体験をとまなう学びを届けます。

4. ボランティアや教育機関などと連携して学びの場を広げます。

動物園と水族園の職員はもちろんのこと、ボランティアや学校等の教育機関、博物館等の社会教育機関と連携して幅の広い、深い学びを提供します。

5. 生き物と共生できる未来のために、すべての人々とともに学び、行動します。

生き物と人がともに暮らせる世界であり続けるために、地域や社会とともに行動します。

1. 4園連携による幅広い教育普及活動の展開

夏（7～8月）と冬（1～2月）に4園で開催した小学校教員対象の「授業に活かせる『動物園・水族園』講座」は、告知から募集、事後アンケートを教育普及センターが効率よく一括して行い、前年度よりも多くの参加希望者があった。前年度に引き続き「ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム in Tokyo」を多摩・葛西・井の頭で閉園後に、「ドリームデイ・アット・ザ・ズー in Tokyo」を上野動物園で休園日に開催した。「SAVE THE Green and Blue EARTH」キャンペーンを

4園で実施し、使い捨てプラスチック使用量の削減をはじめとする、都立動物園・水族園の環境に配慮した取り組みを紹介した。Visit Zoo事業における4園連携事業では、春・夏・秋・冬の4回に分けて、各園の利用促進をはかりながら教育普及を推進し、冬の「VisitほっとZoo2020」では、動物観察プログラム「みてみよう東京のいきものここにいる！ キーワードクイズラリー」を4園で開催した。

教育普及ワーキンググループを定期的に開催し、職業学習や学生の実習、園内サインなどについて統一した活動を進められるように4園の連携を深めた。

2. 園内プログラム

(1) 動物解説員のガイドツアー

テーマを設定し、園内を案内しながら動物の解説を行う一般来園者を対象としたガイドツアーを各園で実施した。1回約45分間。

	上野	多摩	葛西	井の頭	計
実施回数	163回	121回	545回	90回	635回
参加者数	3,557名	1,674名	5,116名	1,474名	11,821名

(2) 動物相談室の運営

上野動物園、多摩動物公園内の動物相談所において、来園者及び電話・書簡による相談に応じた。

園名	来園	電話	書簡	計	摘要(重複あり)
上野	1,741	3,282	7	5,030件	飼育1,238 動物園597 生態987 保護281 鳥獣害286 その他1,586
多摩	1,041	636	8	1,685件	飼育450 動物園218 生態441 保護82 鳥獣害54 その他372
計	2,782	3,918	15	6,715件	

(3) 通年プログラム

園名	内容
上野	<ul style="list-style-type: none"> ・キーパーズトーク (ビバリウム、子ども動物園ほか) ・子ども動物園すてっぷ体験プログラム ・Touch Me!?(は虫類とのふれあい) ・ボランティアのスポットガイド ・しのばずワークショップ (学習院大・東京農工大との協同) ・子ども動物園すてっぷアップクイズ大会 (日本獣医生命科学大との協同) ・花王きちんと手洗いキャンペーンイベント ・ZOO TODAY 発行 ・みんなの上野動物園 発行 (キヤノンマーケティングジャパン株式会社との協同、株

園名	内容
	株式会社マガジンハウス発行)
多摩	<ul style="list-style-type: none"> ・キーパーズトーク (チンパンジーほか) ・ぱくぱくタイム ・モルモットとのふれあい ・家畜馬トークイベント ・いっしょに動物かんさつ ・ボランティアのスポットガイド (SG・DG) ・ボランティアによる工作教室 (SG) ・大学生による昆虫プログラム 「おえかきつず」 (帝京科学大学との協同) ・雑木林で生きものさがし! (NPO法人樹木環境ネットワーク協会との協同) ・かんさつシート 配布 ・多摩動物公園 動物新聞 発行
葛西	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフトーク (マグロ、ペンギンほか) ・タッチンフィーリン(サメ・エイとのふれあい) ・おとなガイドツアー ・30周年記念イベント「水族園お仕事体験」 ・30周年記念イベント「スペシャルガイドツアー」 ・ボランティアのスポットガイド (TSV) ・しらす探偵団 (TSV) ・魚ッチングシート 配布 ・SEA LIFE NEWS 発行
井の頭	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育係のいきものガイド ・みてみてえさの時間だよ ・モルモットふれあいコーナー ・学芸員による彫刻園ギャラリートーク ・いきもの広場で遊ぼう ・ダックさんにお弁当 (コールダックへのエサやり) ・ボランティアのスポットガイド (DG) ・ボランティアによる彫刻園ガイド (SG) ・紙芝居 (SG) ・ボランティアによる工作教室 (SG) ・おはなし会 (あずきの会と協同)

(4) 企画プログラム

① 恩賜上野動物園

内 容	実施日
さくらツアー	4/1
「飼育の日」イベント ・飼育係の「ひみつの道具」於：各展示前 ・「ひみつの道具」スペシャルトーク	4/20, 21
国際マヌルネコの日イベント	4/23
世界ペンギンの日特別活動	4/25
国際博物館の日記念ツアー「上野の山で動物めぐりツノのある動物」	5/12
ミュージアムウィーク特別ガイド「ツノのある動物たち（西園）」	5/15
北アルプスのライチョウ保護活動解説会	5/18, 19
国際生物多様性の日イベント	5/19
知ろう!がん検診!「モシカモくん」スタンプラリー	5/25, 26
世界カワウソの日イベント	5/29
企画展「野間馬のふるさと・いまばりで遊ぼう!」於：子ども動物園 ・野間馬のふるさとクイズラリー（6/1, 2） ・野間馬のふるさと物産コーナー（6/1, 2）	6/1～16
歯と口の健康週間イベント「いい歯いきいき上野動物園行事」	6/9
シャンシャン2歳記念企画 ・パネル展「シャンシャンのおとしもの一成長の記録」於：いそっぷ橋下 ・シャンシャン2歳記念スペシャルスポットガイド（6/12）	6/11～30
アニマルプラネット presents モーニングズー	6/23
動物愛護に関する標語募集 ・入選作の掲示（9/20～11/15）於：弁天門	7/2～7/31
世界トラの日特別企画	7/28
上野動物園夏休み特別パンダ見学ツアー（池之端茅町主催）	8/1
パンダペーパーでオリジナル名刺をつくろう！（エキュート上野×上野動物園コラボイベント）	8/3
真夏の夜の動物園 ・ナイトビバリウム ・夜明けの動物園 ・ホワイト園長室イルミネーション ・ビアガーデン ・食べる不忍池 - 「食べる」をめぐる2つの話- ・もぐもぐミュージアム、もぐもぐギャラリー ・音楽の夕べ（8/10～12） ・ゾウ博士になろう（8/10, 14, 16） ・巨木ツアー（8/11, 12）	8/10～16

<ul style="list-style-type: none"> ・真夏の夜のもぐもぐトーク (8/12, 13, 14, 16) ・園長トーク (8/12, 15) ・世界ゾウの日 (8/12) ・動物園の台所スペシャル (8/13~15) 	
打ち水日和～江戸の知恵・東京のおもてなし～	8/21
ドリーム・デイ・アット・ザ・ズー	8/26
台東区なぜなぜクラブ	8/28
動物慰霊祭	9/23
第5回都立動物園アフリカフェア—野生動物のふるさと アフリカの今とこれから」スタンプラリー	9/28~10/27
ボランティアの動物ガイド・クマ「東京にもクマはいる。クマに出会わないために」	10/5
クイズで発見！ <ul style="list-style-type: none"> ・水辺の鳥たち (10/5) ・角のいろいろ (11/16, 17) ・ニホンザル (2/1, 2, 19) 	—
リキ2歳記念企画—ボランティアの動物ガイド・ゴリラ	10/12, 19
寛永寺僧侶と歩く上野公園めぐり	11/19, 30
文化財ウィーク <ul style="list-style-type: none"> ・解説カードの配布 ・特別ガイドツアー「天然記念物の動物たち」(10/29, 31) 	10/26~11/4
創エネあかりパーク 於：表門	10/31~11/4
Museum Start あいうえの冒険部「本物ってなんだろう？こどもの哲学対話」	11/2
コモモ誕生日記念企画—ボランティアの動物ガイド・ゴリラ	11/16
Museum Start あいうえの キュッパチャンネル ムービー部	12/15
SPOT GUIDE FESTA 2019	12/22
新年イベント <ul style="list-style-type: none"> ・園長挨拶 (1/2) ・着ぐるみの動物たちのお出迎え ・干支柄のおせんべいのプレゼント ・上野囃子保存会「獅子舞」園内練り歩き ・オリジナルの絵馬を作ろう！ 	1/2, 3
Visit ほっと Zoo 2020 「みてみよう 東京のいきもの ここにいる！」 <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードクイズラリー ・ほっとポイントガイド：ボランティアガイド (1/25 他) ・ほっとポイントガイド：キーパーズトーク (2/22 他、中止) 	1/9~2/28
電車でまわろう！動物園&水族園スタンプラリー	1/9~2/28
青森県下北半島紹介イベント「下北ジオパーク in 上野動物園」	1/25, 26
JINS presents モーニングズー	2/8

大道芸 de ほっと Zoo!! 2020	2/11
アースウォッチ的大人の遠足「上野動物園が取り組む日本産ライチョウ飼育下繁殖活動を知る」	2/24 (中止)
エキュート上野モーニングズー	3/7 (中止)
上野動物園×WWF「においでめぐる動物園—くくん Planet に出かけよう」	3/8 (中止)
#デイパン：A day of the Pandas (Twitter による情報提供)	3/8～
#おうち zoo (Twitter による情報提供)	3/13～
動物園で楽しく学ぼう！スタンプラリー～どうぶつたちと駄菓子で笑顔になろう～	3/12 (中止)

② 多摩動物公園

内 容	実施日
みてみよう 日本の動物ここがすごい！ キーワードクイズラリー	2/16～4/9
昆虫園あるある川柳クイズラリー	4/11～5/7
「飼育の日」イベント ・「飼育の日パネル展—来て・見て・知ろう飼育係！」 ・「飼育係体験イベント—いろいろな仕事があるよ」(4/20, 21)	4/11～6/4
開園 60 周年「動物観察カード」DE 動物かんさつ！ ・みんな見て！「動物観察カード」展 於：ウォッチングセンター ・「動物観察カード」DE 動物かんさつ！ ・つくろう「MY 動物観察カード」(5/1, 2, 3)	4/25～6/4
コアラ来園 35 周年記念イベント ・クイズラリー「オーストラリアからやってきた！どうぶつかんさつクイズ 35」 ・親子向けプログラム「コアラとコアラのマーチのヒミツをさぐれ！」(4/27)	4/27～5/6
なかよし広場にウサ・モル・ヤギがやってきた！	4/27～ 5/3, 5/6
キッズパークたまどう 着ぐるみの動物たちのおでむかえ	5/4, 5
園長と着ぐるみの動物たちのおでむかえ	5/5
ドリームナイト・アット・ザ・ズー	6/8
さんきゅう企画「園長からの挑戦状—3 (さん) 連 9 (きゅう) は動物園でミッションクリア」 ・ミッション 1 (7/13～15) ・ミッション 2 (8/10～12) ・ミッション 3 (9/14～16) ・ミッション 4 (9/21～23) ・ミッション 5 (10/12～14) ・ミッション 6 (11/2～4) ・ミッション 7 (1/11～13) ・ミッション 8 (2/22～24 中止) ・ミッション 9 (3/20～22 中止)	—

キッズパークたまどう夏のスタンプラリー	7/20～9/1
<p>サマーナイト@Tama Zoo 2019—フクロウがなく夜の動物園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜のキーパーズトーク (8/10, 11, 12, 17, 18, 24) ・アフリカゾウ冷やしスイカ始めました (8/10, 11, 12, 17, 18, 24, 25) ・夜の動物園スペシャルツアー (8/10, 11, 17, 18, 24) ・夜の生きものかんさつ@多摩動物公園 (8/10, 18) ・コウモリウォッチング (8/10, 18, 24) ・旧類人猿舎公開 (8/10, 8/24) ・夜も虫となかよし (8/10～12) ・カブトムシ教室 (8/10～12) ・「世界ゾウの日」 いっしょに動物かんさつ (8/11) ・雑木林で生きものさがし! (8/11) ・フクロウがなく夜の音楽会 (8/11) ・アヌーラに会いに行こう (8/12) ・夜のスペシャルトーク「ナイトハンターフクロウの全て」 (8/17) ・海の生きものがやってくる! (8/17) ・モルモットにさわってみよう! (8/17, 24) ・夜の生態園ツアー (8/17, 24) ・着ぐるみのグリーティング (8/18) 	8/10, 11, 12, 17, 18, 24
親子向けプログラム「人間と動物のつながり-縄文人のくらしを探る」(公益財団法人東京都埋蔵文化財センターと共催)	8/18
打ち水日和～江戸の知恵・東京のおもてなし～	8/20
自然観察会「ハンターに会いに行こう!」(茨城県自然博物館と共催)	8/24
<p>子供写生画コンクール作品募集!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表彰式 (11/3) ・入選作の展示 (10/31～11/26) 於: ウォッチングセンター 	8/19～9/23
<p>長寿お祝いイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長寿個体の紹介: 動物舎前にお祝い看板を掲示 ・長寿トーク (9/15, 16) 	9/5～17
動物慰霊祭	9/23
<p>第5回都立動物園アフリカフェア—野生動物のふるさと アフリカの今とこれから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタンプラリー (9/28～10/27) ・アフリカフェアオープニングセレモニー (10/26) ・アフリカ音楽とダンスを楽しむ会 (10/26) ・アフリカ各国紹介ブース (10/26～27) ・アフリカの民族衣装着付け体験 (10/26～27) ・みんなでかんさつ、チンパンジー (10/27) 	9/28～10/27
野生生物保全センター企画展「すすめ、地球生命隊 きみも隊員だ」 フロアガイド	10/20

<p>コアラ来園・コアラのマーチ発売 35 周年記念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタンプラリー ・飼育日誌で見るコアラの赤ちゃん成長記録 於：ウォッチングセンター ・オーストラリアの動物たちクイズ ・コアラウルトラクイズ「めざせコアラ博士!？」(11/3) ・親子向けワークショップ「コアラのひみつをさぐれ!」(11/17) 	10/21～12/22
<p>文化財ウィーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解説カードの配布 ・キーワードラリー ・特別ガイドツアー「天然記念物の動物たち」(10/26) 	10/26～11/4
たまごツリー	1/2～1/31
<p>新年イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着ぐるみの動物たちと園長のお出迎え ・新年スペシャルねずみ〇×クイズ (1/2) ・干支のガイドツアー「多摩のねずみたち」(1/3) ・干支のキーパーズトーク (1/3) 	1/2, 3
<p>Visit ほっと Zoo 2020「みてみよう 東京のいきもの ここにいる!」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードクイズラリー ・ほっとポイントガイド (2/2, 9, 15) 	1/9～3/1
電車であわろう! 動物園&水族園スタンプラリー	1/9～3/1
浜中町展 (映像上映) 於：ウォッチングセンター	3/1～3/17
アースウォッチ的大人の遠足「都立動物園・水族園での保全活動を知る」	1/25
どうぶつえん寄席～令和2年のニャーニャーニャー二代目江戸家小猫独演会	2/22
浜中町展 (映像上映) 於：ウォッチングセンター	3/1～3/17
東京ジュニア科学塾	3/8 (中止)

③ 葛西臨海水族園

内 容	実施日
「飼育の日」スペシャルスポットガイド (4/20, 21)	4/20, 21
「飼育の日」スタッフトーク (4/21)	4/20, 21
海ごみの展示 於：ガラスドーム内	4/27～5/6
拡大しおだまり (解説の実施回数を拡大)	4/28, 29
拡大ガイドツアー (ツアー実施回数の拡大)	5/1, 2
ドリームナイト・アット・ジ・アクアリウム	5/25

Night of Wonder—夜の不思議の水族園 <ul style="list-style-type: none"> ・夕暮れトーク ・バイオルミネッセンス 海にうかぶ生物の光 -発光生物の標本展示- ・バイオルミネッセンス 海にうかぶ生物の光 -ウミホテルの発光実験- ・サンセットガイド ・特設展示 海のゆりかご (夜間ライトアップ) ・夜のスペシャルガイド ・夜の水辺探検 ・Wonder Stage 	8/11～16
打ち水日和～江戸の知恵・東京のおもてなし～	8/21
第5回都立動物園アフリカフェア—野生動物のふるさと アフリカの今とこれから」スタンプラリー	9/28～10/27
ボランティアーズ Day	10/5
サステナブル・シーフード・ウィーク 2019「オープニングイベント」(MSC 日本事務所・ASC ジャパン主催)	10/8
開園記念日イベント「All about MAGURO 30th Anniversary」 <ul style="list-style-type: none"> ・ファンタジーミュージカル「ホヌ・バイ・ザ・シー」(10/13,14) ・体験! マグロラボ (10/13,14) ・クイズラリー「挑戦! マグロ魚タッチング」(10/13,14) ・情報資料室「マグロのぞき」(10/13,14) ・10min. ライブ「マグロってすごい!」(10/14) ・スペシャルガイドツアー「マグロ裏側探検」(10/14) 	10/12～14
文化財ウィーク 解説カードの配布	10/26～11/4
水族園お仕事体験! 特別編 マグロのえさやり現場をのぞいてみよう	11/4
海鳥講演会「つどえオロロ～ン!」関連イベント <ul style="list-style-type: none"> ・巡回パネル展「一挙集結!! オロロンをまもる仲間たち」於: レストラン「シーウィンド」壁面 ・北海道羽幌町物産展 (11/9,10) ・レストランで甘えびカレー販売 (11/9,10) 	11/1～12/28
クリスマス特別企画 スイーツツアー「海の中のオス♂メス♀事情」	12/21, 22
新年イベント「水族園のお正月 2020」 <ul style="list-style-type: none"> ・新春・水族園スペシャル福引き ・おめでたい生き物クイズラリー ・園長と「ペンちゃん」、「ガンちゃん」がお出迎え ・マグロのおだしをプレゼント ・海のネズミにチュー目! クイズラリー ・新春初打ち! 江戸川区発 和太鼓演奏 (1/3) 	1/2, 3
電車でまわろう! 動物園&水族園スタンプラリー	1/9～2/28
Visit ほっと Zoo 2020「みてみよう 東京のいきもの ここにいる!」	1/9～2/28

<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードクイズラリー ・ガイドツアー (2/17, 21) 	
Deep of Wonder -不思議な深海の生き物たち- <ul style="list-style-type: none"> ・深海クイズラリー(1/14~2/28) ・深海ラボ (1/25~26) ・深海スタッフトーク (2/2) 	1/14~2/29
大道芸 de ほっと Zoo!! 2020	2/16
#おうちでかさりん (Twitter による情報提供)	3/2~
ホワイトデー特別企画 スイーツツアー「海の中のオス♂メス♀事情」	3/7, 8 (中止)
こども新聞記者体験 (シャポー小岩と共催)	3/28 (中止)

④ 井の頭自然文化園

内 容	実施日
「リスの小径」オープン 30 周年記念「文化園一春のリスまつり」 <ul style="list-style-type: none"> ・リスのオブジェが登場！ ・ニホンモモンガの展示 ・スタンプ対象ガイドに参加して限定缶バッジをもらおう！ ・春のリスまつり スタンプラリー (3/1~5/19) ・リスの巣箱をのぞいてみよう！ ・大きな巣箱で、なりきりリス！ ・春のリスまつり twitter フォトコンテスト (3/1~4/21) ・スペシャルデイズ「飼育係のスペシャルガイド」(4/4 他) ・園長ガイド「大人向け一園長とどうぶつえん散歩」(4/21, 29) ・スペシャルデイズ施設係のスペシャルガイド「シャクナゲ園のお話」(4/30) ・ありがとうの千秋楽！「リスまつり Twitter フォトコンテスト」表彰式 (5/6) ・ありがとうの千秋楽！リスまつりクルミを植えて千秋楽！ (5/6) ・ありがとうの千秋楽！リス音頭みんなで踊ろう千秋楽！ (5/6) 	3/1~5/6
兜かざり	3/28~5/9
リスまつりの飼育の日 <ul style="list-style-type: none"> ・特別展示「飼育係の秘密道具」 ・「飼育の日スペシャルキーパーズトーク」(4/19~21) ・「飼育係の制服を着て『飼育係になってみよう！』」(4/20, 21) ・「みんなで踊ろう『いのかしらりす音頭』ふたたび！」(4/20, 21) 	4/16~5/12
石膏型抜きワークショップ	5/10, 11
井の頭自然文化園開園 77 周年記念イベント <ul style="list-style-type: none"> ・大人向け一園長とどうぶつえん散歩 (5/18) ・フェネックの着ぐるみがお出迎え ・飼育係のいきものガイド・特別編 	5/18, 19

・農園芸職員とめぐる文化園植物ツアー ・動物解説員とめぐる自然文化園歴史探検 (5/19)	
おえかきZOO—どうぶつたちを描いてみよう	5/21～7/15
アジアゾウはな子の献花台設置	5/24～27
ボランティアによる山野草園ガイド	5/26
彫刻園特設展本山ひろ子ワークショップ「金属を溶かして作品をつくってみよう第2回」	5/26
ドリームナイト・アット・ザ・ズー	6/8
七夕飾り	6/21～7/7
ウェルカム展示 (夏) ～Cool Zoo スポット～ ・「ミストの小径」(7/2～8/31) ・「リスに氷クルミのプレゼント」(7/14～8/25) ・「熱中症予防隊」(7/25～8/31)	7/2～8/31
怪談スタンプラリー「動物園怪談画劇—井の頭百物語・漆(しち)」	7/20～9/1
象のUNKOで紙を作っちゃおう!・象のUNKOアート展	8/11
もののけワークショップ—動物園オリジナル妖怪をつくろう!	8/17
SaLaD ミニコンサート	8/18
打ち水日和～江戸の知恵・東京のおもてなし～	8/24
文化園秋のお茶席	9/16
動物慰霊祭	9/23
第5回都立動物園アフリカフェア—野生動物のふるさと アフリカの今とこれから」 スタンプラリー	9/28～10/27
ちょっとおでかけ秋の夜長の自然文化園 ・屋外彫刻作品ライトアップ ・匠が語る、結びの世界 ・彫刻園ミニコンサート ・夜のちょうこくたんけん ・夜のモルモットふれあいコーナー ・飼育係のいきものガイド・夜編 ・ゾウ舎上映会 ・園長の夜長トーク ・夜のどうぶつたんけん ・工作教室「ペンダントづくり」 ・ヤマネコガイド ・池の中をのぞいてみよう ・夜の鳥は何してる? ・ボトルウォッチング	10/12～13 10/12は荒天中 止
ヤマネコ祭 2019 ・野生動物を守る取り組みを知る—団体の活動紹介展	10/26, 27

<ul style="list-style-type: none"> ・ ツシマヤマネコ情報館 ・ ツシマヤマネコふわふわエアドーム ・ 大きな巣箱に入ってヤマネコの気持ちになってみよう ・ 動物解説員のヤマネコガイド「ヤマネコのくらし」 ・ ヤマネコおはなし会 ・ ヤマネコフェイスペインティング ・ ボランティアのヤマネコガイド@ヤマネコ祭 ・ ヤマネコワークショップ「岡田宗徳さんとヤマネコを描こう！お絵描き教室」(10/26) ・ ヤマネコワークショップ「ヤマネコストラップをつくろう」(10/27) ・ うたうヤマネコおんがく会 (10/27) ・ 飼育係のいきものガイド@ヤマネコ祭 (10/27) 	
文化財ウィーク <ul style="list-style-type: none"> ・ 解説カードの配布 ・ 特別ガイドツアー「天然記念物の動物たち」(11/2) 	10/26～11/4
彫刻ワークショップ「粘土で家族の顔をつくってみよう」	11/9
動物愛護・譲渡事業 PR イベント	11/12～24
第 49 回「野鳥の巣箱コンクール」受賞作品展	11/12～24
ASABI 井の頭自然文化園プロジェクト	1/12～27
文化園植物ツアー	11/17
ウェルカム展示 (冬)「2019 クリスマス・ファンタ Zoo」	11/20～12/25
文化園干支スタンプラリー「ちゅうちゅうめぐり」	12/14～1/5
園長サンタと記念撮影をしよう♪	12/22
新年イベント <ul style="list-style-type: none"> ・ 園長によるお出迎え ・ 新春・園長のどうぶつえんガイド ・ 新春・どうぶつえんおみくじ ・ 干支のいきものガイド ・ 浅草雑芸団の大道芸 (1/2) ・ 琉神による琉球獅子舞 (1/3) 	1/2, 3
Visit ほっと Zoo 2020「みてみよう 東京のいきもの ここにいる！」 <ul style="list-style-type: none"> ・ キーワードクイズラリー ・ ほっとポイントガイド (2/9, 15, 22, 23) 	1/9～3/1
電車であわろう！動物園&水族園スタンプラリー	1/9～3/1
農園芸職員とめぐる「雪吊り・霜除けガイド」	1/18
February Concert at the Zoo <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回「チリンとドロンのコンサート」(2/2) ・ 第2回「音のどうぶつえん」(2/9) ・ 第3回「アンサンブルマタンのクラシック王座決定戦」(2/16) 	—
大道芸 de ほっと zoo!!2020	2/8

刺繍ワークショップ「刺繍でモルモットをつくろう」	3/21 (中止)
文化園植物ガイド	3/23 (中止)

(5) 特設展・企画展

① 恩賜上野動物園

内 容	期 間
両生爬虫類館特設展示「ハラペコロジー—なにを食べる？どう食べる？」於：両生爬虫類館	2019/3/28～
東京都美術館「奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド」とのコラボパネル展 於：各展示前	2/9～4/7
国立科学博物館「大哺乳類展2」とのコラボパネル展 於：各展示前	3/21～6/16
飼育係の「ひみつの道具」於：各展示前	4/20～21
「20周年を迎える「両生爬虫類館」へ行こう！」於：両生爬虫類館	7/20～9/8
パネル展「ユニーク！動物たちの年齢のヒミツ」於：各展示前	9/10～9/29
作品展示「芸大×動物園 アートでみる動物たち」於：両生爬虫類館・日本の鳥Ⅰ	11/6～11/17
ネズミのマップ「上野で会える！ネズミのなかま（げっ歯目）たち」於：両生爬虫類館	12/10～1/13

② 多摩動物公園

内 容	期 間
生態園 30周年記念企画展 於：昆虫園本館	2/23～6/18
写真展『『インセクタリウム』の表紙を飾った昆虫たち』於：昆虫園本館	2/23～6/18
チンパンジーパネル展 於：チンパンジー舎	7/13～8/10
カブトムシの展示 於：ウォッチングセンター	7/18～9/3
野生生物保全センター企画展「すすめ、地球生命隊 きみも隊員だ」 於：ウォッチングセンター	7/18～10/22
秋の鳴く虫展 於：昆虫園本館	9/5～9/24
美術作品展「りかびてん」 於：ウォッチングセンター	10/31～11/26
干支の企画展「ちゅう げっ歯類展～むちゅうになるおもしろいなかまたち PART 2～」 於：ウォッチングセンター	12/26～ 2020/6/2

③ 葛西臨海水族園

内 容	期 間
特設展示「海のゆりかご」於：「東京の海」エリア特設展会場	2018/11/1～ 2020/2/29
企画展示「河童を飼ウの法」於：「水辺の自然」エリア内 淡水生物館	8/15～10/15

④ 井の頭自然文化園

内 容	期 間
アジアゾウ舎特設展「アジアゾウはな子について」 於：アジアゾウ舎	2017/1/31～
資料館特設展示「園長室前いきもの広場」 於：資料館	2018/11/17～ 2019/11/24
彫刻館特設展 Art and the Zoo vol.5「どいて どいて 舟がでるよ — 鑄金家 本山ひろ子作品展」 於：彫刻館 B 館	2019/1/19～ 6/9
ミニ展示コーナー（正門先） ・オタマジャクシ展(3/31～5/27)・アゲハ展(5/28～6/16)・「ナナフシモドキ展(7/14～8/19)・カブトムシ展(8/20～8/31)・コクワガタ展(9/4～10/4)・アオスジアゲハの幼虫(10/5～27)・アゲハの幼虫(10/29～11/14)・春を待つチョウたち(11/15～)	—
彫刻館特設展「ひととプロフィール — 北村聖望の肖像彫刻 —」 於：彫刻館 B 館	8/10～10/31
彫刻館特設展「塑造+仏像 — 北村西望とみほとけ —」 於：彫刻館 B 館	11/19～2/29
資料館特設展 Art and the Zoo vol.6「いと、いと、いきもの — 川端遥香刺繍作品展 —」 於：資料館	1/25～5/31

(6) その他プログラム

① 恩賜上野動物園

内 容	期 間
子どものための秋のお楽しみ会 ウシの絵本の読み聞かせとウシの飼育員さんのおはなし 於：国際子ども図書館	11/10

② 多摩動物公園

内 容	期 間
カブトムシ教室（東京観光情報センター多摩主催） 於：エキュート立川	8/6
パートナーシップ関連イベント「浜中町と多摩動物公園を結ぶトウキョウトガリネズミ——小さな生きものが結ぶ縁」 於：霧多布湿原センター ・パネル展「トウキョウトガリネズミが結ぶ縁」(12/4～1/1) ・講演会(12/15)	12/4～1/1

③ 葛西臨海水族園

内 容	期 間
海鳥フェスティバル 於：北海道海鳥センター	7/20
第48回江戸川区特産金魚まつり 於：江戸川区行船公園	7/20, 21
湿地の恵みフェスタ 葛西海浜公園ラムサール条約登録1周年記念「湿地の恵み展」 於：新宿西口広場	9/12～13

④ 井の頭自然文化園

内 容	期 間
三鷹国際交流フェスティバル 於：井の頭公園西園（(公財)三鷹国際交流協会と三鷹青年会議所共催)	9/23
第12回むさしの環境フェスタ 於：武蔵野クリーンセンター（武蔵野市主催）	11/10

3. 体験プログラム・フィールドプログラム

自然科学への探求心、動物園や野生生物に関する知識を深めるとともに、環境保全意識の向上を図ることを目的として様々なプログラムを実施した。

(1) 体験プログラム

① 恩賜上野動物園

内 容	期 間
うへのZOOスクール	
・「みんなでつくるおもしろ動物図鑑コース」	6/29, 30
・「子ども動物園探検コース」	7/6, 7
・「動物園のお仕事発見コース」	7/6, 7
・「ウマ博士になろう！」	7/30, 31
・「足から探る鳥のくらし」	12/7, 8

② 多摩動物公園

内 容	期 間
チャレンジプログラム「この夏、生きものに会いに行こう！」	7/20, 21
オータムスクール	
・「ほ乳類・鳥類コース」	9/7, 8
・「昆虫園コース」	9/7, 8
動物園ふしぎ発見教室	10/19, 20
中高生向けプログラム「サイエンズーカフェ」	3/7, 15 (中止)

③ 葛西臨海水族園

内 容	期 間
海のおそびや	
・第1回「生き物の体を探ろう！」	5/12
・第2回「生き物探しの名人になろう！」	7/25
・第3回「生き物のすみかを探検！」	9/29
・第4回「いろいろな生き物を探求しよう！」	11/17

進め！海のいきものたち ・第1回「海へ行こう！」 ・第2回「エビ」 ・第3回「ヤドカリ」 ・第4回「イソギンチャク」	5/18 8/25 12/1 2/23（中止）
いきものことはじめ 「さめのまき」	7/22
集まれ！汐っ子たち 2019	7/23
海の学び舎 ・第1回「二枚貝じゃない？ スローライフな腕足動物の謎」 ・第2回「複数分類群にまたがる『クラゲ』とゼラチン質プランクトン」 ・第3回「原始の脊椎動物ヌルヌル魚（ヌタウナギ）の秘密」	11/3 12/7 1/19

④ 井の頭自然文化園

内 容	期 間
文化園いきものクラブ ・第1回「動物の食べものしらべ」 ・第2回「ニホンリスとクルミ」 ・第3回「鳥のからだのひみつ」 ・第4回「井の頭池いきものたんけん」	7/6 11/4 1/11 3/15（中止）
大学生のためのズーカレッジ	9/19～9/22

(2) フィールドプログラム

① 恩賜上野動物園

内 容	期 間
セミとコウモリの観察会 於：不忍池畔	8/3

② 多摩動物公園

内 容	期 間
ホタル観察会 於：園内	6/21, 23
冬の昆虫観察会 於：七生公園	12/14
初心者野鳥観察会 於：園内	3/1（中止）
ムササビの棲む森を見よう 於：高尾山	3/15（中止）
雑木林でいきものさがし！-春の七生公園で野鳥観察- 於：七生公園	3/20（中止）

③ 葛西臨海水族園

内 容	期 間
フィールドプログラム「東京の海を知る」 ・第1回「ラムサール条約湿地・葛西臨海公園の人工干潟を訪ねる」 於：西なぎさ	5/19

<ul style="list-style-type: none"> ・第2回「東京湾のアマモ場と干潟を訪ねる」於：金田みたて海岸 ・第3回「東京湾で魚を釣る・食べる」於：江戸川放水路河口 ・第4回「海苔をつむ・つくる・食べる」於：金田みたて海岸 	<p>6/22</p> <p>9/21</p> <p>1/13</p>
親子向け観察会「トビハゼの調査地をたずねる」於：江戸川放水路	6/29（雨天中止）

④ 井の頭自然文化園

内 容	期 間
身近ないきもの探検	
・「カエルとオタマにだいせつきん」於：園内	6/23
・早朝観察会「もぐもぐミミズは働きもの」於：園内	8/31
・早朝観察会「アリの世界を知ろうーアリエンターリング」於：園内	9/7
・「いきものたちの冬越しをのぞいてみよう」於：園内	12/15

(3) 講演会

動物園・水族館及び自然、野生動物の知識を深めるために、大人から子供まで様々な年齢層を対象に、講演会を実施した。

① 合同開催

内 容	参加者
<p>【教育普及シンポジウム「気づき・学び・楽しみ」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月26日（日）於：東京都美術館 講堂 <p>教育普及事業方針の発表 日橋一昭（教育普及センター所長）</p> <p>基調講演「Zoo Schoolに必要なもの」</p> <p>上田一生 氏（ペンギン会議研究員、目黒学院高等学校教諭）</p> <p>都立動物園・水族園職員による話題提供</p> <p>天野未知（多摩動物公園 教育普及係長）</p> <p>馬島 洋（教育普及センター 教育企画係）</p> <p>雨宮健太郎（葛西臨海水族園 教育普及係 移動水族館 班長）</p> <p>金原 功（井の頭自然文化園 教育普及係長）</p> <p>鳥飼香子（恩賜上野動物園 教育普及係長）</p>	175名
<p>【都立動物園・水族園合同企画 身近な水辺保全講演会 第1回「水辺の植物・動物・人のつながりを考える」】（中止）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月29日 於：井の頭自然文化園資料館集会室 <p>講演1「井の頭自然文化園における両生類の保全活動」</p> <p>高濱由美子（井の頭自然文化園 水生物館飼育展示係）</p> <p>講演2「かいぼり後に見られた井の頭池の生き物の様子」</p> <p>土屋 泉（井の頭自然文化園 水生物館飼育展示係）</p> <p>講演3「河原の象徴種カラノギクと干潟の象徴種ウラギク」</p>	—

倉本 宣 氏 (明治大学農学部 教授)	
【都立動物園・水族園合同企画 身近な水辺保全講演会 第2回「江戸前のウナギとカニとトビハゼと…」】 (中止) ・ 3月1日 於：葛西臨海水族園 レクチャールーム 講演1 「葛西臨海水族園のトビハゼ保全活動について」 笹沼伸一 (葛西臨海水族園 飼育展示課 飼育展示係) 講演2 「伝統工法と新技術で救う水辺のウナギ」 柵瀬信夫 氏 (鹿島建設株式会社 環境本部)	—

② 上野動物園

内 容	参加者
【パンダの日記念講演会「モスクワ動物園におけるジャイアントパンダの歴史」】 ・ 10月19日 於：東京都美術館 講堂 講演1 「モスクワ動物園におけるジャイアントパンダ飼育の歴史」 Svetlana Akulova 氏 (モスクワ動物園) 講演2 「上野動物園におけるジャイアントパンダの飼育と繁殖」 中島麻衣 (上野動物園 飼育展示課 東園飼育展示係) 講演3 「上野動物園に新しくオープンするパンダ舎について」 税所典久 氏 (東京都建設局)	172 名
【上野の山文化ゾーンフェスティバル 講演会シリーズNo. 13】 ・ 11月17日 於：東京都美術館 講堂 ・ 上野の山文化ゾーン連絡協議会と共催にて実施 講演「世界の動物園事情」 福田 豊 (上野動物園 園長)	143 名
【「神の鳥ライチョウを守る」】 ・ 2月15日 於：東京都美術館 講堂 講演1 「組織で守る—ライチョウ保護増殖事業について」 講演2 「生息地で守る—高山帯でおこなわれている保全策の現状とこれから」 福田 真 氏 (環境省 信越自然環境事務所 野生生物課 希少生物係長) 講演3 「動物園で守る—生息域外保全の取組み」 高橋幸裕 (恩賜上野動物園 飼育展示課 東園飼育展示係) 講演4 「私たちが守る—ライチョウの一般公開が市民の関心・行動に与えた影響を大規模ウェブデータから解明する」 深野祐也 氏 (東京大学大学院 農学生命科学研究科 生態調和農学機構)	211 名

③ 多摩動物公園

内 容	参加者
【アフリカフェア 記念講演会】 ・ 10月27日 於：園内 動物ホール	82 名

<p>お話1「ベッドで眠るチンパンジー」 座馬耕一郎 氏（長野県看護大学 准教授）</p> <p>お話2「のぞいてみよう！ 動物園でのチンパンジーの暮らし」 野田瑞穂（多摩動物公園 飼育展示課 北園飼育展示係）</p>	
<p>【干支の講演会「人とねずみ あなたにとってねずみとは？」】</p> <p>・1月13日 於：園内 動物ホール</p> <p>都立動物園・水族園4園の園長による新年の挨拶と最近の4園ニュースの紹介 福田 豊（上野動物園）、渡部浩文（多摩動物公園）、 永井 清（井の頭自然文化園）、錦織一臣（葛西臨海水族園）</p> <p>お話①「好きなねずみと嫌いなねずみ/ねずみ概論」 岩淵けい子（多摩動物公園 教育普及係）</p> <p>お話②「日本人とねずみ——江戸時代のねずみとのつきあい」 安田容子 氏（東北大学 災害科学国際研究所）</p> <p>お話③「カヤネズミの生態と保全」 畠佐代子 氏（全国カヤネズミ・ネットワーク 代表）</p>	228 名
<p>【干支の講演会PART2「トウキョウトガリネズミが結ぶ縁」】（中止）</p> <p>・3月1日 於：園内 動物ホール</p> <p>講演1「北海道浜中町と多摩動物公園のパートナーシップについて」 金子美香子（多摩動物公園 副園長兼飼育展示課長）</p> <p>講演2「トウキョウトガリネズミのふるさと浜中町」 齊藤清隆 氏（北海道浜中町 副町長）</p>	—
<p>【野生生物保全センター講演会「野生生物を救護する=動物園にできること-」】（中止）</p> <p>・3月21日 於：園内 動物ホール</p> <p>講演1「野生動物を救護する—希少種の保全から地域づくりまで」 長嶺 隆 氏（どうぶつたちの病院 沖縄 理事長）</p> <p>講演2「アカガシラカラスバト—東京の鳥を守る」 小島善則（多摩動物公園 野生生物保全センター）</p> <p>講演3「クロツラヘラサギ—保護された個体の活躍」 石井淳子（多摩動物公園 野生生物保全センター）</p> <p>講演4「ツシマヤマネコ—井の頭自然文化園が取り組む保全と飼育」 唐沢瑞樹（井の頭自然文化園 飼育展示係）</p>	—

④ 葛西臨海水族園

内 容	参加者
<p>【海鳥講演会「つどえオロロ〜ン！」】</p> <p>・11月10日 於：園内 レクチャールーム</p> <p>第1部</p> <p>講演1「海鳥の『水中行動』を研究する」 佐藤信彦 氏（東京大学 大気海洋研究所 資源生態分野 特任研究員）</p> <p>講演2「これからも海鳥と共に暮らしていくために」</p>	51 名

<p>齊藤 暢 氏（一般社団法人天売島おらが島活性化会議 代表理事）</p> <p>第2部「オロロンフォーラム」</p> <p>パネリスト：佐藤信彦 氏、齊藤暢 氏、石郷岡卓哉 氏（北海道海鳥センター）、葛西臨海水族園職員</p>	
<p>【深海トークショー】</p> <p>・2月9日 於：園内 レクチャールーム</p> <p>第1部「深海にすむ生物たち—その謎と魅力に迫る」</p> <p>窪寺恒己 氏（国立科学博物館 名誉研究員、日本水中映像株式会社 学術顧問）</p> <p>第2部「浅い海で深海からの旅人を待つ」</p> <p>中村宏治 氏（日本水中映像株式会社 代表取締役 会長）</p>	70名
<p>【大人のためのスイート講演会 Episode5 「メスからオス、オスからメス、そして…」】</p> <p>（中止）</p> <p>・3月15日 於：園内 レクチャールーム</p> <p>第1部「性を変える魚たち～生き物の性の多様性」</p> <p>狩野賢司 氏（東京学芸大学 教授）</p> <p>第2部「魚の性転換と婚姻関係：一夫一妻から乱婚まで」</p> <p>須之部友基 氏（東京海洋大学 館山ステーション 教授）</p>	—

⑤ 井の頭自然文化園

内 容	参加者
<p>【春のリスまつり特別企画講演会「森のどうぶつ・リスはとってもおもしろい！」】</p> <p>・4月13日 於：園内 資料館集会室</p> <p>講演1「井の頭自然文化園におけるニホンリスの飼育と展示」</p> <p>井上智右（井の頭自然文化園 飼育展示係）</p> <p>講演2「ニホンリスのくらしと森、そして私たち」</p> <p>田村典子 氏（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）</p>	49名
<p>【日本のいきもの講演会「オタマジャクシが形をかえる!？」】</p> <p>・6月23日 於：園内 資料館集会室</p> <p>講演「オタマジャクシが形をかえる!？」</p> <p>岸田 治 氏（北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授）</p>	56名
<p>【ヤマネコ祭 2019 特別企画講演会】</p> <p>・10月26日 於：園内 資料館集会室</p> <p>講演1「井の頭自然文化園が取り組むツシマヤマネコの飼育と繁殖」</p> <p>唐沢瑞樹（井の頭自然文化園 飼育展示係）</p> <p>講演2「うんこで調べるツシマヤマネコの排卵と妊娠」</p> <p>楠田哲士 氏（岐阜大学 応用生物科学部 准教授）</p> <p>講演3「ツシマヤマネコの栄養管理に関する研究」</p> <p>太田能之 氏（日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 教授）</p>	50名

⑥ 他団体との共催講演会

内 容	参加者
<p>【アジア地域における動物園水族館連携シンポジウム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月29日 於：東京都美術館 講堂 ・ 公益社団法人日本動物園水族館協会と共催にて開催 	157名
<p>【第1回動物園ランドスケープ会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月2日 於：上野動物園 ・ 動物園ランドスケープの会と共催にて開催 <p>趣旨説明 山下博史（東京動物園協会）</p> <p>講演 I 「動物園ランドスケープの方法」 若生謙二氏（大阪芸術大学）</p> <p>講演 II 「動物園における植物：動物福祉とランドスケープ」 本田直也氏（札幌市円山動物園）</p> <p>事例報告1 「生息環境を再現した展示施設で見られたユーラシアカワウソの哺育行動」 中村千穂氏（アクアマリンふくしま）</p> <p>事例報告2 「ときわ動物園の生息環境展示——飼育の現場から」 村田真木氏（宇部市ときわ動物園）</p> <p>事例報告3 「動物園らしい景色づくりと植物管理」 村木博介（多摩動物公園）</p> <p>事例報告4 「ミーアキャット展示場のリニューアルについて」 清田義昭氏（千葉市動物公園）</p> <p>事例報告5 「野生動物の生息地としての動物園ランドスケープ整備とその利用」 馬島洋（東京動物園協会）</p> <p>情報提供6 「動物園園芸協会年次大会への参加報告」 三浦翔太（多摩動物公園）</p> <p>パネルディスカッション「動物園のランドスケープを考える」 若生謙二氏、本田直也氏、安部義孝氏（アクアマリンふくしま館長） 森由民氏（動物園ライター）、コーディネーター：山下博史</p>	145名
<p>【日本動物園水族館協会創立80周年記念事業 公開シンポジウム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12月21日 於：多摩動物公園 動物ホール ・ 公益社団法人日本動物園水族館協会と共催にて開催 <p>基調講演「法律学の視点から見た動物園水族館の問題と課題、そして将来展望」 諸坂佐利氏（神奈川大学法学部、日本動物園水族館協会顧問）</p> <p>4人の園館長からのお話 福田 豊（上野動物園）、田中理恵子氏（埼玉県こども動物自然公園） 勝俣 浩氏（鴨川シーワールド）、錦織一臣（葛西臨海水族園）</p>	152名

4. 学校教育との連携

(1) 教員研修、学校教員セミナー

① 授業に活かせる「動物園・水族園」講座

主に小学校の教員を対象として、飼育展示動物や施設を活かした生きものの観察法、飼育法、採集法、教授法等を紹介し、校外学習で利用するポイントと授業へのヒントを探る講座を実施した。

実施園	講座名	実施日	参加者
上野	6年理科 観察から探る「消化」	8月2日	21名
	動物園で学ぶ理科・国語	8月6日	44名
		8月7日	44名
多摩	動物の骨と筋肉	7月26日	22名
		8月1日	21名
	3年理科 昆虫を知ろう	8月5日	23名
		8月8日	21名
はじめての動物飼育 ～全学年で活用できるカブトムシ～	2月8日	17名	
葛西	干潟を観察！環境と生きものを知る	7月31日	33名
		8月1日	30名
	はじめての動物飼育 ～水の生きもの～	2月1日	13名
井の頭	身近なムシの調べ方・よび寄せ方	7月25日	33名
	井の頭池で調べる水辺の生きもの	7月30日	15名
	はじめての動物飼育 ～モルモット～	1月25日	13名
計			350名

② その他の教員向け研修・セミナー

実施園	講座名	実施日	参加者
上野	東京都小中学校環境教育研究会	6月22日	23名
	東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修Ⅰ	8月5～7日	44名
	東京私立小学校教員研修会	2月6日	52名
多摩	東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修Ⅰ	8月19～21日	3名
	東京都専門性向上研修：見学指導	10月18日	22名
	日野市教員研修	12月26日	76名
	幼稚園・保育園・小学校の先生対象「生きもの好きな子どもを育てよう」(中止)	3月22日	—
葛西	東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修Ⅰ	7月29～31日	3名

(2) 児童・生徒・学生などを対象としたプログラム

園名	内容	件数・対応人数
上野	団体見学指導	41件 2,262名
	団体ふれあい体験指導(子ども動物園)	59件 2,881名

園名	内容	件数・対応人数
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	702件
	職場訪問	63件 371名
	職場体験	7件 12名
	アウトリーチ：出張授業・講師派遣など	9件
多摩	団体見学指導	124件 10,044名
	団体ふれあい体験指導（モルモット教室）	63件 2,674名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	745件
	職場訪問	10件 91名
	職場体験	10件 29名
	アウトリーチ：出張授業・講師派遣など	11件
葛西	団体見学指導	314件 18,888名
	団体ふれあい体験指導（タッチンフィーリン）	127件 6,034名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	418件
	職場訪問	39件 235名
	職場体験	12件 35名
	アウトリーチ：出張授業・講師派遣など	11件
井の頭	団体見学指導	109件 6,925名
	団体ふれあい体験指導（モルモットふれあいコーナー）	—
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	113件
	職場訪問	3件 15名
	職場体験	8件 16名
	アウトリーチ：出張授業・講師派遣など	4件

（3）教材の貸出・提供、教育プログラムの開発

事前学習や当日の見学時に活用するための教材の開発と提供を行った。また、生き物を見るポイントや園の見どころ、プログラム・教材を紹介した教育活用ガイドブックなどの参考資料を引率者に配布した。

園名	内容	件数・対応人数
上野	団体向け教材貸出 ・わくわく観察バッグ、クイズdeスタンプなど	220件 22,060名
	配布資料 ・観察ガイドブックレット	—
多摩	団体向け教材貸出 ・紙芝居セット、動物ふしぎ発見ポケットなど	603件 59,784名
	配布資料 ・セルフガイドブックレット、動物クイズなど	
葛西	団体向け教材貸出 ・オリジナルビデオ	0件
	配布資料 ・事前学習用DVD	400件

園名	内容	件数・対応人数
	・水族園魚タッチングシート（ダウンロード教材）	—
井の頭	団体向け教材貸出 ・事前学習キット	—
	配布資料 ・ワークシート用資料集	—

（４）園内における大学教育の実践

連携協定を締結した大学等、大学・専門学校の学生に向けた講義、実習プログラム等を実施した。

① 実習

内容	上野	多摩	葛西	井の頭	計
飼育実習	35名	40名	—	2名	77名
獣医臨床実習	13名	3名	—	—	16名
博物館実習	8名	12名	12名	8名	40名
特別実習（研究・卒論）	6名	7名	—	—	13名
インターンシップ（首都大）	2名	2名	—	2名	6名

他：都立高校の奉仕の日6名（多摩）

② 講義・見学指導（アウトリーチを含む）

園名	内容
上野	<ul style="list-style-type: none"> ・日本獣医生命科学大学 人間動物関係論 見学実習（5/13） ・東京家政学院大学（6/23） ・日本大学 理工学部 学芸員課程 博物館見学実習（7/9） ・帝京科学大学 学芸員課程 博物館見学実習（9/6） ・首都大学東京プレミアム・カレッジ 生涯学習講座「都市の自然と里山」（12/12） ・日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学科 見学実習（12/20） ・武庫川女子大学（2/21）
多摩	<ul style="list-style-type: none"> ・帝京科学大学 見学指導（4/18） ・ヤマザキ動物専門学校 見学指導（4/26） ・日本獣医生命科学大学・獣医学科 見学指導（5/10, 5/24, 6/7, 6/21） ・日本獣医生命科学大学・看護保健学科 見学指導（5/13, 5/30） ・日本獣医生命科学大学 見学指導（5/20） ・ヤマザキ動物看護大学（6/17） ・ビジョナリアーツ専門学校 見学指導（6/29） ・白梅学園大学 教職課程 見学実習（6/29） ・明星大学 見学指導（6/29） ・中央大学 見学指導（7/6） ・東京コミュニケーションアート専門学校 見学指導（7/13） ・日本獣医生命科学大学 博物館資料論（7/23） ・目白大学 見学指導（7/27） ・東京農工大学（10/23）

園名	内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人タイケン学園 日本ペット&アニマル専門学校 見学指導 (11/8) ・ヤマザキ動物看護大学 見学指導 (11/25) ・桜美林大学 見学指導 (11/30) ・白百合女子大学 見学指導 (12/14) ・法政大学 見学指導 (12/16) ・東京農工大学 共同獣医学科 獣医倫理 (12/24)
葛西	<ul style="list-style-type: none"> ・川村学園女子大学 教育学部 幼児養育学科 (4/5) ・上智大学 国際環境法ゼミ (12/3) ・日本女子大学 (12/9)
井の頭	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤマザキ動物看護専門職短期大学 (4/17) ・武蔵野大学 教育学部 (6/8) ・武蔵野美術大学 造形学部通信教育課程 生涯学習概論 (6/15, 7/20) ・東京農工大学 環境教育学研究室 (9/1) ・日本獣医生命科学大学 獣医学科野生動物学実習 動物園学 (9/6) ・日本獣医生命科学大学 学生相談室 (9/18) ・ヤマザキ動物専門学校 (10/3, 4) ・武蔵野大学 教育学部 (10/14, 11/23) ・武蔵野美術大学 ミュゼオロジー実習 特別講義 (11/2) ・日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学科 動物繁殖学実習Ⅱ (11/28) ・東京農工大学・岩手大学 共同獣医学科 動物園動物学 (2/26)

5. 移動水族館事業

葛西臨海水族園では、障がいや病気などのために来園することが難しい方々のいる特別支援学校、病院、社会福祉施設、及び教育を目的としたイベント等を対象に、海の生き物に親しむ機会を提供する移動水族館事業を実施した。専用車を活用し、水族園外においてもマアジなど東京湾の魚をテーマにしたプログラム、ウニなど磯の生き物をテーマにしたふれあいプログラムなど、生き物の観察やふれあい体験を通じた普及啓発活動に取り組んだ。令和元年10月に移動水族館活動の参加者が延べ10万人を超えた。令和元年度を通じて58回実施し、延べ13,305名が参加した。

6. 友の会運営

動物園・水族園への関心を高めるとともに、広く自然科学への興味を育ててもらうために組織している「東京動物園友の会」の運営を行った。

名 称	東京動物園友の会
会 員 数	一般：3,570名 ジュニア：296名（令和2年3月31日現在）
実 施 事 項	① 新規入会、継続手続等、受付・管理事務 ② 季刊雑誌「どうぶつと動物園」及びジュニア向け会誌「ZOO! どうぶつえんしんぶん」の送付 ③ 各種普及活動案内送付（ダイレクトメール） ④ 新規入会案内パンフレットの配布

(1) 友の会会員対象催物

実施月日	行 事 名	内容・講師等	参加者
5月25日	アオバト飛来観察と金沢動物園見学会	神奈川県大磯町照ヶ崎海岸に海水吸飲のため飛来するアオバトを観察した後、職員の特別ガイドによる金沢動物園見学会 指導：井の頭自然文化園	30名
6月21日 6月23日	ホタル観察会	園内で発生するホタルを観察 指導：多摩動物公園	計19名 (一般含 79名)
6月29日 ～7月1日	海鳥の楽園を訪ねるツアー	海鳥の繁殖地、北海道羽幌町天売島を訪ねてウミガラスやケイマフリ、ウトウなどを観察しながら海鳥の保全について学ぶ 指導：葛西臨海水族園	17名
8月3日	セミとコウモリの観察会	上野動物園でセミとコウモリを観察 指導：上野動物園	46名 (一般含 99名)
10月5日	ぐんま昆虫の森観察会	昆虫観察館特別見学と里山自然観察 指導：多摩動物公園	19名
11月16日	かみね動物園とアクアワールド・大洗水族館見学会	茨城県日立市かみね動物園とアクアワールド・大洗水族館を特別見学 指導：上野動物園	42名
1月13日	千支の動物講演会 「人とねずみ あなたにとってねずみとは？」	4園の最近の話題 お話「好きなねずみと嫌いなねずみ／ねずみ概論」：岩淵けい子（多摩動物公園教育普及係） お話「日本人とねずみ」：安田容子（東北大学災	168名 (一般含 228名)

実施月日	行 事 名	内 容・講師等	参加者
		害科学国際研究所) お話「カヤネズミの生態と保全」：畠佐代子（全国カヤネズミ・ネットワーク代表） 企画：多摩動物公園	
3月1日	初心者野鳥観察会 (中止)	初心者のための野鳥観察会 指導：多摩動物公園	—
3月7日	高碓賞表彰式・受賞 記念講演会 (中止)	講演「ミヤコドリの人工繁殖と自然繁殖」 大久保梨奈（上野動物園西園飼育展示係） 井の頭自然文化園の最近の話題	—
3月15日	ムササビ観察会 (中止)	高尾山薬王院で日没後に活動する野生のムササビを観察 講師：岡崎弘幸（中央大学附属中・高校教諭）指導：多摩動物公園	—

(2) ジュニア会員対象催物

実施月日	開 催 園	内 容	参加者
6月1日	葛西臨海水族園	なぎさの観察会	32名
9月29日	井の頭自然文化園	井の頭池でいきもの探検！	40名
12月1日	多摩動物公園	狩りをする生き物を探せ！	32名
3月1日	恩賜上野動物園	ホッキョクグマのためにできること（中止）	—

(3) 「友の会の日」の実施

令和元年度の「友の会の日」は上野動物園で開催し、講演会と園内特別見学会、友の会会員相互及び動物園スタッフとの交流を深めるための懇親会を開催した（109名参加）。

実施月日	催 物 名	内 容
9月7日	友の会の日 (上野動物園)	第1部：4園園長による最近の動物園・水族園の話題 講演「ハラペコロジーができるまで」（は虫類飼育展示係）、「真夏の夜の動物園ができるまで」（教育普及係） 第2部：ビバリウム特設店スポットガイドと西園自由見学 第3部：懇親会及びチャリティーバザー（不忍池畔ウッドデッキ）

7. 資料の収集・公開

動物及び動物園・水族館関係の専門書や学術雑誌、普及雑誌を中心に収集した。定期刊行物は、購入や寄贈のほか、動物園、博物館、研究所等の出版物との交換により収集した。

写真・ビデオ等の映像資料のほか、動物の音声資料（録音データ）も園内外の利用に供した。収蔵図書については、ウェブサイト上に図書検索システムを設けている。

(1) 図書収集状況

区 分	収集 点数	国 内			国 外			摘 要
		購入	寄贈	交換	購入	寄贈	交換	
書 籍 類	108	75	25	0	8	0	0	収蔵数 和書 13,664冊 洋書 4,156冊
雑 誌 類	508	196	132	90	78	8	4	

(2) 図書利用一覧

区分	動物園	哺乳類	鳥 類	爬虫類	魚 類	無脊椎	一 般	その他	計
件数	32	29	7	2	0	0	4	32	106件

(都立動物園水族園関係者は除く)

(3) 映像資料利用状況

区 分	無 料		有 料		合 計	
写 真	24件	86点	65件	184点	89件	270点
ビデオ映像	0件	0点	30件	45点	30件	45点
音 声 資 料	1件	4点	5件	10点	6件	14点
計	25件	90点	100件	239点	125件	329点

(都立動物園水族園関係者は除く)

8. 出版事業

(1) 「東京動物園友の会」会員向け機関誌の発行

動物及び動物園に関する情報を提供するための出版物を発行し、「東京動物園友の会」会員その他関係機関等に配付した。

刊 行 物	内 容
どうぶつと動物園	A4変型判・約54頁／約4,700部／春・夏・秋・冬号 (Vol.71-2～72-1) ・春号は上野動物園の「アイアイのすむ森」の10年間の軌跡をたどった

	<p>飼育レポートや、展示をテーマにした園長座談会等を掲載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏号は多摩動物公園の人工哺育で育ったボルネオオランウータンの母子や、上野動物園で人工繁殖と自然繁殖に成功したミヤコドリの飼育レポートのほか、「うへのパンダ大使」の記事を掲載した。 ・秋号は「葛西臨海水族園開園30周年特集」を発行した。この30年間の特設展や企画展、「水辺の自然」エリアの変化等について詳しく掲載した。 ・冬号は多摩動物公園のサーバルの繁殖のあゆみや、葛西臨海水族園のカナダ・バンクーバー島での生物採集の話題、東京都が策定した「第2次ズーストック計画」の記事等を掲載した。 ・その他、研究や保全活動の最新知見として、ウグイスのさえずに着目したその知られざる生態や、南硫黄島学術調査で明らかになったオガサワラオオコウモリの生態に関する記事等を掲載した。
ZOO! どーぶつえん しんぶん	<p>A4判・8頁／約700部／8月・2月発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第22号（8月発行）は「ベニイロフラミンゴ」を特集した。フラミンゴの特徴的なからだや生態について、写真を使ってわかりやすく解説した。一年間の生活の様子をたどり、繁殖の様子等も紹介した。 ・第23号（2月発行）は「チーター」を特集した。からだの特徴や行動を紹介するとともに、走る速さに注目し、解説した。また、バックヤードでの給餌の様子や、ネコ科動物の模様の比較を写真を使って紹介した。

(2) 民間との協働による出版物

刊 行 物	内 容
みんなの上野動物園	<p>A4変型判・12頁／約80,000部／第70号～第74号（5回）発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上野動物園の話題の動物を取り上げ、動物園の魅力を伝える情報誌を発行し、園内及び園外（都庁や近隣施設等）に設置して配布した。
	第70号 鳥のくちばしを観察しよう!、他
	第71号 特設展示 両生爬虫類館「ハラペコロジー」、他
	第72号 どうぶつの模様と色を観察してみよう!、他
	第73号 どれがネズミのなかま（げっ歯目）かな!?, 他
	第74号 「夜の森」に暮らす動物たち、他

(3) 葛西臨海水族園情報誌の発行

刊 行 物	内 容
SEA LIFE NEWS	A4判・4頁（第88号のみ6頁）／約26,000部／第85号～第90号（6回）発行 ・葛西臨海水族園の展示生物についての情報や保全活動・調査活動等に関する情報を取り上げ、園内で配布した。
	第85号 Feel Sea Life 葛西臨海水族園開園30周年、他
	第86号 「東京湾 運河」水槽に注目！、他
	第87号 特設展示「海のゆりかご」第2期展示がオープン、他
	第88号 特集「葛西臨海水族園30周年」、他
	第89号 地味に？大活躍 海の「掃除屋さん」、他
	第90号 日本初 ウィーディシードラゴンの繁殖に成功しました、他

(4) 高碕賞の表彰

季刊「どうぶつと動物園」に年間（平成31年春号～令和2年冬号）に掲載された記事及び写真を対象に、優れた作品を選出し表彰した（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため表彰式は中止）。

区分	タイトル	掲載号	氏 名	摘 要
高碕賞	ミヤコドリの人工繁殖と自然繁殖	夏号	大久保 梨奈 小川 美紀	上野動物園
奨励賞	多摩動物公園のサーバル	春号	尾上 しのぶ	
	旭川市旭山動物園のホッキョクグマ	冬号	角谷 久子	
	上野動物園のワオキツネザル	冬号	安藤 優希枝	

9. インターネット事業

都立動物園・水族園公式サイト「東京ズーネット」、上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」、上野動物園のジャイアントパンダライブ映像配信サイト「UenoPandaLive.jp」、Twitter（6アカウント）、YouTube（東京ズーネット 公式チャンネル）を通じて、動物園・水族園の基本情報及び動物に関する情報を広く提供・配信した。

(1) ウェブサイト「東京ズーネット」の運営 (<https://www.tokyo-zoo.net/>)

【主なコンテンツ（主要コンテンツはスマートフォンに対応したページを公開）】

ページ名	内 容 等
ニュース&催物	都立動物園で飼育している動物に関する最新情報と各園催物情報
イベント情報	カレンダーによる日別のイベントスケジュール情報、定例イベント等に関する情報
各種利用案内	開園時間、休園日、入園料、団体入園、乳幼児・障害者対応、園内利用施設、交通アクセス、園内マップ
見どころと歴史	各園の特徴と見どころ及び歴史を紹介
保全への取組	野生生物や生物多様性の保全、研究、環境教育に関する取り組みを紹介
どうぶつ図鑑	飼育動物に関する生態等の解説
東京ズーネットBB	動物の様々な行動の動画配信（令和2年3月31日現在計986点）
鳴き声図鑑	動物の鳴き声の音声配信
東京動物園友の会	活動や会誌の紹介
ガイドツアー	各園の動物解説員が行うガイドツアーの内容及びスケジュール案内
蔵書検索	上野動物園資料室に収蔵されている動物関連図書の検索システム
動物園サポーター	動物園サポーターの紹介、登録方法、登録者リスト、会計報告
学校向けプログラム	教育機関のための各種プログラムの紹介
ガイドアプリ	上野動物園と葛西臨海水族園をガイドする都立公園ガイドアプリ「Tokyo Parks Navi」の紹介
かんさつシート	多摩動物公園の「かんさつシート」の紹介
水族園魚タッチングシート	葛西臨海水族園で楽しく生物観察をするためのワークシートの紹介

ページ名	内 容 等
移動水族館	葛西臨海水族園の「移動水族館」事業の紹介と申込案内
いきもの広場	井の頭自然文化園園内の「いきもの広場」の紹介、毎週の活動の紹介
モルモット ふれあいコーナー	井の頭自然文化園モルモットふれあいコーナー事前学習ムービーによる紹介
花ごよみ	井の頭自然文化園の四季おりおりの植物を紹介

(2) ウェブサイト「UENO-PANDA.JP」の運営 (<https://www.ueno-panda.jp/>)

上野動物園のジャイアントパンダ情報サイトとして、展示個体ならびに過去に飼育した個体の情報、飼育係によるレポート、ジャイアントパンダに関する最新情報やQ&A等を紹介。また、保全への取り組みやジャイアントパンダ保護サポート基金の紹介、さらには壁紙ダウンロードコーナーや企業協賛の募集等のコンテンツ等、豊富な情報を掲載した。

【主なコンテンツ】

ページ名	内 容 等
トピックス	上野動物園のジャイアントパンダに関する最新情報
パンダプロフィール	上野動物園で展示している3頭の個体紹介
ジャイアントパンダについて	様々な角度からジャイアントパンダを紹介
パンダムービー	動画によるジャイアントパンダ紹介
歴代のパンダたち	これまで上野動物園で飼育した個体を動画とともに紹介
パンダ舎の紹介	ジャイアントパンダ舎を写真付きで紹介
パンダ大百科	ジャイアントパンダに関するQ&A
保全への取り組み	ジャイアントパンダ保護研究に関する概要
熊貓的新聞 (パンダニュース)	飼育係による写真付きのレポート
壁紙ダウンロード	パソコン用にダウンロードできる壁紙を提供
ジャイアントパンダ保護サポート基金	基金の概要、企業協賛の募集

(3) ウェブサイト「UenoPandaLive.jp」の運営 (<https://www.ueno-panda-live.jp/>)

上野動物園のジャイアントパンダ舎に設置したカメラ8台によるライブ映像を配信した(チャンネル公開開始日の平成29年12月19日に配信開始)。ライブ配信は開園日の9時30分～17時、それ以外の時間帯は録画映像を配信。予定通り令和元年12月31日をもって配信を休止した。

(4) Twitterによる情報発信

SNS媒体のひとつである「Twitter」を活用し、4園と東京ズーネット及び教育普及センターの6アカウントから、積極的に情報を提供した(教育普及センターアカウントは令和元年10月23日開設)。

アカウント	フォロワー数(令和2年3月31日現在)
恩賜上野動物園 @UenoZooGardens	1,015,069
多摩動物公園 @TamaZooPark	213,530
葛西臨海水族園 @KasaiSuizokuen	157,207
井の頭自然文化園 @InokashiraPark	113,951
東京ズーネット @TokyoZooNet_PR	414,601
東京動物園協会教育普及センター @TZPS_EduCenter	5,501

(5) YouTubeによる情報発信

動画配信サービス「YouTube」を活用し、「東京ズーネット 公式チャンネル」ページでジャイアントパンダの録画映像の配信を積極的に行った(年度内配信数22点)。

10. 映像記録資料制作

(1) 動物写真撮影

都立動物園・水族園を中心に、飼育動物全般に関する記録及び園内外の行事や催物を撮影・記録した。

(2) ビデオ撮影・制作

飼育動物の行動記録や動物園情報をビデオ映像として撮影記録し、来園者向けニュースや各種研究発表として上映・提供するほか、ウェブサイト「東京ズーネット」「UENO-PANDA.JP」において配信した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
ツシマヤマネコ人工授精	186分42秒	井の頭	資料として提供
ホッキョクグマ同居	21秒	上野	ツイッター用
スマトラトラ同居	17分46秒	上野	資料として提供
ライチョウ、ジャイアントパンダ	1分51秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダの誕生日	2分	上野	ズーネット配信用
ジャイアントパンダの誕生日	27秒	上野	ツイッター用
ジャイアントパンダ飼育作業	11分27秒	上野	イベント放映用
ジャイアントパンダの成長	5分4秒	上野	GP運営委員会用
ジャイアントパンダの成長	18分21秒	上野	中国出張会議用
ジャイアントパンダの成長	27分56秒	上野	イベント放映用
アジアゾウ、オカピ、木曾馬	2分37秒	上野	イベント放映用
ミーアキャット親子	51秒	井の頭	イベント放映用
環境問題プラスチック研修	68分37秒	葛西	資料として提供
障害者雇用研修	77分9秒	上野	資料として提供
情報セキュリティ研修	105分23秒	上野	資料として提供
動物園・水族館シンポジウム	226分4秒	上野	資料として提供
新アジアゾウ舎	8分5秒	多摩	資料として提供
アムールヤマネコ	19秒	井の頭	ツイッター用
ジャイアントパンダの成長	13分47秒	上野	中国出張会議用
ヒガシクロサイ同居	36分5秒	上野	資料として提供
マレーバク授乳	2分32秒	多摩	資料として提供

内 容	時間	園名	主な使用目的
ライチョウ講演会	175分31秒	上野	資料として提供
上野動物園の主な日本産動物	13分46秒	上野	さるやまキッチン放映用
イボイモリ	25秒	上野	展示放映用
子キリン診察	37分33秒	上野	資料として提供
サービス向上委員会	62分12秒	上野	資料として提供
子キリン命名投票・決定	1分46秒	上野	ズーネット配信用
ニホンライチョウ	1分54秒	上野	ズーネットBB配信用
ワライカワセミ、シロテテナガザル	3分21秒	多摩	ズーネットBB配信用
アカハライモリ	1分34秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ブラッサグエノン、アビシニアコロブス、クロツグミ	5分51秒	上野	ズーネットBB配信用
葛西特設展「海のゆりかご」	1分19秒	葛西	ズーネットBB配信用
オカピ	1分40秒	上野	ズーネットBB配信用
オオイワガニ	1分38秒	葛西	ズーネットBB配信用
パルマワラビー、モモイロペリカン	3分32秒	多摩	ズーネットBB配信用
イトヒキアジ、ファインスポッテッドジョーフィッシュ	2分54秒	葛西	ズーネットBB配信用
ジャイアントパンダ、ニホンライチョウ	3分21秒	上野	ズーネットBB配信用
ヤクシカ	1分49秒	井の頭	ズーネットBB配信用
トビハゼ、プレイス	2分51秒	葛西	ズーネットBB配信用
ツキノワグマ	1分44秒	上野	ズーネットBB配信用
コアラ	1分33秒	多摩	ズーネットBB配信用
ミーアキャット	1分51秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ユーラシアカワウソ	1分36秒	上野	ズーネットBB配信用
伊豆七島の海1	1分3秒	葛西	ズーネットBB配信用
チーター、アムールトラ	3分50秒	多摩	ズーネットBB配信用
マダコ	1分22秒	葛西	ズーネットBB配信用
ヤギ	1分16秒	井の頭	ズーネットBB配信用
モノレール	2分55秒	上野	ズーネットBB配信用

内 容	時間	園名	主な使用目的
インドガン	1分31秒	多摩	ズーネットBB配信用
ネズミフグ、ホウボウ	3分10秒	葛西	ズーネットBB配信用
インド祭	1分52秒	多摩	ズーネットBB配信用
オウサマペンギン	1分32秒	葛西	ズーネットBB配信用
モモアカノスリ	1分11秒	上野	ズーネットBB配信用
アライグマ	1分38秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ジャイアントパンダ、アフリカタテガミ ヤマアラシ	2分36秒	上野	ズーネットBB配信用
カヤネズミ	2分	井の頭	ズーネットBB配信用
小笠原の海	1分56秒	葛西	ズーネットBB配信用
カピバラ	1分45秒	上野	ズーネットBB配信用
マレーバク、ゴールデンターキン	4分17秒	多摩	ズーネットBB配信用
ウィーディシードラゴン	1分54秒	葛西	ズーネットBB配信用
コツメカワウソ、ワオキツネザル、ニホ ンザル、猛獣脱出対策訓練	8分9秒	上野	ズーネットBB配信用
ジャイアントパンダ	1分41秒	上野	YouTube配信用
ジャイアントパンダ	2分32秒	上野	YouTube配信用
ジャイアントパンダ	2分19秒	上野	YouTube配信用

(3) 広報用資料の制作

動物園・水族園の広報発表時の写真資料に加え、ビデオ映像を撮影・制作し、提供した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ (4月8日)	2分1秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (5月7日)	2分12秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (5月13日)	1分54秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (5月27日)	34秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (6月17日)	2分1秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (7月8日)	3分4秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (8月5日)	1分53秒	上野	報道発表資料

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ (9月9日)	2分11秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (10月15日)	2分46秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (11月11日)	2分23秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (12月9日)	2分54秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (1月6日)	2分55秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (1月27日)	2分39秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (2月3日)	3分	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (2月25日)	2分59秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (3月9日)	2分55秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ (3月23日)	2分9秒	上野	報道発表資料

〔4〕市民・団体との協働事業

1. ボランティアとの協働

上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園において展示動物の解説等の教育普及のほか、来園者案内等のボランティア活動を行っている「東京動物園ボランティアズ (TZV)」(登録者数766名)と、葛西臨海水族園で同様の活動を行っている「東京シーライフボランティアズ(TSV)」(登録者数166名)に対して、新規応募者や既存会員を対象とした研修会の開催、ニュースレターの発行やユニフォーム等活動経費の援助を行った。また、「恩賜上野動物園樹木美化ボランティア」が上野動物園で、「NPO法人樹木・環境ネットワーク」が多摩動物公園で、樹木や花壇等の管理活動を行った。

(1) 「東京動物園ボランティアズ」新規応募者対象研修会実施状況

園名	内容	実施回数	参加者数
恩賜上野動物園	① ドーセントグループ (DG)・サービスガイド (SG) 新規応募者合同講習会	① 1回	① 55名
	② DG新規応募者前期講習会	② 1回	② 36名
多摩動物公園	DG新規応募者前期講習会	2回	38名
	DG新規応募者後期講習会	1回	39名
井の頭自然文化園	DG新規応募者後期講習会	1回	35名

(2) 「東京シーライフボランティアズ」新規応募者対象研修会等実施状況

園名	内容	実施回数	参加者数
葛西臨海水族園	ガイダンス研修	3回	45名

(3) ボランティア会員を対象とした研修会

園名	内容	参加者数	
TZV	上野	モルモット・ハツカネズミふれあい、解剖学から見た動物の進化、ライチョウ保護増殖事業、両生類概要とトウキョウサンショウウオ、ツキノワグマとエゾヒグマの頭骨比較、等	317名
	多摩	スポットガイド研修、モルモットふれあい、生涯学習施設における主体的学び、等	245名
	井の頭	いきもの広場の維持管理、彫刻園の見どころ、等	107名
TSV	葛西	マグロ、西なぎさ、東京湾の漁業、移動水族館、等	142名

(4) ボランティアとの協働による教育活動等

園 名		内 容	実施回数
TZV	上 野	園内スポットガイド、ふれあいコーナー活動等	457回
	多 摩	園内スポットガイド、ふれあいコーナー活動等	522回
	井の頭	園内スポットガイド、ヤマドリガイド等	218回
TSV	葛 西	しおだまり、東京の海ガイド等	174回

2. サポーター事業

個人及び団体、法人等から資金的支援を得て、都立動物園における動物飼育環境の改善に資するとともに、「動物園サポーター」として登録し、市民の動物園事業への理解と参画意識を促進した。

(1) 動物園サポーターの登録状況

園 名	個人 (大人) 1口：10,000円	個人 (大学生以下) 1口：5,000円	子供 サポーター 1口：500円	法人 (団体) 1口：50,000円	金額
上 野	440名 533口	8名 8口	15名 20口	7法人 11口	5,930,000円
多 摩	209名 266口	8名 13口	19名 20口	2法人 3口	2,885,000円
葛 西	15名 16口	2名 2口	4名 4口	0法人 0口	172,000円
井の頭	62名 89口	2名 3口	12名 23口	1法人 6口	1,216,500円
合 計	726名 904口	20名 26口	50名 67口	10法人 20口	10,203,500円

(2) サポーターを対象とした園内見学等の催物（サポーターズデイ）等の実施

実施月日	開催園	内 容	参加者
6月23日	上 野	講演会、施設見学、収支報告	165名
9月14日	多 摩	今年生まれた動物の紹介、動物舎で飼育係の解説	121名
11月17日	井の頭	近況と収支報告、園長の動物園ガイド	23名
1月26日	上 野	園長からの近況報告、動物舎で飼育係の解説	201名
2月29日	多 摩	資金活用報告、動物舎で飼育係の解説（中止）	—
3月7日	葛 西	収支報告、園内ガイドツアー（中止）	—

(3) サポーター資金による飼育展示等の改善

園 名	実 施 事 項
恩賜上野動物園	<ul style="list-style-type: none"> ① アジアゾウ エサ籠クレーン設置 ② アジアゾウ フィーダー用手編みネット購入 ③ アジアゾウ フィーダー兼遊具用パワードラム購入 ④ アフリカタテガミヤマアラシ 寝小屋屋根補修 ⑤ アフリカタテガミヤマアラシ 移動式エアコン・ヒーター購入 ⑥ ウサギ・モルモット 日除け用オーニングテント・除湿器購入 ⑦ エゾヒグマ ヒグマ舎立ち木ベースほか設置 ⑧ エゾヒグマ バークチップ購入 ⑨ カメ 展示用水槽購入 ⑩ キリン 給餌器材料購入 ⑪ クマ クマ運動場バークチップ敷きなおし ⑫ クマ類サル類ほか 足場用ヒノキ丸太購入 ⑬ クロシロエリマキキツネザル 皮付き杉丸太購入 ⑭ ケープペンギン 巣穴修繕 ⑮ コビトカバ フィーダー用浮きブイ購入 ⑯ 子供動物園牧場エリア 雨除け用よしず・砂購入 ⑰ ゴリラ フィーダー・ハンモック作成用消防散水ホース購入 ⑱ ゴリラ 遊具・丸太・杭・有機質培養土購入 ⑲ 在来馬 ヘイプレイボール購入 ⑳ サル類 東園サル舎立ち木ベース設置 ㉑ シロフクロウ スポットクーラー・ロッカー購入 ㉓ スマトラトラ 遊具・香辛料・スパイスボトル購入 ㉔ 西園予備鳥舎 風雨除け用ダイオネットシート購入 ㉕ ニホンザル サル山擬木フィーダー製作設置 ㉖ ニホンザル サル山擬岩基礎補修、寝小屋天井補修 ㉗ ハクビシン 縄バシゴ購入 ㉘ ハダカデバネズミ 飼育展示ケース購入 ㉙ バードハウス 空調機補修 ⑳ ヒガシクロサイ 川砂購入 ㉑ ホッキョクグマ フィーダー兼遊具用パワードラム購入 ㉒ マレーグマ 餌筒交換用アクリルパイプ購入 ㉓ ミーアキャット 小獣館展示用フェンス補修 ㉔ モルモット 飼育ケージ購入 ㉕ ヤギ 日除け雨除け用材料購入 ㉖ ワオキツネザル 出窓（予備ケージ）補修 ㉗ 特別給餌スイカ（アジアゾウ）・カボチャ（ゴリラ）購入

多摩動物公園	<ul style="list-style-type: none"> ① アジアゾウ 細目砂・山砂購入 ② アジアゾウ エンリッチメント用ブイ・フィーダー用給餌機材購入 ③ アフリカゾウ 山砂購入 ④ オランウータン ハーフケット毛布購入 ⑤ 家畜馬・モウコノウマ 砂利購入 ⑥ 昆虫生態園 空調設備補修 ⑦ チンパンジー 体調管理器具・体重測定器設置 ⑧ チンパンジー 体重計・サプリメント購入 ⑨ マレーバク 放飼場日除け用植栽 ⑩ ヤクシカ 草掛け台設置 ⑪ ユキヒョウ 遊具他購入 ⑫ 特別給餌スイカ（アジアゾウ・アフリカゾウ）・誕生日会用フルーツ（オランウータン）購入
井の頭自然文化園	<ul style="list-style-type: none"> ① サル山ミスト設置 ② 家畜舎日よけ設置 ③ イノシシ放飼場土入れ ④ 特別給餌サポーターズデイ用果物（イノシシ）購入
葛西臨海水族園	<ul style="list-style-type: none"> ① ポシドニア擬海藻付擬岩設置

3. 関係団体への協力

(1) 国際自然保護連合への協力

国際自然保護連合（International Union for Conservation of Nature and Natural Resources 略称IUCN）の委員会である種保存委員会（Species Survival Commission 略称SSC）の保全計画専門家グループ（Conservation Planning Specialist Group 略称CPSG）へ、事業援助のため寄付を行った。

(2) 関係団体への協力

動物園事業に関係する20の団体に加入し、情報の交換や募金活動への協力を行った。

[加入団体]

会員区分	団 体 名	会員区分	団 体 名
法 人 会 員	(公財)世界自然保護基金ジャパン	団 体 会 員	(公財)日本自然保護協会
”	(公財)日本鳥類保護連盟	”	日本霊長類学会
賛 助 会 員	(公財)山階鳥類研究所	”	(一社)日本応用動物昆虫学会
”	(一社)日本生態学会	”	(一社)日本環境教育学会
”	日本動物心理学会	”	(一社)日本昆虫学会
”	(公社)日本造園学会	”	日本鱗翅学会
維 持 会 員	(公社)日本動物園水族館協会	”	日本鳥学会
”	(公財)日本博物館協会	”	日本爬虫両棲類学会
団 体 会 員	(一社)日本哺乳類学会	”	(一社)日本生物教育学会
”	(公財)日本動物学会		

(3) 動物愛護週間中央行事への協賛

実施月日	9月14日（屋外行事）、9月22日（屋内行事）
行 事 名	動物愛護週間中央行事
主 催	環境省、東京都ほか計11団体
内 容	「どうぶつ愛護フェスティバル」の各種行事やシンポジウム等に協賛した。
会 場	上野恩賜公園（屋外行事）と台東区生涯学習センター（屋内行事）

4. 基金事業

(1) ジャイアントパンダ保護サポート基金の運営

募金やドネーション商品からの寄付、企業からの協賛金を積み立て、ジャイアントパンダ保護に向けた普及啓発活動や上野動物園での飼育環境の向上、東京都と中国が共同で進めている繁殖研究プロジェクトへの支援に活用した。

① 収入の状況

項目	金額	内容
寄付金	12,807,580円	①園内外募金箱への募金 ②SAVE the PANDAパートナーズ ほか
企業協賛金	5,058,600円	①園内広告協賛 ②園内イベント協賛 ほか
ドネーション商品 売上金からの寄付金	10,376,150円	オリジナルドネーション商品売上金額の5% アイテム数：43点（ぬいぐるみ、お菓子ほか） 売上点数：198,520点

② 基金活用の状況

使 途	活用内容	活用金額
ジャイアントパンダの保護に向けた普及啓発活動	シャンシャン2才記念企画、シンポジウム、パンダの日イベントの開催、ライブ映像配信ほか	26,878,590円
上野動物園におけるジャイアントパンダの飼育環境の向上	新パンダ舎運動場への休息用洞穴設置に着手	45,700円
東京都と中国野生動物保護協会が共同で進める国際的なパンダ保護活動	東京都と中国の共同繁殖プロジェクト支援（東京都へ寄付）	10,000,000円

③ 基金残高

基金残高	144,244,779円（令和2年3月31日現在）
------	---------------------------

④ ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会の開催

基金を適正に管理し事業に活用するため、ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会を開催した。

[委員・顧問] (令和2年3月31日現在)

役 職	氏 名	職 名
委 員 長	菅 谷 博	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館名誉館長
副 委 員 長	早 川 剛 生	公益財団法人東京動物園協会理事長
委 員	湯川れい子	音楽評論家・作詞家
委 員	二 木 忠 男	上野観光連盟会長
委 員	今 村 保 雄	東京都建設局次長
顧 問	黒 柳 徹 子	女優・ユニセフ親善大使

[運営委員会]

回	開催月日	議 題
第1回	7月12日	(1) 副委員長の選任について (2) 平成30年度決算報告について (3) 令和元年度基金事業について
第2回	2月14日	(1) 令和元年度基金進捗状況について (2) 令和2年度基金事業・予算(案)について

(2) 東京動物園協会野生生物保全基金の運営

野生生物の保全に積極的に取り組む個人・団体の支援を目的として、助成対象活動を公募し、審査のうえ、助成金交付を行った。

2月の公募にあたっては前年の制度改正に基づき、3つの部門(保全活動・調査研究・普及啓発)を設けて広く応募を募るとともに、助成金額上限100万円/件、助成件数3部門合計10件程度とし、また、ポスターとチラシを作成して全国の大学・博物館・研究施設・NPO及び理科教育に関心の高い高等学校等に送付して本助成制度を広くアピールした。

さらに助成対象活動及び基金事業のPRのために事業の紹介や助成対象活動についての啓発を目的としたパンフレットを制作して配布したほか、クレジットカード決済によるオンライン寄付システムの運用を開始し、さらに幅広く寄付を募った。

① 助成交付実績

〔令和元年度〕

*平成31年2月1日～2月28日公募。30年度内に助成対象を決定し、令和元年度に助成金を交付。

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
湿性草原棲クイナ類の生息状況推定方法の開発 - 調査精度に対する植生の影響評価	調査研究	特定非営利活動法人 おおせっからんど	1,000,000円
コンゴ民主共和国ルオー学術保護とその周辺地域における野生ボノボの保全活動	保全活動	特定非営利活動法人 ビーリア（ボノボ）保護支援会	733,150円
環境DNAを用いた山形県南地域の水圏希少生物及び侵略的外来生物の調査・研究	調査研究	山形県立米沢興譲館高等学校	1,000,000円
ツシマヤマネコの餌資源にツシマジカが与える影響の解明	調査研究	服部 充	610,200円
人と共存していく最高次捕食者：希少亜種ダイトウコノハズクの採餌生態の解明	調査研究	ダイトウコノハズク保全研究グループ	996,850円
和歌山市周辺地域（里山・都市・離島）の生息環境による生物比較調査	調査研究	和歌山県立向陽中学校 理科部	993,600円
東京都町田市に生息するムササビ孤立個体群の保全に向けた、生息数推定および分布地域特定の試み	調査研究	町田ムササビ保全研究グループ	955,410円
キリンの国内飼育下個体群における繁殖生理状態把握に関する一斉調査	調査研究	岐阜大学 応用生物科学部 動物繁殖学研究室（動物保全繁殖学）	950,000円
琉球列島固有種ケナガネズミの普及啓発	普及啓発	ケナガネズミ研究グループ	546,000円
琉球列島に生息するクビワオオコウモリ保全のための音響学的研究	調査研究	島コウモリ調査グループ	1,000,000円
ボルネオオランウータンのメスの妊娠・出産と果実生産量に関する基礎的研究	調査研究	久世 濃子	1,000,000円

② 収入の状況

寄付金	53,086,209円	企業・個人からの寄付、友の会の日バザー売上金
-----	-------------	------------------------

③ 基金残高

基金残高	108,520,945円（令和2年3月31日現在）
------	---------------------------

④ 東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会の開催

助成対象活動の選定を適正かつ公正に行うため、東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会を開催し、助成対象活動を選定した。

〔審査委員会〕

開催月日	議 題
3月18日	令和2年度助成対象活動選定について

⑤ 成対象活動選定結果

* 令和2年2月1日～2月29日公募。元年度内に助成対象を決定し、助成金は2年度に交付。

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
湿性草原に棲む潜行性鳥類の生息状況推定方法の開発：繁殖期のサギ類と越冬期のクイナ類への応用	調査研究	特定非営利活動法人 おおせっからんど	1,000,000円
日本産トカゲモドキ類の食性の解明	調査研究	栗田 隆気	995,222円
ボルネオ島ダナムバレイ保護区に生息する野生オランウータンの密度調査	調査研究	特定非営利活動法人 日本オランウータン・リサーチセンター	1,000,000円
トウキョウトガリネズミの繁殖生態に関する研究	調査研究	河原 淳	910,000円
絶滅危惧種イタセンバラと共に生きる	普及啓発	愛知県立一宮高等学校 生物部	479,000円
スズメにおける雄子の死亡とその内分泌学的要因	調査研究	加藤 貴大	1,000,000円
齢構造と遺伝的多様性からみたヤエヤマハラブチガエルの保全生態学的研究	調査研究	戸金 大・秋田 耕佑・阿南 一穂	999,600円
絶滅が危惧されるシロハラサギの保護施設のブータン王国飼育者の飼育放鳥技術の向上	保全活動	シロハラサギ保全チーム	997,540円
コンゴ民主共和国ルオー学術保護区とその周辺地域における野生ボノボの保全活動	保全活動	特定非営利活動法人 ビーリア（ボノボ）保護支援会	909,700円
希少亜種ダイトウコノハズクの利用環境の解析による採餌戦略解明の試み	調査研究	ダイトウコノハズク保全研究グループ	995,400円
三方五湖の生態系保全に向けた研究ーヒシの被覆面積とブルーギル個体数の関係性からー	調査研究	福井県立若狭高等学校 SSH生物班	499,800円

⑥「東京動物園協会野生生物保全基金」報告講演会

令和2年3月14日の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために年度内の開催は見送った。

〔5〕レクリエーション

1. 園内施設・設備の維持管理

(1) 定常的維持管理

施設や設備を適切に保守し、利用者の安全と快適性を確保するために、以下の園内施設の維持管理業務を実施するとともに、照明設備のLED化及び空調・ポンプ類のインバーター化による電力使用量削減に取り組んでいる。

園名	主要施設	主要維持管理業務
恩賜上野動物園	<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積：144千㎡ パンダ舎、ホッキョクグマとアザラシの海、クマ舎、ゾウ舎、アイアイのすむ森等 両生爬虫類館 管理センター 不忍池 	<ul style="list-style-type: none"> 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） 設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） 不忍池水質管理 設備点検 保護管理（植込地、花壇） 危険樹点検対応 他
多摩動物公園	<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積：601千㎡（含む七生公園） オランウータン舎、コアラ館等 ライオン園 他 昆虫生態園 丘陵地 	<ul style="list-style-type: none"> 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） 設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） 設備点検 保護管理（植込地、芝生地、花壇） 危険樹点検対応 他
葛西臨海水族園	<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積：86千㎡ 水槽数：47 マグロ水槽（2,200t）、ペンギン池 他 ポンプ（水処理用244台、給排水用53台） 	<ul style="list-style-type: none"> 設備補修（冷凍機、水処理 他） 施設補修（水槽、漏水、排水、園内不陸 他） 設備保守（中央監視、水処理、展示システム、排水処理、オゾン設備 他） 設備点検 保護管理（植込地、芝生地、花壇） 危険樹点検対応 他
井の頭自然文化園	<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積：116千㎡ 大放飼場 彫刻館 リスの小径 資料館 水生物館 	<ul style="list-style-type: none"> 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） 設備保守（機械、水処理、放送 他） 設備点検 保護管理（植込地、花壇） 危険樹点検対応 他

(2) 集中的維持管理

設備補修や地球温暖化対策等を行うとともに、動物舎等について、集中的な修繕を行った。

園名	No.	修繕施設	概要
上野	1	動物舎	ツル舎植栽補修
	2	照明設備	トラ舎及びキリン舎ほかLED化
	3	建物	コビトカバ舎及びキリン舎屋上防水補修
	4	建物	サーラータイ屋根雨仕舞ほか補修
多摩	1	動物舎	ターキン放飼場補修
	2	動物舎	アフリカゾウ舎油圧シリンダー補修
	3	照明設備	ウォッチングセンターほかLED化
葛西	1	建物	東京の海観覧室天井補修
	2	照明設備	レストハウスLED化
	3	循環設備	原水処理設備ろ過材補修
	4	循環設備	水質測定装置補修
井の頭	1	動物舎	フェネック舎ほか塗装補修
	2	照明設備	彫刻館から資料館に至る園路照明補修
	3	建物	水生物館屋根防水補修

2. 園内の保安及び環境美化

(1) 園内巡回警備

巡回警備による整理・誘導、防犯等、入園者の安全に配慮して実施した。繁忙期には増員により対応した。

(2) 園内清掃及び廃棄物搬出

園内美化を図り、園内の清掃及び収集したゴミ等の廃棄物を園外へ搬出した。また、搬出した寝糞等は専門施設においてリサイクルし、肥料化した。

3. 入園券の売改札及び利用案内・園内サービス

(1) 入園券の売改札

入園券の売改札、年間パスポートの販売を行った。

【入園者数】

(単位：人)

区 分		上野	多摩	葛西	井の頭	合計	摘 要		
有 料	個 人	一 般	1,962,992	364,546	493,410	370,713	3,191,661		
		中学生	57,827	2,061	9,639	709	70,236		
		65歳以上	173,697	32,817	34,311	40,066	280,891		
		計	2,194,516	399,424	537,360	411,488	3,542,788		
	団 体	一 般	111,857	41,442	48,102	15,850	217,251	20人以上	
		中学生	1,349	68	504	224	2,145	〃	
		65歳以上	4,461	660	6,867	1,186	13,174	〃	
		計	117,667	42,170	55,473	17,260	232,570		
	小 計		2,312,183	441,594	592,833	428,748	3,775,358		
	無 料	個 人	小学生以下	750,439	253,454	463,009	238,004	1,704,906	
			中学生	17,164	5,163	21,709	6,219	50,255	都内在住在学
			計	767,603	258,617	484,718	244,223	1,755,161	
団 体		幼 児	57,320	43,731	28,324	24,849	154,224		
		小学生	69,493	50,500	51,353	18,769	190,115		
		中学生	69,427	2,020	8,187	392	80,026		
		計	196,240	96,251	87,864	44,010	424,365		
特 免		101,286	27,192	35,278	29,840	193,596	身体障がい者等		
その他		102,678	47,368	68,010	33,191	251,247	無料開園日等		
小 計		1,167,807	429,428	675,870	351,264	2,624,369			
合 計		3,479,990	871,022	1,268,703	780,012	6,399,727			

【年間パスポート販売状況】

園 名	販売実績	摘 要
恩賜上野動物園	30,628枚	一般2,400円、65歳以上1,200円
多摩動物公園	6,641枚	〃
葛西臨海水族園	3,367枚	一般2,800円、65歳以上1,400円
井の頭自然文化園	12,128枚	一般1,600円、65歳以上 800円
合 計	52,764枚	

(2) 有料施設等の占用等の申請受付と料金徴収

園内での写真撮影や集会所の使用申請の受付事務と入園料、使用料、占用料の徴収及び東京都への納付事務を行った。

【入園料金の徴収】

園名	収納額	摘要
恩賜上野動物園	1,155,985,180円	大人600円、中学生200円、65歳以上300円
多摩動物公園	227,498,680円	〃
葛西臨海水族園	381,782,550円	大人700円、中学生250円、65歳以上350円
井の頭自然文化園	137,023,790円	大人400円、中学生150円、65歳以上200円
合計	1,902,290,200円	

【占用料・使用料の徴収】

園名	収納額	摘要
恩賜上野動物園	121,624円	占用料（写真撮影等）
多摩動物公園	355,598円	〃
葛西臨海水族園	131,744円	〃
井の頭自然文化園	318,126円	占用料・使用料（資料館・童心居）
合計	927,092円	

(3) 利用案内・園内サービス

園内における利用者案内、迷子相談、園内放送、救急救護、身障者用車椅子の貸出等のサービスや拾得物・遺失物対応を実施したほか、園外からの電話による問い合わせに対応、園内案内図、案内板の更新を行った。また、GWや春休みの繁忙対策として、上野動物園、多摩動物公園で仮設トイレを設置した。

東京動物園ボランティアーズのサービスガイドグループとの協働により、園内案内サービスや園内催物を実施した。

【園内利用案内】

(単位：件)

園名	迷子	放送	救護	車椅子	遺失物届	拾得物届
上野	497	4,399	668	1,522	557	3,162
多摩	47	2,990	320	333	461	4,501
葛西	178	1,521	171	465	473	2,517
井の頭	96	278	260	94	287	1,859
合計	818	9,188	1,419	2,414	1,778	12,039

4. 利用促進・PR活動

ウェブサイトや各種印刷物・広告媒体等により、利用促進活動を行った。また、都立動物園・水族園の魅力とサービス向上を目的とするVisit Zoo事業推進のため、東京都と協力しながら、各種イベント、開園時間の延長、開園日数の拡大等、様々な取り組みを行った。

【Visit Zoo事業における4園連携事業】

実施項目	内 容	
春のVisit Zoo 「飼育の日」 イベントに伴 う広告展開	各園の「飼育の日」イベント開催に伴い、イベント周知・参加者数増加を図るために、ファミリー層に向けてWEBバナー広告を掲出した。	
	上野	飼育係の「ひみつの道具」(4/20、21)、「ひみつの道具」スペシャルトーク(4/20、21)、
	多摩	飼育の日パネル展—来て・見て・知ろう飼育係！(4/11～6/4)、飼育係体験イベント—いろいろな仕事があるよ(4/20、21)、昆虫園あるある川柳クイズラリー(4/11～5/7)
	葛西	「飼育の日」スペシャルスポットガイド(4/20、21)、「飼育の日スタッフトーク(生き物を展示する)(4/21)
	井の頭	飼育の日スペシャルキーパーズトーク(4/19、20、21)、飼育係の制服を着て「飼育係になってみよう！」(4/20、21)、みんなで踊ろう「いのかしら りす音頭」ふたたび！(4/20、21)
夏季開園時間 延長イベント に伴う広告展 開 8/1～31	夏季限定の特設サイト「言葉じゃ教えられないことばかりだ Visit Zoo Summer 2019」を開設し、各園の夜間開園情報や豊富なイベント情報をまとめて紹介した。さらに、ファミリー層に向けて夏の動物園の魅力をアピールするためにショッピングセンターや図書館、児童館等にポスターを掲出した。	
「第5回都立 動物園アフリ カフェ」開 催に伴う来園 促進	「第5回都立動物園アフリカフェ」開催に伴い、4園連携の「アフリカフェスタンプラリー」を実施した(9/28～10/27)。また、スタンプラリー実施期間中は各園にてアフリカに生息する動物種を紹介する解説パネルを設置した。さらに、アフリカに興味関心の高い方々に向けて、アフリカ情報に関するコミュニティサイトへ広告を掲出した。	
Visit ほっと Zoo 2020 「みてみよう 東京のいきも のここにい る！」 1/9～3/1	<ul style="list-style-type: none"> ・4園合同のイベントとして、鉄道事業者と連携した「電車でまわろう！動物園&水族園スタンプラリー」(1/9～3/1)、各園にて展開するキーワードラークイズラリー「みてみよう 東京のいきものここにいる」(1/9～3/1)を実施した。 ・冬の各園の見どころや特別イベントをウェブサイト「東京ズーネット」を通じて紹介した。 ・キャンペーンの周知、集客に向けてWEBバナー広告を掲出した。 	
	上野	大道芸delほっとZoo!!2020(2/11)

実施項目	内 容	
	多摩	どうぶつえん寄席「令和二年のニャーニャー 二代目 江戸家小猫独演会」(2/22)
	葛西	大道芸deほっとZoo!!2020 (2/16)
	井の頭	大道芸deほっとZoo!!2020 (2/8)

【利用促進・PR】

事 項	摘 要
ウェブサイト	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト「東京ズーネット」を通じて、動物の最新ニュースや動画、イベント情報等を多くの人に向けて発信した。 ・窓口での入園券及び年間パスポートの購入の際にクレジットカード及び電子マネー決済が可能になったことを周知した。 ・「野生生物保全センター」ページを全面的に改修し、協会の取り組む生息域外保全の推進等について、より詳しく紹介した。 ・「希少動物の飼育と保全」ページを全面的に改修して名称を「希少動物の保全、各種の取組」と改め、トキやニシゴリラ等の希少動物の保全について、より詳しく紹介した。 ・ウェブサイト上でのご意見・ご要望の受付を従来の電子メールからフォームによる方式に変更した。 ・東京動物園協会野生生物保全基金ページでは寄付を積極的に呼びかけるためのコンテンツ変更を加えるとともに、オンライン寄付システム運用のためにクレジットカード決済による寄付フォームを設置し、受付を開始した。 ・各園の外国語ページに入園や園内設備等に関するFAQを追加した。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためのイベント中止や休止、各園の臨時休園について遅滞なくウェブサイト及び各園Twitterアカウントにより情報を発信して周知した。 ・葛西臨海水族園の開園30周年特設サイトを公開し、30年のあゆみを紹介するほか記念イベントや記念グッズ・メニューの情報を発信した。 ・夏季限定の特設サイト「言葉じゃ教えられないことばかりだ。Visit Zoo Summer 2019」を公開し、各園の夜間開園情報や豊富なイベント情報をまとめて紹介した。 ・上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」では、パンダに関する情報を掲載したほか、ジャイアントパンダ保護サポート基金についても広くアピールした。 ・Twitterによる4園の情報発信を通じて、即時性のある情報をタイムリー

事 項	摘 要
	<p>に配信した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新設された教育普及センターのTwitterアカウントを開設し、各園の飼育動物や教育普及プログラムの情報を提供した。 ・YouTube上の「東京ズーネット 公式チャンネル」においておもにジャイアントパンダの最新情報を動画を通じて配信した。
<p>広 告 物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都内の幼稚園・保育園へ年3回（ゴールデンウィーク・夏休み・冬休み）配布する携帯型クーポン冊子「ハッピープレゼントクーポン」に、4園をPRするための広告を掲出した。 ・新宿駅西口の行政情報掲示板（高さ2.5メートル幅5.3メートルの屋外広告媒体）に、4園一体のブランド形成をテーマとした広告ビジュアルを引き続き掲出した。 ・上野動物園では園の魅力をPRするため、夏休みと冬休み期間にあわせて都営地下鉄各駅でのポスター広告掲出等を実施した。 ・多摩動物公園では、コアラ来園35周年にあわせて、コアラのイラストのPRポスターを沿線の駅・電車内、バス車内に掲出したほか、サマーナイト@Tama Zoo、アフリカフェアなどのイベントポスターを沿線駅や電車内に掲出した。 ・葛西臨海水族園では、新年イベントやお盆イベント（Night of wonder）等の開催に合わせて、地元沿線駅にイベントポスターを掲出したほか、関東圏内の7路線15駅に交通広告を掲出した。 ・井の頭自然文化園では、最寄り駅前の大型ビジョンでの広告や、「秋の開園時間延長」等のイベント開催に合わせて、沿線駅においてポスターの掲出や地元ラジオ放送での広告を実施した。
<p>ダイレクトメール</p>	<p>福祉施設、ホテル等 (1園285件)</p>
<p>そ の 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・繁忙期における休園日の臨時開園（上野6日、多摩6日、葛西3日、井の頭3日）、開園時間延長（上野14日、多摩13日、葛西13日、井の頭8日）を実施した。 ※春の繁忙期に予定していた臨時開園（上野：3/30、葛西：3/25、井の頭：3/30）については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休園期間となったため中止した。 ・各園の周知・集客に向けて、代々木公園にて開催される「台湾フェスタ」にブース出展した。（7/27、7/28） ・東京都庁第一庁舎1階の中央アートワークに、各園の夏季限定イベントをPRするため、ポスターパネルを展示した。（8/3～9） ・各園で来園者にクリアファイルを配布する「雨の日サービス」を実施し

事 項	摘 要
	<p>た。また、サービス内容のリニューアルとして、各園のTwitterを利用して展示やイベントに関する予定変更の情報や「雨の日ならではの楽しみ方」を情報発信するため、試行的に多摩動物公園、井の頭自然文化園のTwitterで実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日来園者の動向を把握するため、Wi-Fi電波観測による来園者国別推計調査を実施した。 ・外国人観光客向けに、都立動物園・水族園紹介パンフレット（英語・中国語〔繁体・簡体〕・韓国語及び日本語）を東京都観光案内所等で配布した。 ・外国人観光客向けに、都立動物園・水族園紹介パンフレット（英語・中国語〔繁体・簡体〕・韓国語及び日本語）を東京都観光案内所等で配布した。

5. 広報広聴

園内動物の繁殖や催物等についての広報発表、取材対応のほか苦情や意見への対応を行った。

(1) 主な広報発表

園名	発表日	件名
上野	5月30日	シャンシャン2歳記念企画を実施します
	7月25日	ライチョウが孵化しました
	10月10日	アジアゾウの「ウタイ」が妊娠しました
	12月26日	上野動物園内に訪日来園者向けの期間限定案内所「Tokyo Zoo Welcome Center」を設置します！
	2月4日	キリンが生まれました
	その他、合計33件	
多摩	6月27日	レッサーパンダが生まれました！
	7月25日	ゴールデンターキンが生まれました！
	9月11日	国内最高齢のイヌワシの「青梅」が死亡しました
	10月10日	祝！ コアラ来園35周年 ～コアラにちなんだイベントを実施します～
	2月13日	野生生物保全センター講演会「野生動物を救護する ～動物園にできること～」開催
	その他、合計34件	
葛西	4月10日	葛西臨海水族園開園30周年
	5月23日	エンタテイメント案内ロボット「ペリン」の実証検証を行います
	8月27日	オウサマペンギンのヒナ、すくすく育っています！
	9月12日	開園記念日イベント「All About MAGURO 30th Anniversary」
	10月29日	移動水族館プログラム参加者 累計10万人達成！
	その他、合計18件	
井の頭	5月9日	日本のいきもの講演会「オタマジャクシが形をかえる!？」参加者募集！
	8月22日	「ヤマネコ祭2019」を開催します！
	9月12日	ちよっとおでかけ 秋の夜長の自然文化園
	11月1日	ツシマヤマネコを受け入れます ～飼育下繁殖の推進のため、全国的に移動を行います～
	1月23日	都立動物園・水族園合同企画 身近な水辺保全講演会第1回「水辺の植物・動物・人のつながりを考える」参加者募集！
	その他、合計17件	

(2) 苦情・意見への対応

園内に設置した意見箱やウェブサイト「東京ゾーネット」に寄せられた苦情・意見について、関係部署へ周知するとともに対応策を検討し、園内環境やサービス等の改善に努めた。また、データベースを活用しサービスの改善・充実を図ったほか、各園に寄せられた主なご意見ご要望およびそれに対する回答と対応について、月毎にウェブサイト「東京ゾーネット」への掲載を行った。

〔6〕安全・安心の確保

令和元年度は、命を預かる現場としての安全確保や事故発生抑止、事業継続計画の推進、情報セキュリティ対策の強化等危機管理対策を拡充するとともに、全職員の危機管理意識の向上に努めた。また、新型コロナウイルス感染症への対応、多摩動物公園における職員死亡事故を受けての再発防止対策について、引き続き最優先課題として取り組む。

（1）新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の対策については、当協会内に、令和2年2月4日付けで「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、東京都等からの情報収集、各園状況の把握、対応策の決定・指示等を迅速に実施した。

各園においては、園長の指揮のもと、職員の感染予防、体調把握、柔軟な勤務体制をはじめとする各種対策に努めるとともに、必要最小限の人数による作業体制を構築し、業務を遂行した。また、職員の感染及び濃厚接触者の発生を想定し、飼育職員以外の職員が作業を実施できるよう簡易な作業マニュアルを作成するなど、動物の生命を維持し続ける対策を講じた。

引き続き、協会をあげて新型コロナウイルス感染症対策に取り組む。

（2）職員死亡事故を受けた安全対策

令和元年8月25日に、多摩動物公園インドサイ舎において飼育職員の死亡事故が発生した。都立動物園では、東京都の直営であった平成17年以来の死亡事故となった。

今後、同じような事故を二度と起こさぬよう協会一丸となって取り組んでおり、現在、事故調査委員会の提言を踏まえ、現場の飼育職員を含めた動物事故再発防止ワーキンググループを設置し、飼育現場の安全対策について検討を進め、順次実施している。

具体的には、同場等の際の危険度に応じ、動物種をA、B、Cの3つのカテゴリーに分け、最も危険度の高いカテゴリーAについては同場禁止をルール化し、インドサイは同場禁止として運用を始めた。また、職員がどこでどのような作業を行っているかを把握するため、各職員が作業スケジュール表を作成し管理監督者が常に当日の作業状況を確認できるようにした。

さらに、全ての班において、毎日、動物情報、作業情報の共有に加え、安全管理に関する確認を含めた班ミーティングを実施している。

今後は、ハード対策として、同場禁止をルール化した動物種について飼育職員と動物とを物理的に遮蔽するなどの対策や、特定動物等の動物舎へのカメラモニターシステムや緊急通報装置の導入などを検討するとともに、ソフト対策として、リスクアセスメント（※）の手法を用いて現在の作業手順書を更新するほか、異動時の引継ぎのルール化、ヒヤリハット事例の収集・共有方法の見直しなどを行い、ソフト、ハード両面から飼育現場の安全対策を講じていく。

(3) 事業継続 (BCP) 計画

震災、テロ等の大規模災害の発生を想定し、備蓄品の確保やマニュアルを整備したほか、訓練を通して関連団体との連携を強化し災害対応力を向上させた。

令和元年度には震災対策訓練として各園及び総務部で初動対応訓練を実施したほか、恩賜上野動物園においては、地域の関係団体参加者約130名を来園者役として招き、震災を想定した初動対応避難誘導訓練を実施した。

また、東京2020大会の開催に向け対策を強化しているテロ対策として、警視庁との協働によるテロ対策訓練を恩賜上野動物園、多摩動物公園及び井の頭自然文化園において実施した。

	開催日	目的
第1回 震災対策 初動対応訓練	井の頭： 6/3 多摩： 6/26 葛西： 7/10 総務部： 10/21	災害対応力の向上を目的として実施 ・前年度の未達項目の解消を確認 ・初動対応及び災害対策本部運営の確認 ・関係団体との連携強化
参集訓練	総務部・4園： 11/19	参集経路の確認と参集者による災害対策本部立ち上げを実施
第2回 震災対策 初動対応訓練	葛西： 12/4	災害対応力の向上を目的として実施 ・前回の未達項目の解消を確認 ・初動対応及び災害対策本部運営の確認
地域連携震災対策初 動対応訓練	上野： 12/23	首都直下型地震を想定した実践的な避難誘導訓練の実施 ・初動対応及び災害対策本部運営の確認 ・地域団体との連携強化、防災意識向上
テロ対策訓練	上野： 7/22 井の頭： 12/9 多摩： 12/18	テロの発生抑止と対応力の向上を目的として実施 ・セキュリティ意識の向上 ・初動対応の確認 ・警察・関係団体との連携強化

(4) 災害対策

台風や大雨等の気象警報発令時等には、巡回点検や職員の事務所待機を行い災害時に備えるとともに、被害復旧対応を行った。

また、恩賜上野動物園において、地震発生によりカバ舎の擁壁が崩れ、カバ1頭が脱出したという想定により、動物脱出対策訓練を令和2年2月に実施した。訓練では、来園者の避難誘導・関係機関への通報・脱出動物の捕獲保護・AED（自動体外式除細動器）を使用した負傷者救護等を行った。

(5) 工事等安全講習会

事故防止のため、労働基準監督署より講師を招き講習会を開催し、園内で工事や作業を行う指定店事業者99社が参加した。また、園内樹木の倒木や落枝等による事故を未然に防ぐため(公財)東京都公園協会から講師を招き樹木点検員養成研修を行い、関係職員19名が参加した。

(6) 事故防止研修

実際に身近に起きた事故について現場検証を行い、事故発生の前後の状況や近因遠因を含め施設課全体会の中で説明と注意喚起を行った。また、4園で安全パトロールを実施、他園からパトロール員を選出し客観的な視点からチェックし各職員の安全知識の向上を図るとともに、必ず作業前にKY(危険予知)ミーティングを実施することで安全意識を習慣化した。

(7) 情報セキュリティ対策

巧妙化するサイバー攻撃への対応、個人情報を含む重要情報等の取り扱いを周知徹底するため、集合研修を行った。また、協会の管理するウェブサイトでサイバー攻撃を受けた場合を想定してサイバーセキュリティ机上訓練を行った。これにより初動対応及び連絡体制を確認した。

情報セキュリティ対策として、全職員及びパソコンを使用するアルバイト職員等を対象に情報セキュリティ自己点検、パソコン端末上の個人情報等の点検及び削除、標的型メール対策訓練、e-ラーニングを行った。

また、ファクシミリを誤った宛先に送信する事故の発生をうけて、人為的ミスを最小限にする事務機器への更新や不要な宛先データの消去などの徹底した再発防止策を実施した。

〔7〕 受託業務

1. 恩賜上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトに係る業務受託

東京都からの委託により、都と中国野生生物保護協会の間で締結された「ジャイアントパンダ保護研究実施の協力協定書」に基づく研究プロジェクトについて、恩賜上野動物園におけるジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトの進展状況報告書の作成や、中国側の保護資金の使用状況に関する調査を実施した。

項目	内容
件名	上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトに関わる業務委託
業務内容	「ジャイアントパンダ保護繁殖研究プロジェクト」の進展状況報告書の作成 中国側のパンダ保護資金の使用状況に関する調査
期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日
委託金額	4,192,560円

2. 恩賜上野動物園ジャイアントパンダ日中共同研究報告書作成に係る業務受託

東京都からの委託により、都と中国野生生物保護協会の間で締結された「ジャイアントパンダ保護研究実施の協力協定書」に基づく研究プロジェクトを総括する日中共同研究報告書を作成した。

項目	内容
件名	恩賜上野動物園ジャイアントパンダ日中共同研究報告書作成委託
業務内容	ジャイアントパンダ日中共同研究報告書の作成
期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日
委託金額	6,397,600円

3. 特別天然記念物トキの健康管理及び飼育指導に係る業務受託

新潟県からの委託により、佐渡市のトキ保護センター、野生復帰ステーションにおいてトキの定期検診及び飼育指導を行った。

項 目	内 容
件 名	特別天然記念物トキの健康管理及び飼育指導に関する業務委託
業 務 内 容	① 特別天然記念物トキの飼育・管理指導 ② 特別天然記念物トキの定期健康診断 ③ 特別天然記念物トキの疾病時における専門的治療 ④ 特別天然記念物トキの人工増殖の指導 ⑤ トキ類縁種の研究飼育指導
期 間	平成 31年 4月 1日 ～ 令和 2年 3月31日
委 託 金 額	900,670円

4. 大島公園動物園動物飼育管理業務委託

東京都大島支庁の委託により、大島公園動物園における展示動物の飼育管理やイベントの対応等を行った。

項 目	内 容
件 名	大島公園動物園動物飼育管理業務委託
業 務 内 容	大島公園動物園の展示動物の飼育及びこれに関する管理業務
期 間	平成 31年 4月 1日 ～ 令和 2年 3月31日
委 託 金 額	42,336,000円

第3 収 益 事 業

I. 事業総括

恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園の利用者の利便性と公益目的事業の充実のために、以下の事業を実施した。

事業区分	事業細目		
	園名	種別	箇所数
I. 便益施設の経営	(1) 恩賜上野動物園	(1) 売店	3
		(2) 飲食店	2
		(3) 臨時売店	4
		(4) 自動販売機コーナー	12
		(5) 写真(映像資料)貸出	1
		(6) ベビーカー貸出所	3
		(7) コインロッカー	2
		(8) フォトサービス	1
	(2) 多摩動物公園	(1) 売店	4
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	4
		(4) 自動販売機コーナー	13
		(5) ベビーカー貸出所	1
		(6) コインロッカー	1
		(7) ライオンバス	1
		(8) フォトサービス	1
(3) 葛西臨海水族園	(1) 売店	2	
	(2) 飲食店	1	
	(3) 臨時売店	1	
	(4) 自動販売機コーナー	3	
	(5) コインロッカー	2	
(4) 井の頭自然文化園	(1) 売店	2	
	(2) 臨時売店	1	
	(3) 自動販売機コーナー	3	
II. その他事業	(1) 恩賜上野動物園内広告事業(広告施設9箇所)		
	(2) 協賛金募集事業(ジャイアントパンダ保護サポート基金等)		

Ⅱ. 事業実績

〔1〕 便益施設等の経営

収益事業においては平成30年10月から施行された消費税増税及び軽減税率に対応するとともに、園内状況に応じた柔軟な店舗運営を実施した。各園の店舗では、賑わいの創出を目的とした夏の夜間開園、冬のVisitほっとZoo、周年事業など、季節や園内イベント・キャンペーンに合わせ、商品や飲食サービスの提供を行い、動物園の魅力の発信に貢献した。また、世界的に深刻な問題となっている海洋プラスチックごみ問題に対し、4園のフードショップ、ギフトショップでは、令和2年2月よりプラスチック製のストローやスプーン、ショッピングバッグなどを紙製や環境負荷の少ない製品に全面的に切り替え、使い捨てプラスチック製品の使用量削減に取り組みながら環境保全に向けた情報を積極的に発信した。

- 恩賜上野動物園では、ジャイアントパンダの仔（シャンシャン）の2歳記念商品や飲食メニューをはじめとする展示動物や園内イベントに関連した商品展開と店舗装飾を行った。また、フードショップ「さるやまキッチン」の営業を開始したほか、店舗と周辺環境の整備、改善を進めた。
- 多摩動物公園では、令和2年度のライオンバスの再開準備の一環として、ギフトショップ「コレクション」とフードショップ「ライオンカフェ」の店舗改修を実施した。
- 葛西臨海水族園では、開園30周年記念事業に連動した商品や飲食メニューの提供を行った。また、開園30周年記念事業の一環として、他の都立動物園に先駆け、開園記念日（10/10）より、一部を除いて使い捨てプラスチック製品の提供を終了した。
- 井の頭自然文化園では、近隣に在住する利用者の多い来園者特性を考慮するとともに、展示動物の魅力の発信につながるギフト商品、飲食メニューの提供を行った。
- その他のサービスとして、遠方に居住する動物園ファンのために協会の運営するネット通販サイト（Zoo Shop）で販売促進のための動物特集企画を通して、通信販売を積極的に展開した。

1. 施設及び収入額

(単位：千円)

園名	施設名	収入額
恩賜上野動物園	1. 1号売店（店名：リトルランク） 2. 4号売店（店名：カメレオン） 3. 東園中央広場売店（店名：バードソング） 4. 飲食店第1号（店名：さるやまキッチン） 5. 飲食店第2号（西園） 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. コインロッカー 10. フォトサービス 11. 写真（映像資料）貸出 12. その他	1,912,110

多摩動物公園 ※改修工事のため 閉鎖中	1. 2号売店 (コアラ館) 2. 3号売店 (店名:ライオンカフェ) 3. 4号売店 (店名:コレクション) 4. 5号売店 (店名:ズーカフェ) 5. 飲食店 (店名:サバンナキッチン) 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. ライオンバス※ 10. コインロッカー 11. フォトサービス 12. その他	448,515
葛西臨海水族園	1. 1号売店 (店名:アクアマリン) 2. 2号売店 (店名:アクアスケープ) 3. 飲食店 (店名:シーウィンド) 4. 自動販売機コーナー 5. コインロッカー 6. その他	493,240
井の頭自然文化園	1. 1号売店 (店名:はな子カフェ) 2. 2号売店 (店名:こもれび) 3. 自動販売機コーナー 4. その他	103,740
合 計		2,957,605

2. 商品取扱状況

(単位:点)

区 分		恩賜上野 動物園	多摩 動物公園	葛西 臨海水族園	井の頭 自然文化園
取扱商品数		1,183	1,303	1,376	222
内 訳	ギフトその他	1,015	1,237	124	124
	飲 食 品	288	139	98	98

〔2〕その他の事業

1. 恩賜上野動物園内広告事業

恩賜上野動物園の案内誘導サイン等の整備費用に充てるため、園内に設置した下記の広告掲示施設により、広告料金による民間からの資金を得た。

種 別	設 置 場 所	数 量
動物解説ボード	ジャイアントパンダ、ニホンザル、サイ、ゾウ、ゴリラ、ワシ・タカ、キリン・オカピ、ハシビロコウ	8 基
環境啓発ボード	モノレール東園駅前	1 基
収 入 額	4,681 千円	

2. 協賛金募集事業

ジャイアントパンダ保護サポート基金を活用した事業展開のため、園内メディアやイベントの協賛、園外でのロゴマーク協賛等を実施した。

収 入 額	5,078 千円
-------	----------

第4 決 算 概 要 (正味財産増減計算書)

(単位：千円)

科目	公益目的 事業会計	収益事業 会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	2,400	—	3,758	6,158
特定資産運用益	5	—	—	5
受取会費	7,894	—	—	7,894
事業収益	63,739	2,977,674	—	3,041,413
受取寄付金	24,435	—	—	24,435
受取委託料	5,865,921	—	206,020	6,071,941
雑収益	6,900	5,446	85	12,431
経常収益計	5,971,294	2,983,120	209,863	9,164,277
(2) 経常費用				
事業費	6,151,172	2,862,019	—	9,013,190
管理費	—	—	309,935	309,935
経常費用計	6,151,172	2,862,019	309,935	9,323,125
評価損益等	0	730	0	730
当期経常増減額	△179,877	121,831	△100,072	△158,118
2. 経常外増減の部				
経常外収益	8,562	16,207	3,745	28,514
経常外費用	0	334	31	365
当期経常外増減額	8,562	15,873	3,714	28,149
他会計振替額	66,000	△162,964	96,964	0
税引前当期一般正味財産額	△105,316	△25,260	606	△129,969
法人税等	—	220	—	220
法人税等調整額	—	12,172	—	12,172
当期一般正味財産増減額	△105,316	△37,651	606	△142,361
一般正味財産期首残高	326,792	1,499,170	320,776	2,146,738
一般正味財産期末残高	221,476	1,461,519	321,382	2,004,376
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金	76,097	0	0	76,097
一般正味財産への振替額	24,435	0	0	24,435
当期指定正味財産増減額	51,663	0	0	51,663
指定正味財産期首残高	170,238	0	0	170,238
指定正味財産期末残高	221,901	0	0	221,901
III 正味財産期末残高	443,377	1,461,519	321,382	2,226,277

第 5 事 務 報 告

I. 役員会議の開催

〔1〕 評議員会

回	開催月日	議 題
書面決議	5月8日	(1) 理事の選任の件 (2) 監事の選任の件
第1回	6月25日	(1) 平成30年度決算報告(案)について 監査報告 平成30年度事業報告について
書面決議	6月25日	(1) 理事の選任の件 (2) 常勤理事の報酬に関する規程の一部改正について (3) 常勤理事の報酬総額の変更について
書面決議	3月16日	(1) 理事の選任について (2) 常勤理事の報酬に関する規程の一部改正について (3) 常勤理事の報酬総額の変更について

〔2〕 理 事 会

回	開催月日	議 題
書面決議	5月1日	(1) 評議員会の開催について
第1回	6月4日	(2) 平成30年度事業報告(案)について (3) 平成30年度決算報告(案)について 監査報告 (4) 定時評議員会の開催について (5) 参与の委嘱及び報酬額について (6) 危機管理規程の一部改正について 理事長及び常務理事の職務状況報告 (公財)東京動物園協会の自己点検結果について
書面決議	6月24日	(1) 評議員会の開催について
第2回	6月28日	(1) 理事長の選定について (2) 常勤理事の報酬額について
書面決議	9月25日	(1) 確定給付企業年金規約の一部改正について

回	開催月日	議 題
書面決議	3月9日	(1) 評議員会の開催について
書面決議※	3月26日	(1) 令和2年度事業計画(案)について (2) 令和2年度収支予算(案)について (3) 資金調達及び設備投資の見込みについて (4) 常勤理事の報酬額の変更について (5) 常務理事の選定について (6) 第5号議案で選定した常務理事の報酬額について (7) 参与の委嘱及び報酬額について (8) 諸規定の制定及び一部改正について 理事長及び常務理事の職務状況報告 多摩動物公園インドサイ舎における職員死亡事故について

※令和2年3月26日に理事会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、会議の開催を中止し、書面決議による理事会を開催した。

〔3〕 評議員選定委員会

回	開催月日	議 題
第1回	5月14日	(1) 評議員の退任にともなう後任評議員の選任について
第2回	10月24日	(1) 評議員の退任にともなう後任評議員の選任について

II. 監 査

〔1〕 京橋監査法人与監査契約を締結し、公認会計士による会計帳簿・証憑書類の試査、実地棚卸立会、現金実査、銀行残高確認等の外部監査を実施した。

〔2〕 平成30年度の事業報告及び決算報告について、令和元年5月27日に監事による監査を実施した。

Ⅲ. 人事関係

〔1〕 就任・退任

① 評議員の就任

役職名	氏名	就任月日	摘要
評議員	今村保雄	5月15日	東京都建設局次長
〃	細谷しょうこ	10月24日	東京都議会環境・建設委員長

② 評議員の退任

役職名	氏名	退任月日	摘要
評議員	栗下善行	9月18日	東京都議会環境・建設委員長
〃	安藤元一	3月24日	ヤマザキ動物看護大学名誉教授（死去）
〃	細岡晃	3月31日	東京都西部公園緑地事務所長

③ 理事・監事の就任

役職名	氏名	就任月日	摘要
理事	古川浩二	5月10日	東京都建設局公園緑地部長
〃	杉崎智恵子	5月10日	東京都建設局総務部長
理事長	早川剛生	7月1日	東京都建設局理事

④ 理事の退任

役職名	氏名	退任月日	摘要
常務理事	熊倉伸一	3月31日	元(公財)東京動物園協会事業調整担当部長
理事	古川浩二	3月31日	東京都建設局公園緑地部長

⑤ 参与の就任

役職名	氏名	就任月日	摘要
参与	日橋一昭	7月1日	(公財)東京動物園協会総務部教育普及センター所長

⑥ 参与の退任

役職名	氏名	退任月日	摘要
参与	山下博史	3月31日	(公財)東京動物園協会総務部施設課長

〔2〕役員等名簿（令和2年3月31日現在）

○総 裁 常陸宮正仁親王

○会 長 貫 洞 哲 夫

（1）評 議 員

No.	氏 名	摘 要
1	林 良 博	国立科学博物館長
2	高 橋 茅 香 子	翻訳家
3	松 島 ト モ 子	俳優
4	内 山 晟	動物写真家
5	久 邦 彦	漫画家・絵本作家
6	海老名 香葉子	エッセイスト
7	遠 藤 秀 紀	東京大学総合研究博物館教授
8	今 泉 忠 明	日本ネコ科動物研究所長
9	林 公 義	前横須賀市自然・人文博物館長
10	三 浦 慎 悟	早稲田大学人間科学学術院名誉教授
11	打 越 綾 子	成城大学法学部教授
12	細 谷 し ょ う こ	東京都議会環境・建設委員会委員長
13	今 村 保 雄	東京都建設局次長
14	大 道 和 彦	東京都東部公園緑地事務所長
15	細 岡 晃	東京都西部公園緑地事務所長
16	佐 野 克 彦	公益財団法人東京都公園協会理事長

(2) 評議員選定委員会

No.	氏名	摘要
1	清水 眞澄	成城大学名誉教授・三井記念美術館館長
2	会田 保彦	ヤマザキ動物看護大学名誉教授
3	高橋 茅香子	翻訳家
4	木村 欣二	前あかつき証券株式会社顧問
5	宮本 均	公益財団法人東京動物園協会総務部長

(3) 理事・監事

No.	役職名	氏名	摘要
1	理事長	早川 剛生	東京都建設局理事
2	常務理事	日浦 憲造	前東京都建設局公園緑地部長
3	常務理事	熊倉 伸一	元公益財団法人東京動物園協会事業調整担当部長
4	理事	菅谷 博	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館名誉館長
5	〃	島津 久永	公益財団法人山階鳥類研究所顧問
6	〃	見城 美枝子	青森大学副学長、エッセイスト
7	〃	長谷川 寿一	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事
8	〃	西 源二郎	東海大学海洋学部客員教授
9	〃	加藤 奂	京王電鉄株式会社相談役
10	〃	鷲谷 いづみ	中央大学理工学部教授
11	〃	村井 良子	有限会社プランニング・ラボ代表取締役
12	〃	古川 浩二	東京都建設局公園緑地部長
1	監事	木村 欣二	前あかつき証券株式会社顧問
2	〃	須賀 光一	上野のれん会会長
3	〃	杉崎 智恵子	東京都建設局総務部長

(4) 参 与

No.	氏 名	摘 要
1	山 下 博 史	(公財)東京動物園協会総務部施設課長
2	日 橋 一 昭	(公財)東京動物園協会総務部教育普及センター所長

(5) 顧 問

No.	氏 名	摘 要
1	小 池 百 合 子	東京都知事
2	石 内 展 行	元財団法人東京動物園協会理事長
3	浅 倉 繁 春	元財団法人東京動物園協会理事長
4	矢 島 稔	元財団法人東京動物園協会理事長
5	齋 藤 勝	元財団法人東京動物園協会理事長
6	浅 倉 義 信	元公益財団法人東京動物園協会理事長
7	藤 井 芳 弘	元公益財団法人東京動物園協会理事長
8	羽 仁 進	元公益財団法人東京動物園協会理事

(6) 正会員

〔賛助会員〕 上 田 浩 上 田 憲 治 上 田 清 一 関 齋

〔特別会員〕 篠 永 哲

Ⅲ. 組 織 概 要

〔1〕 協会の機構

○ 総 裁 常陸宮正仁親王

○ 会 長 貫 洞 哲 夫

機関名	名 称	人数等	摘 要
1. 議決・監督 機関	評 議 員 会	16 名	
2. 執 行 機 関	理 事 会	12 名	理事長・常務理事を含む
	理 事 長	1 名	
	常 務 理 事	2 名	
	参 与	2 名	
	事 務 局	4 部 14 課 48 係	
3. 諮 問 機 関	顧 問	8 名	
4. 監 査 機 関	監 事	3 名	
5. 協 力 機 関	賛 助 会 員	4 名	
	特 別 会 員	1 名	
	準 会 員	3,570 名	東京動物園友の会会員

(令和2年3月31日現在)

[3] 事務局職員数

(単位：人)

固有職員			都派遣職員			合 計		
職 員	嘱託員	計	職 員	再雇用	計	職 員	嘱託員 再雇用	合 計
206	138	344	103	0	103	309	138	447

(令和2年3月31日現在)